

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列					
国立文楽劇場	731～753	【中】	サンシャイン劇場	832	【中】
国立能楽堂	627	【中】	シアターコクーン	747	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	PARCO劇場	636	【中】
歌舞伎座	1,808	【大】	天王洲銀河劇場	746	【中】
大劇場演劇系列			東京グローブ座	595～713	【中】
新橋演舞場	1,428	【大】	スペース・ゼロ	575	【中】
明治座	1,368	【大】	シアター・ドラマシティ	898	【中】
THEATER MILANO-Za	907	【大】	現代演劇系列Ⅲ		
御園座	1,299	【大】	紀伊國屋ホール	418	【小】
京都南座	1,086	【大】	紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	博品館劇場	381	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	俳優座劇場	300	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	本多劇場	386	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			ザ・スズナリ	200	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	OFF・OFFシアター	100	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	下北沢「劇」小劇場	130	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	シアター・モリエール	186	【小】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	シアター・サンモール	294	【小】
東京建物Brillia HALL	1,300	【大】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	吉祥寺シアター	189	【小】
シアターラム	240	【小】	THEATRE E9 KYOTO	89	【小】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	近鉄アート館	322	【小】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	ミュージカル演劇系列		
ピッコシアター(大)	396	【小】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
兵庫県立芸術文化センター(大)	2,001	【大】	日生劇場	1,330	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	帝国劇場	1,826	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	東急シアターオーブ	1,972	【大】
座・高門寺1	238	【小】	宝塚大劇場	2,550	【大】
座・高門寺2	256～298	【小】	東京宝塚劇場	2,079	【大】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	宝塚バウホール	526	【中】
まつもと市民芸術館(主)	1,800	【大】	四季劇場「春」	約1,500	【大】
穂の国とよはし芸術劇場	778	【中】	四季劇場「秋」	約1,200	【大】
新潟市民芸術文化会館	868	【中】	電通四季劇場「海」	約1,200	【大】
ロームシアター(メイン)	2,003	【大】	有明四季劇場	約1,200	【大】
北九州芸術劇場(大)	1,269	【大】	自由劇場	約500	【中】
現代演劇系列Ⅱ			大阪四季劇場	約1,200	【大】
京都芸術劇場 春秋座	833～950	【中】	チャンネルシティ劇場	1,144	【大】
シアタークリエ	611	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
三越劇場	543	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 御園座 南座 松竹座 新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場 紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX 本多劇場 シアターサンモール

令和7年 演劇賞 関係各賞受賞者

※2025年(令和7年)2月初旬頃～2026年(令和8年)2月中旬頃に発表されたものを記載

※演劇関係者のみ記載、順不同・敬称略

【令和7年度 文化勲章・文化功労者】

～文化勲章～

王貞治(スポーツ振興)、片岡仁左衛門(歌舞伎)、小松和彦(民俗学)、コシノジュンコ(デザインその他)

～文化功労者～

柳家さん喬(落語家)、水村美苗(小説家・評論家)、竹宮恵子(漫画家)、田中泯(舞踏家)、野沢雅子(声優)、新内仲三郎(新内節三味線演奏家)、野田秀樹(劇作家)

【令和7年 春の叙勲・褒章】

～叙勲～

◆**旭日中綬章**＝大石幼一(元NHKテレビ社長)、皆川博子(小説家)、ケント・ジョージ・ナガノ(ハンブルグ州立歌劇場及びハンブルグ・フィルハーモニー管弦楽団総合音楽監督)

◆**旭日小綬章**＝戸田奈津子(映画字幕翻訳者)、宮園千佳寿弥(宮園節三味線演奏家)、五街道雲助(落語家)、茂山七五三(能楽師 狂言方大蔵流)、土井雅人(元テレビせとうち(新社長)、ヴィム・ヴェンダース(映画監督)

◆**旭日双光章**＝中村邦生(能楽師 シテ方喜多流)、清元梅寿太夫(清元節太夫)、吉住小三代(長唄三味線演奏家)、新城寛三(八重山古典民謡三線演奏家)、チョウ・シュウゲン(張昌彦 日本映画評論家・翻訳家)

～褒章～

◆**紫綬褒章**＝柳亭市馬(落語家)、近藤良平(舞踊家・振付家)、柴崎幸三(撮影監督)、杵屋勝四郎(長唄唄方)

【令和7年 秋の叙勲・褒章】

～叙勲～

◆**旭日中綬章**＝茂木七左衛門(元独立行政法人日本芸術文化振興会理事長)、津村節子(小説家)

◆**旭日小綬章**＝永井豪(漫画家)、富山清琴(地歌演奏家)、堀井雄二(ゲーム作家)

◆**旭日双光章**＝杵家弥七(長唄三味線演奏家)、清元志寿子太夫(清元節太夫)、西岡文夫(甲冑修理技術者)、野里葉子(琉球古典箏曲演奏家)

◆**瑞宝小綬章**＝武田孝史(能楽師シテ方宝生流、東京芸術大学名誉教授)

◆**瑞宝双光章**＝東儀博昭(元宮内庁式部職楽部首席楽長)

～外国人叙勲～

◆**旭日小綬章**＝ラナ・ゴゴベリゼ(映画監督)、オウ

ズ・バイカラ(日本文学翻訳家)

◆**旭日双光章**＝アスキヤリ・パシヤイ(翻訳家)

～褒章～

◆**黄綬褒章**＝小池学(歌舞伎小道具製作技術者)、岡本義秀(人形浄瑠璃文楽小道具製作技術者)

◆**紫綬褒章**＝福原徹(邦楽囃子笛方)、宮藤官九郎(脚本家)、阪本順治(映画監督)、二村周作(舞台美術家)

【第36回高松宮殿下記念世界文化賞】

◆**演劇・映像部門**＝アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル(振付家・ダンサー、ダンス・カンパニー「ローザス」芸術監督)

◆**第28回若手芸術家奨励制度 対象団体**＝ナショナル・ユース・シアター(英)

【令和7年度外務大臣表彰】

ヴェルゲルス佐藤重貴(箏・三味線奏者、諸外国における日本文化の普及)、上岡敏之(コペンハーゲン・フィル名誉指揮者、音楽を通じた文化交流の促進)、渡佐裕(トーンキュラーストラ管弦楽団音楽監督、音楽を通じて日本とオーストリアとの文化交流の促進)、西川扇夢二(日本舞踊家、ドイツにおける日本文化の普及)

【文化庁 令和6年度(第75回)芸術選奨】

～演劇部門～

◆**文部科学大臣賞**＝浅野和之(俳優:「What If Only ーもしも もしせめて」リア王」の成果)、坂東彌十郎(歌舞伎俳優:「髪結新三」家主長兵衛ほかの成果)

◆**文部科学新人賞**＝江口のりこ(俳優:「ワタシタチはモノガタリ」リア王」の成果)、藤田俊太郎(演出家:「リア王の悲劇」VIOLET」の成果)

～映画部門～

◆**文部科学大臣賞**＝石井岳龍(映画監督:「箱男」の成果ほか)、土井敏邦(映画監督:「津島 福島は語る」第二章」の成果)

◆**文部科学新人賞**＝河合優実(俳優:「ナミビアの砂漠」あんのこと」ほかの成果)、三宅唱(映画監督・脚本家:「夜明けのすべて」の成果)

～音楽部門～

◆**文部科学大臣賞**＝岡村慎太郎(地歌箏曲演奏家:「岡村慎太郎 地唄箏曲演奏会」ほかの成果)、阪哲朗(指揮者:「ぼらの騎士」ほかの成果)

◆**文部科学新人賞**＝長谷川将山(都山流尺八演奏家：「B→C 264 長谷川将山(尺八)」の成果)

～舞踊部門～

◆**文部科学大臣賞**＝尾上紫(日本舞踊家：「第7回尾上紫リサイタル～花～」の成果)、柄本弾(バレエダンサー：「ザ・カブキ」「ロミオとジュリエット」ほかの成果)

◆**文部科学新人賞**＝スズキ拓朗(振付家・ダンサー・演出家：おどるシェイクスピア「PLAY!!!!」～夏の夜の夢～)ほかの成果)、中村鷹之資(歌舞伎俳優・日本舞踊家：「第九回翔之會」の成果)

～メディア芸術部門～

◆**文部科学大臣賞**＝青山剛昌(漫画家：「名探偵コナン」の成果)

◆**文部科学新人賞**＝押山清高(アニメーター・アニメーション監督：映画「ルックバック」の成果)

～放送部門～

◆**文部科学大臣賞**＝阿部サダヲ(俳優：「不適切にもほがある！」の成果)

～大衆芸能部門～

◆**文部科学大臣賞**＝立川談春(落語家：「芸歴40周年記念興行 立川談春独演会」ほかの成果)、柳家喬太郎(落語家：「喬太郎企画ネタ尽きました、お客様決めてください」ほかの成果)

～芸術振興部門～

◆**文部科学大臣賞**＝丸岡ひろみ(横浜国際舞台芸術ミーティングディレクター：「横浜国際舞台芸術ミーティング2024」ほかの成果)

【令和7年度文化庁長官表彰】

◆**特別表彰**＝THE ALFEE(ロックバンド)、鈴鹿且久(公益財団法人京都伝統伎芸振興財団理事長)、千住明(作曲家・編曲家・プロデューサー)、バロン吉元(漫画家・画家)

◆**長官表彰**＝新城清弘(琉球古典音楽胡弓演奏家)、上原綾子(琉球箏曲演奏家)、薄崇雄(公益社団法人日本舞台音楽協会理事)、田中長十郎(歌舞伎囃子方)、川上皓市(撮影監督)、川瀬眞由美(株式会社テレビ朝日朝日アスク取締役)、黒崎八重子(一般社団法人もんでん代表理事)、柳家小さん(一般社団法人落語協会常任理事)、小森昭義(箏製作者)、坂本順子(坂本バレエスタジオ代表)、高柴秀樹(日本青少年音楽芸能協会副理事長)、高橋良輔(アニメーション監督)、高間浩(歌舞伎小道具方)、千田敬(一般社団法人日本劇場技術者連盟理事)、橋本一弘(三味線皮製作者)、清元紫葉(清元節三味線演奏家)、三谷恭三(一般財団法人牧阿佐美バレエ団芸術監督)、三宅右近(音楽師 狂言方と泉流)、村井邦彦(作曲家・プロデューサー)、三遊亭竜楽(落語家)、若柳宗樹(公益社団法人日本舞踊協会名誉顧問)、山本能久(音響家)、湯澤薫(照明家)、吉角荘介(日本映画テレビ照明協

会副会長)

【文化庁 令和7年度地域文化功労者表彰】

布施祐一郎(元 静岡県演劇協会会長・前 劇団からつかぜ代表)、杵屋六秋(長唄・唄方)、たかべしげこ(俳優)、森浩一(狂言師)、端田宏三(俳優・元 大阪放送劇団代表)、宮城康明(沖縄伝統音楽三線実演家)

【こども家庭庁 令和7年度児童福祉文化賞】

～舞台芸術部門～

「クモぼんぼとぎんのくつした」

～特別部門～

黒柳徹子(放送メディアを通じて児童福祉文化の向上に貢献してきた活動)

【CJPFアワード2025】

～ムービー部門～

◆**グランプリ**＝金春流能楽師：山井綱雄「The Heart of Noh —English Edition—」

【令和6年度 日本芸術院 恩賜賞・日本芸術院賞】

～第二部～

◆**恩賜賞**＝川上弘美(小説)

～第三部～

◆**恩賜賞**＝吉田和生(文楽)

◆**日本芸術院賞**＝梅若紀彰(能楽)、尾上松緑(歌舞伎・日本舞踊)

【令和6年度日本芸術院会員】

～第二部～

多和田葉子(小説・戯曲)

～第三部～

中村魁春(歌舞伎)、桐竹勘十郎(文楽)、野田秀樹(演劇)、橋爪功(演劇)、富野由悠季(映画)、倍賞千恵子(映画)

【令和6年度(第44回)国立劇場文楽賞】

◆**大賞**＝竹本千歳太夫

◆**優秀賞**＝鶴澤清介、吉田一輔

◆**奨励賞**＝豊竹芳穂太夫、吉田玉勢

◆**特別賞**＝吉田襄助

【令和6年度文楽協会賞】

竹本小住太夫、鶴澤清公、桐竹勘次郎、桐竹勘介

【第47回松尾芸能賞】

◆**大賞**＝小池修一郎(演劇)

◆**優秀賞**＝戸田恵子(演劇)、曾我廼家寛太郎(演劇)、西川扇藏(舞踊)、藤舎貴生(邦楽)

- ◆新人賞＝中村鷹之資(演劇)
- ◆特別賞＝加藤登紀子(歌謡)、谷口裕和(舞踊)

【令和7年度 第45回伝統文化ボーラ賞】

奥山益勢(山田流箏曲の演奏・伝承)

【観世寿夫記念法政大学能楽賞】

- ◆第46回能楽賞＝清水寛二(観世流シテ方)、金井雄資(宝生流シテ方)
- ◆第34回催花賞＝善竹十郎(大蔵流狂言方)
- ◆第47回能楽賞＝Richard Emmert(能楽演出家)、成田達志(幸流小鼓方)
- ◆第35回催花賞＝見市泰明(能面打)

【第50回(2024年度)菊田一夫演劇賞】

- ◆演劇大賞＝栗山民也(「オーランド」「ファンレター」をはじめとする今年度の演出の成果に対して)
- ◆演劇賞＝明日海りお(「王様と私」アンナ役、「昭和元祿落語心中」みよ吉役の演技に対して)、長澤まさみ(「正三角関係」唐松在良／グルーシェニカ役の演技に対して)、甲斐翔真(「ムーラン・ルージュ!ザ・ミュージカル」クリスチャン役、「ネクスト・トゥ・ノーマル」ゲイブ役の演技に対して)、上田一豪(「この世界の片隅に」「HERO THE MUSICAL」の演出の成果に対して)
- ◆特別賞＝伊藤四朗(永年の舞台における功績に対して)、林与一(永年の舞台における功績に対して)

【第60回紀伊國屋演劇賞】

- ◆団体賞＝劇団扉座(「北齋ばあさん〜珍道中・神奈川沖浪裏〜」「つか版・忠臣蔵2025」の優れた舞台成果に対して)
- ◆個人賞＝日色ともゑ(劇団民藝公演「八月の鯨」におけるサラ、KEIKOBA「記憶の危うさについて」におけるレオノーラの演技に対して)、竹中直人(キューブ企画製作「竹生企画」公演「マイクロバスと安定」における成清圭吾の演技に対して)、片桐はいり(Shakespeare's Wild Sisters Group×庭劇団ベニノ公演「誠實浴池 せいじつよくじょう」における女1、ヌトミック公演「彼方の島たちの話」におけるエイコの演技に対して)、杉山至(名取事務所公演「砂漠のノーマ・ジーン」、劇団俳優座公演「存在証明」の舞台美術に対して)、安井順平(イクウメ公演「ずれる」における小山田輝、KAAT神奈川芸術劇場プロデュース「最後のドン・キホーテTHE LAST REMAKE of Don Quixote」における俳優1ほかの演技に対して)
- ◆特別賞＝美輪明宏(「演劇実験室◎天井桟敷」旗揚公演から「毛皮のマリー」「双頭の鷲」「黒蜥蜴」の主演など、長年にわたる舞台芸術への功績に対して)、井上麻矢(井上ひさしの優れた戯曲を継承し、長年にわたって公演しつづける功績に対して)

【第32回読売演劇大賞】

- ◆大賞＝木場勝己

【第33回読売演劇大賞】

- ◆最優秀作品賞＝「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」
- ◆最優秀演出家賞＝稲葉賀恵(「リタの教育」「オレアナ」「Downstate」)
- ◆最優秀男優賞＝亀田佳明(「ボルノグラフィノレイジ」「狩場の悲劇」の演技)
- ◆最優秀女優賞＝望海風斗(「マスタークラス」「エリザベート」の演技)
- ◆最優秀スタッフ賞＝長田佳代子(「ガマ」「みんな鳥になって」「WAR BRIDEーアメリカと日本の架け橋 桂子・ハーンー」の美術)
- ◆杉村春子賞＝尾上右近(「春興鏡獅子」「盲目の弟」「義経千本桜」の演技)
- ◆芸術栄誉賞＝片岡仁左衛門(歌舞伎三大名作「仮名手本忠臣蔵」「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」の演技と、長年にわたる歌舞伎界への貢献)
- ◆選考委員特別賞＝大倉孝二(「最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote」の演技)

【第67回毎日芸術賞】

鄭義信(「焼肉ドラゴン」「泣くロミオと怒るジュリエット2025」などの作・演出)

【第76回(2024年度)日本放送協会文化賞】

井上由美子(脚本家)、片岡仁左衛門(歌舞伎俳優)、中島みゆき(シンガーソングライター)、野村万作(狂言師)

【第77回(2025年度)日本放送協会文化賞】

桂文珍(落語家)、里見浩太朗(俳優・歌手)、野沢雅子(声優)、松任谷由実(シンガーソングライター)

【第2回日本みどりのゆび舞台芸術賞】

- ◆大賞＝該当なし
- ◆HOPE賞＝劇団野らぼう、ホエイ
- ◆選考委員賞＝弦巻楽団、あやめ十八番、コンプソングズ、PANCETTA、理性的な変人たち、

【第13回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞】

赤堀雅秋プロデュース「震度3」

【第73回菊池寛賞】

宮本輝(小説家)、映画「国宝」製作チーム

【令和7年度 大谷竹次郎賞】

「木挽町のあだ討ち」(原作=永井紗耶子「木挽町のあだ討ち」新潮社刊 脚本・演出=齋藤雅文)、「歌舞伎 刀剣乱舞 東鑑雪魔縁」(原案=「刀剣乱舞 ONLINE」より(DMM GAMES/NITRO PLUS) 脚本=松岡亮 演出=尾上菊之丞 演出=尾上松也)

【第14回岩谷時子賞】

◆岩谷時子賞=さだまさし(シンガーソングライター・小説家)

◆岩谷時子特別賞=島田歌徳様(俳優・歌手)

◆岩谷時子賞奨励賞=エヴァー・アンダーソン(俳優)

【第43回向田邦子賞】

兵頭るり(テレビ朝日系連続ドラマ「マイダイアリー」)

【第17回伊丹十三賞】

山田五郎(編集者・評論家)

【第69回岸田國士戯曲賞】

安藤奎「歩かなくても棒に当たる」

笠木泉「海まで100年」

【第70回岸田國士戯曲賞】

大石恵美「よだれ観覧車」

蓮見翔「ロマンス」

【「日本の劇」戯曲賞2025】

◆最優秀賞=三上玲「残像を揃って」

【第31回劇作家協会新人戯曲賞】

◆新人戯曲賞=霧島ロック「うすらひの下に、いる」

◆佳作=新宮虎太郎「生まれる！」

【第29回鶴屋南北戯曲賞】

ピンク地底人3号「明日を落としても」

【第32回OMS戯曲賞】

◆大賞=中辻英恵「初心者のための永遠」

◆佳作=竹田モモコ「川にはとうぜんはしがある」

【第11回希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」】

◆大賞=私道かび「かいころく 一工女編一」

◆優秀賞=石崎竜史「長い正月」、鈴木アツト「みえないいくに」

【第18回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

土器屋利行(ミュージカル「SIX」日本キャスト版、ミュージカル「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の翻訳・訳詞

に対して)、大谷賢治郎(「I, Daniel Blake—わたしは、ダニエル・ブレイク」の翻訳に対して)、舞台「マスタークラス」(作=テレンス・マクナリー 翻訳=黒田絵美子)、舞台「トップ・ガールズ」(作=キャリル・チャーテル 翻訳=常田景子)

【若手演出家コンクール2025】

◆最優秀賞=駒和樹(世界平和書店)

【第31回ニッセイ・バックステージ賞】

中村洋一(衣裳着付け)、松本邦彦(舞台美術背景)

【第44回日本照明家協会賞】

～舞台部門～

◆文部科学大臣賞・大賞=紫藤正樹(劇団四季)

◆優秀賞=三重野美由紀(一般社団法人 わらび座)、本田祐介(株式会社アカリセンター)、石田光羽、棚原栄作(株式会社エムエルスタジオ)

◆新人賞=本田祐介(株式会社アカリセンター)、光實亜衣(有限会社スペース・アート)、桑野麻由(有限会社ファインサウンド)

◆奨励賞=児山徹(一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団)、照井晨市(オールステージカンパニー株式会社)、斎藤環江(有限会社ライティングケン)、稲葉直人(株式会社アート・ステージライティング・グループ)、吉田一弥、須賀智己(株式会社GLORY CREATION)、古川博(株式会社ホタルギグ)、大山輝満(雷神)、森田智子(JellyBeans)

◆努力賞=鈴木武人(公益財団法人新国立劇場運営財団)、佐野道洋(有限会社デザイナーズユニオン)、村瀬満佐夫

◆スタッフ賞=福島由希子・荒牧奏絵・目崎花奈・吉岡里沙・門脇はるか・奥野瑞帆・恩田桃花・大島沙月・田中美佑(劇団四季)

【第53回日本新劇製作協会賞】

富樫要(全国演鑑連事務局)

【第30回AICT演劇評論賞】

日比野啓「喜劇」の誕生—評伝・曾我廼家五郎」(白水社)

【第37回池袋演劇祭】

◆大賞=ラビット番長「成り果て」

◆優秀賞=THEATER MOMENTS「遣すモノ～植山節考より～、チーム・クレセント「わたしのこえがきこえますか」

◆豊島区長賞=ミズタニ会議「クロスワード」

◆舞台芸術振興会賞=あやめ十八番「草創記 金鶏一

番花」

- ◆**みらい館大明賞**＝虚空旅団「Vice Training 2025」
- ◆**豊島区町会連合会会長賞**＝株式会社Ask「麦のバッキヤロー!!」
- ◆**豊島区観光協会賞**＝劇団東俳「華と残響」
- ◆**豊島新聞社賞**＝ミュージカル「命日オプシオン」2025
- ◆**としまテレビ賞**＝イルカ団!!「C.R.E.A.M.!!!!」
- ◆**三浦大四郎記念賞**＝劇団アルオレ!「神様のいうとおり。」
- ◆**マイムきらめき賞**＝演劇集団・東京ストーリーテラー「よく喋るマダム達は、パクチャーより食えない」
- ◆**マイムいるどり賞**＝西小村久府清座「イワオンー人芝居～令和に考える平和～」
- ◆**舞台芸術学院奨励賞**＝中野亜美(あやめ十八番)

【グリーンフェスタ2025】

- ◆**グリーンフェスタ賞**＝劇団金馬車「幻滅」
- ◆**優秀賞**＝劇団アルファー「爺さんの空」、時代絵巻AsH「蒼穹 ～そうきゅう～」

【第42回浅草芸能大賞】

- ◆**奨励賞**＝安達祐実(俳優)

【第15回せんがわ劇場演劇コンクール】

- ◆**グランプリ**＝7度「いつか来る、わたしの埋葬のためのレクチャー」
- ◆**オーディエンス賞**＝劇団不労社「サイキック・サイファー」
- ◆**俳優賞**＝山口真由(7度「いつか来る、わたしの埋葬のためのレクチャー」)
- ◆**劇作家賞**＝南野詩恵(お寿司「おすしえジプト」)
- ◆**演出家賞**＝伊藤全記(7度「いつか来る、わたしの埋葬のためのレクチャー」)

【CoRich舞台芸術まつり！2025春】

- ◆**グランプリ**＝ウンゲツィーファ「湿ったインテリア」
- ◆**準グランプリ**＝南極「wowの熱」
- ◆**演技賞**＝上松知史(劇団UZ「牧神の星」)、小林冴季子(世界劇団「零れ落ちて、朝」)、花屋敷鴨(コトリ会議「おかえりなさせませんなさい」)、松田弘子(ウンゲツィーファ「湿ったインテリア」)、松永玲子(ムシラセ「なんかの味」)
- ◆**制作賞**＝劇団UZ「牧神の星」
- ◆**最多クチコミ賞**＝ムシラセ「なんかの味」

【第3回カンゲキ大賞】

Office8次元プロデュース公演「春鶯囀」

【PAA2025 かながわパフォーミングアーツアワード】

- ◆**グランプリ**＝エンニューイ「きく」
- ◆**MVP**＝竹中香子(一般社団法人ハイドロプラスト「『ケアと演技』かながわPAAバージョン」作・構成)
- ◆**オーディエンス賞**＝Chapter「Pick, Pack, Paste.」

【第3回(2024)関西えんげき大賞】

- ◆**最優秀作品賞**＝コトリ会議「おかえりなさせませんなさい」
- ◆**観客投票ベストワン賞**＝コトリ会議「おかえりなさせませんなさい」
- ◆**優秀作品賞**＝A級MissingLink「富山アンダーグラウンド」、くじら企画「流浪の手記」、劇団大阪「親の顔が見たい」、劇団太陽族「迷宮巡礼」、虚空旅団「ゆうまぐれ、龍のひげ」、サファリ・P「悪童日記」、万博設計「夏の時間」、兵庫県立ピッコロ劇団「宇宙に缶詰」、ブルーエゴナク「たしかめようのない」
- ◆**ネクストドア賞**＝小沢佑太(CLOUD9代表)

【第27回関西現代演劇俳優賞】

佐々木ヤス子(サファリ・P)、千田訓子(万博設計)

【2024年度関西俳優協議会新人育成事業・最優秀新人賞】

村尾保乃花(関西芸術座)、枯木隆志(劇団五期会)、中村恵美子(大阪放送劇団)

【令和7年度 東京都名誉都民顕彰】

草笛光子(俳優)、戸田奈津子(字幕翻訳家・通訳者)

【令和7年度(第74回)神奈川文化賞】

- ◆**神奈川文化賞**＝野沢雅子(声優)
- ◆**神奈川文化賞未来賞**＝吉田恵里香(脚本家・小説家)

【第5回名古屋女性演劇賞】

堀優子(俳優・劇団劇座)

【第6回名古屋女性演劇賞】

ニノキノコスター(演出家・劇作家・劇団オレンヂスタ)

【令和7年度 第41回芸術創造賞】

内藤飛能(能楽シテ方)

【2024年度 名古屋演劇ペンクラブ賞】

劇団四季ミュージカル「バケモノの子」、市川團子(歌舞伎俳優)、いのこ福代(俳優・演劇プロデュー

サー)、榎原忠美(俳優)

【2025年度 名古屋演劇ペンクラブ賞】

八代目尾上菊五郎(歌舞伎俳優)、六代目尾上菊之助(歌舞伎俳優)、田中峰子(俳優)

【令和7年度 京都市文化功労者】

中村鷹治郎(歌舞伎俳優)

【令和6(2024)年度 大阪文化祭賞】

◆大阪文化祭賞＝竹本千歳太夫(11月文楽公演 仮名手本忠臣蔵「祇園一力茶屋の段」の成果)

◆奨励賞＝片岡千次郎(第9回あべの歌舞伎 晴の会「伊賀越道中双六」の成果)、A級MissingLink「富士山アンダーグラウンド」の舞台の成果)、ばぶれるりぐる(「川にはとうぜんはしがある」の舞台の成果)、「さすらうこえ__さすらうからだ」メンバーズ(「さすらうこえ__さすらうからだ」の成果)

【令和7年 大阪府憲法記念日知事表彰】

澳利子(一般社団法人劇団コーロ代表理事)、片岡恒子(洋舞家)、金春穂高(能楽師 シテ方金春流)、春野一(浪曲師)、宮崎美智代(大阪劇団協議会 事務局長)

【令和7年度 咲くやこの花賞】

～演劇・舞踊部門～

竹本碩太夫(文楽・太夫)

【第60回大阪市民表彰】

～文化功労部門～

岡本義秀(文楽背景画製作)、九鬼葉子(演劇評論家)、豊澤富助(人形浄瑠璃文楽三味線)、藤山直美(俳優)

【令和7年度兵庫県文化賞】

いいむろなおき(マイム俳優、演出家、振付家)、上田拓司(能楽師)、やなぎみわ(美術家、舞台演出家)

【令和6年度(第47回)姫路市芸術文化賞】

◆芸術文化奨励賞＝吉田玉勢

【ローレンス・オリヴィエ賞2025】

(授賞式：現地時間2025年4月6日)

～演劇部門～

◆最優秀作品賞＝「Giant」

◆最優秀リバイバル作品賞＝「Oedipus」

◆最優秀主演男優賞＝John Lithgow「Giant」

◆最優秀主演女優賞＝Lesley Manville「Oedipus」

◆最優秀助演男優賞＝Elliot Levey「Giant」

◆最優秀助演女優賞＝Romola Garai「The Years」

～ミュージカル部門～

◆最優秀作品賞＝「The Curious Case Of Benjamin in Button」

◆最優秀リバイバル作品賞＝「Fiddler On The Roof」

◆最優秀主演男優賞＝John Dagleish「The Curious Case Of Benjamin Button」

◆最優秀主演女優賞＝Imelda Staunton「Hello, Dolly!」

◆最優秀助演男優賞＝Layton Williams「Titanique」

◆最優秀助演女優賞＝Maimuna Memon「Natasha, Pierre & The Great Comet Of 1812」

◆Outstanding Musical Contribution＝Darr en Clark for Music Supervision, Orchestrations & Arrangements and Mark Aspinall for Musical Direction, Music Supervision, Orchestrations & Arrangements

～共通部門～

◆最優秀演出賞＝Eline Arbo「The Years」

◆最優秀エンターテインメント/コメディ賞＝「Tit anique」

◆最優秀セットデザイン賞＝Tom Scutt for Set Design「Fiddler On The Roof」

◆最優秀照明デザイン賞＝Paule Constable & Ben Jacobs「Oliver!」

◆最優秀衣裳デザイン賞＝Gabriella Slade「Starlight Express」

◆最優秀音響デザイン賞＝Nick Lidster「Fiddler On The Roof」

◆最優秀振付賞＝Christopher Wheeldon「MJ The Musical」

～その他～

◆Best New Production Affiliate Theater＝「Boys On The Verge Of Tears」

◆Best Family Show＝「Brainiac Live」

◆Best New Opera Production＝「Festen」by The Royal Opera

◆Outstanding Achievement Opera＝Allan Clayton for his performance in Festen

◆Best New Dance Production＝「Assembly Hall」by Kidd Pivot, Crystal Pite & Jonathon Young

◆Outstanding Achievement Dance＝Eva Yerbabuena for her performance in Yerbaguena

【第78回トニー賞】

(授賞式：現地時間2025年6月8日)

～ミュージカル部門～

◆最優秀作品賞＝「メイビー、ハッピーエンディング」

グ

- ◆最優秀リバイバル作品賞＝「サンセット大通り」
- ◆最優秀主演男優賞＝ダレン・クリス「メイビー、ハッピーエンディング」
- ◆最優秀主演女優賞＝ニコール・シャージンガー「サンセット大通り」
- ◆最優秀助演男優賞＝ジャック・マローン「オペレーション・ミンスミート」
- ◆最優秀助演女優賞＝ナタリー・ベネチア・ベルコン「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」
- ◆最優秀演出賞＝マイケル・アーデン「メイビー、ハッピーエンディング」
- ◆最優秀脚本賞＝ウィル・アロンソン & ヒュー・パーク「メイビー、ハッピーエンディング」
- ◆最優秀装置デザイン賞＝デイン・ラフリー & ジョージ・リーヴ「メイビー、ハッピーエンディング」
- ◆最優秀衣装デザイン賞＝ポール・タズウェル「永遠に美しく…」
- ◆最優秀照明デザイン賞＝ジャック・ノウルズ「サンセット大通り」
- ◆最優秀音響デザイン賞＝ジョナサン・ディーンズ「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」
- ～演劇部門～
- ◆最優秀作品賞＝「パーパス」
- ◆最優秀リバイバル作品賞＝「ユーレカ・デイ」
- ◆最優秀主演男優賞＝コール・エスコラ「オー、メアリー！」
- ◆最優秀主演女優賞＝サラ・スヌーク「ドリアン・グレイの肖像」
- ◆最優秀助演男優賞＝フランシス・ジュ「イェロー・フェイス」
- ◆最優秀助演女優賞＝カラ・ヤング「パーパス」
- ◆最優秀演出賞＝サム・ピンクルトン「オー、メアリー！」
- ◆最優秀装置デザイン賞＝ミリアム・ブーター & 59スタジオ「ストレンジャー・シングス：始まりの影」
- ◆最優秀衣装デザイン賞＝マージ・ホーウェル「ドリアン・グレイの肖像」
- ◆最優秀照明デザイン賞＝ヨン・クラーク「ストレンジャー・シングス：始まりの影」
- ◆最優秀音響デザイン賞＝ポール・アルディッティ「ストレンジャー・シングス：始まりの影」
- ～共通部門～
- ◆最優秀オリジナル楽曲賞＝「メイビー、ハッピーエンディング」(作曲作詞：ウィル・アロンソン & ヒュー・パーク)
- ◆最優秀振付賞＝パトリシア・デルガード & ジャ

- スティン・ベック「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」
- ◆最優秀オーケストラ編曲賞＝マルコ・バギア「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」
- ◆功労賞＝ハーヴェイ・ファイアスタイン
- ◆特別賞＝「ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ」バンドミュージシャン、「ストレンジャー・シングス：始まりの影」イリュージョン・技術効果
- ◆地方劇場賞＝ザ・ミュニー
- ◆イザベル・ステイヴンソン賞＝シーリア・キナン＝ボルジャー
- ◆名誉賞＝「グレート・パフォーマンス」、マイケル・プライス、New 42、ザ・ニューヨーク・パブリック・ライブラリー・フォー・ザ・パフォーミング・アーツ

【第97回アカデミー賞】

(授賞式：現地時間2025年3月2日)

- ◆作品賞＝「ANORA アノーラ」
- ◆監督賞＝ショーン・ペイカー「ANORA アノーラ」
- ◆主演男優賞＝エイドリアン・ブロディ「ブルータリスト」
- ◆主演女優賞＝マイキー・マディソン「ANORA アノーラ」
- ◆助演男優賞＝キーラン・カルキン「リアル・ペイン～心の旅～」
- ◆助演女優賞＝ゾーイ・サルダナ「エミリア・ペレス」
- ◆国際長編映画賞＝「アイム・スティル・ヒア」(製作国：ブラジル)
- ◆脚本賞＝「ANORA アノーラ」
- ◆脚色賞＝「教皇選挙」
- ◆撮影賞＝「ブルータリスト」
- ◆編集賞＝「ANORA アノーラ」
- ◆美術賞＝「ウィキッド ふたりの魔女」
- ◆衣装デザイン賞＝「ウィキッド ふたりの魔女」
- ◆メイクアップ・ヘアスタイリング賞＝「サブスタンス」
- ◆作曲賞＝「ブルータリスト」
- ◆歌曲賞＝「エミリア・ペレス」対象曲「El Mal」
- ◆音響賞＝「デューン 砂の惑星 PART2」
- ◆視覚効果賞＝「デューン 砂の惑星 PART2」
- ◆長編アニメ映画賞＝「Flow」
- ◆短編アニメ映画賞＝「イトスギの影の中で」
- ◆長編ドキュメンタリー賞＝「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」
- ◆短編ドキュメンタリー賞＝「ザ・レディ・イン・オーケストラ NYフィルを変えた風」
- ◆短編実写映画賞＝「私は人間」

【第48回日本アカデミー賞】

- ◆最優秀作品賞＝「待タイムスリッパー」
- ◆最優秀アニメーション作品賞＝「ルックバック」
- ◆最優秀監督賞＝藤井道人「正体」
- ◆最優秀脚本賞＝野木亜紀子「ラストマイル」
- ◆最優秀主演男優賞＝横浜流星「正体」
- ◆最優秀主演女優賞＝河合優実「あんのこと」
- ◆最優秀助演男優賞＝大沢たかお「キングダム 大將軍の帰還」
- ◆最優秀助演女優賞＝吉岡里帆「正体」
- ◆最優秀撮影賞＝佐光朗「キングダム 大將軍の帰還」
- ◆最優秀照明賞＝加瀬弘行「キングダム 大將軍の帰還」
- ◆最優秀音楽賞＝世武裕子「カラオケ行こ！」
- ◆最優秀美術賞＝三浦真澄「はたらく細胞」
- ◆最優秀録音賞＝横野一氏工「キングダム 大將軍の帰還」
- ◆最優秀編集賞＝安田淳一「待タイムスリッパー」
- ◆最優秀外国作品賞＝「オープンハイマー」
- ◆新人俳優賞＝赤楚衛二「六人の嘘つきな大学生」
「もしも徳川家康が総理大臣になったら」、板垣李光人「八犬伝」「はたらく細胞」「陰陽師0」、越山敬達「ぼくのお日さま」、齋藤飛鳥「【推しの子】—The Final Act—」、齋藤潤「カラオケ行こ！」、渋谷凪咲「あのコはだあれ？」、森本慎太郎「正体」、山田杏奈「ゴールデンカムイ」
「正体」
- ◆クリエイティブ貢献賞＝「ゴールデンカムイ」装飾＝大庭信正 松本吉正 柳澤武、「ルックバック」原動画スタッフ
- ◆第48回特別賞＝「キングダム 大將軍の帰還」VFXチーム
- ◆主題歌賞＝Mrs. GREEN APPLE(対象作品：「ディア・ファミリー」主題歌『Dear』)
- ◆協会特別賞＝市丸洋(装飾・小道具)、河東努(ドルビーサウンドコンサルタント)、百瀬達夫(塗装・エイジング)、森賢正(ラインプロデューサー)
- ◆会長功労賞＝倉本聰(脚本)、木村大作(監督・撮影)、里見浩太郎(俳優)、渡辺美佐子(俳優)
- ◆会長特別賞＝小原乃梨子(声優)、大山のぶ代(声優)
- ◆協会栄誉賞＝西田敏行(俳優)
- ◆話題賞＝作品部門：「帰ってきた あぶない刑事」、俳優部門：森本慎太郎「正体」

【第33回橋田賞】

- ◆橋田賞＝連続テレビ小説「虎に翼」、「カンブリア宮殿」、宮藤官九郎(脚本家)、阿部サダヲ(俳優)、伊藤沙莉(俳優)、池上彰(ジャーナリスト)

- ◆橋田賞新人賞＝河合優実(俳優)、奈緒(俳優)、松本若菜(俳優)
- ◆野村昭子賞＝草村礼子(俳優)
- ◆橋田壽賀子生誕100年記念特別賞＝石井ふく子(プロデューサー・演出家)

令和7年 劇壇時事

2025年1月～12月

【1月】

●新年一般参賀が2日、皇居で行われた。昨年は元日に発生した能登半島地震の影響で中止されたため、2年ぶりの実施に。宮内庁によると6万690人が訪れた。

●米・大統領自由勲章の授与式が4日行われた。ヒラリー・クリントン元国防長官のほか、映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー』で知られる俳優のマイケル・J・フォックス、ロックバンドU2のボノ、ファッションデザイナーのラルフ・ローレンなどに授与された。

●NHK大河ドラマ「べらぼう〜篤重栄華乃夢噺〜」の放送が5日始まった。写楽や歌麿を世に送り出し、江戸のメディア王にまで成り上がった篤重こと篤屋重三郎の波乱万丈の物語。脚本・森下佳子、演出・大原拓ほか、主演は横浜流星。

●米・アカデミー賞の前哨戦となる第82回ゴールデン・グローブ賞の授賞式が3日行われ、真田広之主演のドラマ『SHOGUN 将軍』が作品賞を受賞した。また真田が日本人初のドラマシリーズ部門主演男優賞を受賞したほか、浅野忠信がこちらも日本人初の同部門助演男優賞を受賞した。

●大阪四季劇場が9日、開業20周年を迎えた。

●第172回芥川龍之介賞・直木三十五賞の選考会が15日開かれ、芥川賞に安堂浩セ『D'TOPIA』、鈴木結生『ゲートはすべてを言った』の2作が、直木賞には伊与原新『藍を継ぐ海』が選ばれた。

●東宝株式会社は16日、新たな帝国劇場の設計者が、建築家で法政大学教授の小堀哲夫に決定したことを発表した。

●株式会社東京ドームなどが16日、東京ドームシティ内の多目的ホール「TOKYO DOME CITY HALL」について、カナデビア株式会社とネーミングライツ契約を締結、2025年4月より同ホールの名称を「Kanadevia Hall」とすることを決定したと発表した。

●歌舞伎座ギャラリーで17日、企画展「KABUKI MUSEUM 2025 ～What is KABUKI?～」が始まった。インバウンド対応型の企画展で、「歌舞伎体験」をテーマにした展示もあり、外国人観光客に歌舞伎の魅力に触れてもらう企画となった。2月16日まで。

●ミュージカル映画『ディックス!!ザ・ミュージカル』が17日、東京・新宿ピカデリー等で公開された。ジョシュ・シャープとアロン・ジャクソンがオ

フ・ブロードウェイで上演したコメディ・ミュージカルを原案に、映画『グレイテスト・ショーマン』のピーター・チャーニンが製作、『ラ・ラ・ランド』『ムーラン・ルージュ』のマリウス・デ・フリースが音楽を担当。出演は、ジョシュとアロンのほか、ネイサン・レーン、ポーウェン・ヤンなど。

●米・ワシントンで20日、アメリカ大統領と副大統領の就任式が行われ、ドナルド・トランプが第47代大統領として就任した。

●2025年の米・野球殿堂入りが22日発表され、イチローが日本人初の殿堂入りを果たした。

●公益財団法人静岡県舞台芸術センターは24日、毎年SPACが開催してきた演劇祭「ふじのくににせかい演劇祭」の名称を「SHIZUOKAせかい演劇祭」と改めることを発表した。これは2025年の同財団設立30周年の取り組みのひとつ。

●歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」で25日、「歌舞伎座着物の日」が開催された。松竹株式会社創業130周年を記念するイベントのひとつで、第五期歌舞伎座の新開場後は初めての開催。

●東京俳優・映画&放送専門学校が26日、イマージブ謎解き演劇オープンキャンパス「イマージブ謎解き演劇体験!～ある爆弾魔からの挑戦状～」を開催した。同校では2025年4月にイマージブシアター専攻(4年制)を開講予定で、第一線で活躍する講師陣と最新設備の導入により、業界を牽引する人材育成を目指す。

●「ドクターイエロー」の愛称で親しまれている、東海道・山陽新幹線の点検車両のうち、JR東海が所有するT4編成が29日、最後の検査走行日を迎え、四半世紀にわたって新幹線の安全を守り続けた「新幹線のお医者さん」の役目を終えた。

●『東京サンシャインボーイズ復活記念イベント メイキングドキュメンタリー上映会』が31日、東京・新宿シアタートップスで始まった。同団の復活公演『蒙古が襲来』が2月に開幕するのに先駆けたイベント。2月2日まで。

●31日に開催された第59回紀伊屋演劇賞贈呈式において、東京・紀伊屋ホールが2025年5月より一時休館することが発表された。舞台機構、音響、照明の各設備と、ホワイエと楽屋の水回りの改修工事のため。休館期間は3ヶ月間とされた。

【2月】

●英・演劇賞WhatsOnStage Awardsの授賞式が10日行われ、舞台『千と千尋の神隠し Spirited Away』（製作＝東宝株式会社）がAward for BEST NEW PLAY（最優秀新作演劇賞）を受賞した。

●第79回毎日映画コンクールの贈呈式が13日行われた。同コンクールは今回から俳優賞の男優・女優の区別を撤廃した。日本映画大賞は三宅唱監督『夜明けのすべて』、主演俳優賞は河合優実と横浜流星、助演俳優賞は池松壮亮とカルーセル麻紀にそれぞれ贈呈された。

●第75回ベルリン国際映画祭の授賞式が22日行われ、水尻自子監督のアニメ『普通の生活』が短編コンペティション部門銀熊賞（審査員賞）を受賞した。また、子どもをテーマにした作品を扱うジェネレーションKプラス部門で横浜聡子監督『海辺へ行く道』が、国際審査員から特別表彰を受けた。最高賞のコンペティション部門金熊賞には、ノルウェーのダグ・ヨハン・ハウゲルド監督作品で、女性教師に恋をした少女の姿を描いた『Dreams (Sex Love)』が選ばれた。

●愛知県名古屋市長は25日、Niterra日本特殊陶業市民会館（名古屋市民会館）を2027年度末に閉館し、同所に新劇場を建築、2035年度の新開場を目指すことを発表した。新劇場には約2200席の第1ホール、役1500席の第2ホール、約900席の第3ホールのほか、スタジオなどが設けられる予定。

●建て替えのため一時休館する帝国劇場の最終公演『THE BEST New HISTORY COMING』が28日、千秋楽を迎え、劇場としては59年の歴史に一時幕を下ろした。今後は同劇場を含む複数のビルを一体的に建て替えて再開発を行う予定で、2030年度までの完成を目指す。

●新宿アルタが28日、閉館した。1980年4月にJR新宿東口前に開業し、正面の大型ビジョン「アルタビジョン」が話題に。また82年から2014年まで放送された『笑っていいとも!』の公開生放送が行われていたことで知られた。

●ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは28日、2025年春を目前にパーク入口にあるチケット売場をすべて閉鎖することを明らかにした。インターネットサイトでチケットを購入する人が多くなっていることや、人件費削減などが理由。

[3月]

●ミュージカル映画『ウィキッド ふたりの魔女』が7日、日本公開された。エルファバ役をシンシア・エリヴォ（吹替・高畑充希）、グリンド役をアリアナ・グランデ（吹替・清水美佐紗）、フィエロ役をジョナサン・ペイリー（吹替・海宝直人）が務めた。

●「帝国劇場展～THE WORLD OF IMPERIAL THEATER～」が29日、東京・銀座三越催物会場で始まった。これまでの歴史や代表的演目の衣裳展示に加え、「座長が使用する5-1楽屋」「貴賓室」の再現展示などが行われた。4月27日まで。

●宝塚歌劇団の雪組新トップスター・朝美絢と、娘役トップ・夢白あやの新トップコンビの大劇場お披露目公演となるミュージカル『ROBIN THE HERO』／ファンタスティック・ショー『オーヴァチュア!』が12日、兵庫・宝塚大劇場で開幕した。公演は4月13日まで。東京宝塚劇場公演は5月3日から6月22日まで。

●『ラジオ100年記念ドラマ イモヅル』が16日、NHKラジオ第一で放送された。作劇は竹田モモコ（ばぶれるりぐる）、土屋亮一（シベリア少女鉄道）が務め、キムラ緑子、萩原聖人、鈴木杏などが出演した。

●東京・新宿駅直結の商業施設「新宿ミロード」が16日閉館、約40年の歴史に幕を下ろした。駅周辺の再開発計画に伴うもので、2029年度までに跡地に地上8階、地下2階建ての商業施設が建設される予定。

●ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー『My Neighbour Totoro となりのトトロ』の無期限ロングラン公演が、英国ジリアン・リン・シアターで20日にスタートした。本作は2022年に英・バービカン・シアターで初演、2023～24年にかけて同劇場で再演された。

●兵庫・伊丹市立演劇ホール（AI・HALL）が27日、2026年3月末日をもって閉館することを発表した。関西屈指の小劇場として様々な事業に取り組んできた。

●東京神田明神で31日、「尾上菊之助改め八代目尾上菊五郎襲名披露 尾上丑之助改め六代目尾上菊之助襲名披露 お練り」が行われた。特別出演のZeebraが、江戸時代から続く羽羽屋の歴史を語り部のように語るラップを披露。また太鼓奏者・山部泰嗣の力強い太鼓が境内に鳴り響いた。

[4月]

●東京・松竹大谷図書館閲覧室の展示企画「松竹大谷図書館所蔵 歌舞伎映画一挙上演記念 特別展示『大谷竹次郎が遺した歌舞伎映画』と「資料紹介」祝20周年！シネマ歌舞伎」が5日始まった。28日まで。

●大阪の人工島・夢洲を会場に13日に開幕する2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開会式が12日行われた。開会式には天皇皇后両陛下、参加国の関係者らが出席。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国と地域、7つの国際機関が参加し、10月13日（会期・184日間）まで開催される。

●松竹株式会社が21日、2025年7月より歌舞伎座の座席等級区分を変更することを発表した。これまでになかった特等席や2等A～C席を設けた。

●宝塚歌劇団の宙組トップスター・芹香斗亜が27日、退団公演となる宝塚歌劇百十周年記念奉舞『宝塚110年の恋のうた』、ジャズ・スラップスティック『Razzle Dazzle』の東京宝塚劇場公演の千秋楽を迎え、同団を退団した。

●2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の会場内EXPOホール「シャインハット」で29日、宝塚歌劇団の卒業生が各国に縁ある宝塚歌劇の名シーンなどを披露する『未来へのOne Step!～世界を結ぶ愛の歌声』が始まった。麻美れい、剣幸、安寿ミラ、一路真輝、麻路さきらが出演。5月1日まで。

【5月】

●梅田芸術劇場メインホールなどで2日から記念グッズ「梅と琥珀色の飴ちゃん」が販売された。これは同劇場が2025年に20周年を迎えるのを記念したもの。巾着に入った飴で、巾着には座席や照明、同劇場を象徴するシャンデリアのイラストが描かれている。同劇場とシアタードラマシティで行われる主催公演会場にて販売。2026年3月下旬までを予定。

●大同生命ミュージカルシアター電通四季劇場[海]で上演中のディズニーミュージカル『アラジン』が24日、日本上演10周年を迎えた。2014年3月ブロードウェイで初演され、翌年の2015年、他国に先駆け世界で2番目に日本で開幕。10年間の総公演回数は2800回以上、観客動員数は300万人を超えた。

●「八代目尾上菊五郎 六代目尾上菊之助 襲名展」が29日、銀座三越新館9階銀座テラスで始まった。襲名演目にまつわる歌舞伎の衣裳や小道具、また二人がこれまでに出演した舞台の台本などを展示。6月30日まで。

【6月】

●株式会社俳優座劇場が2日、埼玉県越谷市に舞台装置仮組施設「Theater Zero」を竣工した。次世代の舞台装置を担う人材の育成に注力するほか、製作する舞台装置における付加価値の創造を目指す。30日より運用予定。

●美輪明宏が主演した映画『黒蜥蜴』『黒薔薇の館』のBlu-rayとDVDが11日リリースされた。

●劇団四季が30日、名古屋市熱田市に新たな専用劇場『名古屋四季劇場』が2026年7月に誕生することを発表した。またそのこけら落とし公演が、ミュージカル『オペラ座の怪人』に決定したことも発表した。

【7月】

●公益財団法人松竹大谷図書館で1日、「新橋演舞場100周年記念」特別展示と資料紹介が始まった。開場時に発行された劇場写真集や、昭和54(1979)年改築時の記念品など、ゆかりの資料を展示。8月8日まで。

●株式会社TOKIOが2日、公式サイトにて廃業することを発表した。TOKIOをめぐるのは国分太一のコンプライアンス上の問題行為が確認されたことを受け、同社とSTARTO ENTERTAINMENTが本人の無期限活動休止を発表、それを受け、6月25日に公式サイトにて「城島茂、松岡昌宏、国分太一をメンバーとするグループ『TOKIO』を本日をもって解散することにいたしました」と報告されていた。

●英国推理作家協会は3日、優れた推理小説に贈られるタガー賞の翻訳部門に、王谷晶『パパヤガの夜』を選んだと発表した。1955年に設立された権威ある同賞で日本人の作品が受賞したのは初めて。

●映画『夏の上』が4日、全国公開された。松田正隆の同名戯曲を原作にした映画で、玉田真也が監督・脚本を務め、オダギリジョーが主演・共同プロデューサーを務める。オダギリのほか、出演は松たか子、高石あかり、森山直太朗、満島ひかりなど。

●韓国ミュージカルを映画館で楽しむ『韓国ミュージカルON SCREEN』が11日、スタートした。『エリザベート』『ファントム』『マリー・アントワネット』『笑う男』『モーツァルト』の5作品が全国で順次公開された。

●宝塚歌劇団の宙組・桜木みなどの新トップスターとしてのお披露目公演『ZERO THE MUSICAL』が14日、東京・東急シアターオーブで開幕した。7月3日まで。本拠地・宝塚大劇場でのお披露目公演は9月13日初日のTAKARAZUKA MUSICAL ROMANCE『PRINCE OF LEGEND』、ビートオンステージ『BAYSIDE STAR』。

●第173回芥川賞・直木賞の選考会が16日開かれ、両賞とも「該当作なし」と発表された。両賞とも該当なしは1997年度下半期以来27年半ぶり、史上6回目。

●K-BALLET TOKYOが17日、創設者であり芸術監督の熊川哲也が9月1日付で総監督に就任することを発表した。また芸術監督には宮尾俊太郎が就任することを合わせて発表した。

●東京・銀座にある映画館『丸の内TOEI』が27日、閉館した。同館は1960年9月20日に開館。本社ビル・東映開館の再開発と本社移転を受けて閉館となった。

●大阪・大阪市立芸術創造館で「ばくっ！ ワークショップフェスティバル 2025」が31日始まった。これは同館25周年を記念したイベントで、わかぎゑ

ふ、増田知就(ブルーエゴナク)、原竹志(兵庫県立ピッコロ劇団 / コトリ会議)、田辺剛(下鴨車窓)ら講師によるワークショップが行われた。8月3日まで。

【8月】

●宝塚歌劇団の星組トップスター・礼真琴が10日、退団公演となるミュージカル『阿修羅城の瞳』、ファンタジック・タペストリー『エスペラント!』の東京宝塚劇場公演の千秋楽を迎え、同団を退団した。

●スイスの第78回ロカルノ国際映画祭の授賞式が16日行われ、三宅唱監督『旅と日々』がコンペティション部門の最高賞「金豹賞」を受賞した。同映画祭で日本映画が最高賞を受けるのは、小林政広監督『愛の予感』以来18年ぶり。過去には衣笠貞之助監督『地獄門』や市川崑監督『野火』などが同賞を受賞している。

●歌舞伎の稀代の女形を主人公にした映画『国宝』(原作:吉田修一、監督:李相日、主演:吉沢亮)の興行収入が100億円を超えたことが18日、作品公式Xで発表された。発表によると、公開73日間での観客動員数は747万人、興行収入は105億円。実写邦画作品としては2003年公開『踊る大捜査線 THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』以来22年ぶりの快挙となった。

●大阪・阪急ターミナルビル「阪急17番街」で21日、『阪急17番街present心躍る宝塚歌劇衣装展』が始まった。「アジア・日本」をテーマに、『王家に捧ぐ歌-オペラ「アイダ」より』『怪盗楚留香外電-花盗人-』『シルクロード~盗賊と宝石~』『NOBUNAGA<信長>-天下の夢-』などの衣裳が展示されたほか、フォトスポットなども登場した。11月18日まで。

●日本舞台写真家協会による第19回協会展『瞬~moment~』が21日、東京・OM SYSTEM GALLERYで始まった。46名の写真家が舞台写真の世界を様々な形で発表した。9月1日まで。東京での展示後、大阪、愛知でも開催された。

●狂言師・野村万作のドキュメンタリー映画『六つの顔』が22日、全国公開された。2023年に文化勲章を受章し、記念公演で自身のライフワークである狂言『川上』に臨む1日に密着したもの。監督は犬童一心。ナレーションはオダギリジョーが担当した。

●インド・ムンバイで開催されたインド最大級のアニメーションアワード「ANNアワード2025」で22日、『映画クレヨンしんちゃん オラたちの恐竜日記』(製作=株式会社テレビ朝日 他、配給=東宝株式会社)が最優秀外国語長編アニメーション映画賞を受賞した。同アワードは2025年からアジア全域から

の応募が可能となり、国際的な舞台として注目を集めている。このほか「クレヨンしんちゃん」のキャラクターが最優秀ライセンスキャラクター賞を受賞し、2部門受賞の快挙となった。

●松竹株式会社は28日、大阪松竹座での興行を2026年5月公演をもって終了することを発表した。建物諸設備の老朽化に伴う対応として、地下店舗も含めたビルを閉館する。同ビルは1923年(大正12年)に活動写真館として開業、その後1997年(平成9年)に演劇の劇場として新開場し、多彩な興行を続けてきた。閉館後の計画は未定。

【9月】

●公益財団法人松竹大谷図書館で1日、歌舞伎座「三代名作」上演記念展示・資料紹介が始まった。松竹株式会社創業130周年を記念して歌舞伎座で一挙上演される歌舞伎の三代名作『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』の解説書や台本、創業100周年に当たる1995年(平成7年)に三代名作が上演された際の資料などが紹介された。10月29日まで。

●設備更新工事のため2024年9月30日から休館していた東京芸術劇場のリオープンを祝うオープンデー『芸術大公開!』が6日に開催された。1日限りで同劇場の多くの施設が無料開放され、ステージに上がる企画や舞台技術スタッフによる解説企画など、子どもから大人まで楽しめるイベントが行われた。

●松竹株式会社は8日、2025年10月公演より、25歳以下を対象とした当日券の割引制度「歌舞伎座U25当日半額チケット」を開始することを発表した。

●米テレビ界で最高の荣誉とされる第77回エミー賞授賞式が14日行われた。Netflixの人気作『アドレセンス』でブレイクした英・俳優のオーウェン・クーバーが助演男優賞を受賞。現在15歳のクーバーは同賞市場最年少の男性受賞者となった。主演男優賞には『セヴェランス』のノア・ワイリーが、ドラマ部門作品賞には医療ドラマ『ザ・ビッド/ピットバグ救急医療室』が選ばれた。

●株式会社ネルケプランニングは16日、株式会社代々木アニメーション学院と「天王洲 銀河劇場」取得に関する売買契約を締結したことを発表した。

●宝塚歌劇団星組の新トップスター・暁千星と、新トップ娘役・詩ちづるのお披露目公演となる全国ツアー公演『ダンサ セレナータ』『Tiara Azul-Destino-』が27日に初日を迎えた。本拠地・宝塚大劇場でのお披露目公演は2026年1月1日初日のビート・シアター『恋する天動説 -The Wand'rin' Stars-』、ギャラクシーレビュー『DYNAMIC NOVA』。

【10月】

●早稲田大学坪内博士記念演劇博物館で14日、秋季企画展『日中演劇交流展－欧陽予倩・田漢と日本』が始まった。日中の演劇交流および両国の友好にも大きく貢献し、のちに「中国の現代演劇と伝統演劇との黄金の架け橋」と呼ばれ中央戯劇学院の初代院長となった欧陽予倩（「1889-1962、俳優、劇作家、映画監督、演劇理論家」と、中国国歌の作詞者ともなった田漢（1898-1968、劇作家、演出家、詩人）の2人を中心に、先人による演劇交流の歴史を振り返る企画。2026年1月25日まで。

●株式会社フジテレビジョンが16日、長寿番組『くいしん坊！万才』を11月22日放送の特別番組をもって終了することを発表した。同番組は1975年6月30日にレギュラー放送が始まり、初代の渡辺文雄をはじめ、竜崎勝、友竹正則、実戸錠、川津祐介、梅宮辰夫、村野武範のほか、現在の第11代目・松岡修造へとレポーターが受け継がれてきた。レギュラー放送が終了する11月16日までの放送回数は6599回。

●9月の石破茂総理大臣の辞任を受け、自民党の総裁に選ばれた高市早苗氏が21日、衆参両議員の首相指名（首班指名）選挙を経て、第104代総理大臣に選出された。女性の総理大臣就任は初めて。

●静岡・MOA美術館で24日、『坂東玉三郎衣裳展』が始まった。歌舞伎の4つの演目に登場する花魁をテーマに、玉三郎氏愛蔵の衣裳12点が展示された。12月14日まで。

【11月】

●山田徳春写真展『役写～舞台人を写す～』が4日、大阪・扇町ミュージアムキューブ CUBE 05で始まった。これまで関西小劇場で撮影した俳優や劇団員のポートレート作品を展示。9日まで。

●松竹株式会社は7日、公式YouTubeチャンネル「かぶちゃん～歌舞伎のミカタch～」を開設した。歌舞伎俳優による歌舞伎の演目解説動画を中心に、劇場での歌舞伎鑑賞を楽しむための情報等を投稿する。

●ミュージカル映画『トリツカレ男』が7日公開された。いしいしんじ原作の同名小説をミュージカル化したもので、監督・高橋渉、脚本・三浦直之、声の出演で上白石萌歌、柿沢勇人など。

●特別公演「フィリップ・グラス『MISHIMA』－オーケストラとバレエの饗宴－」が14日、東京オペラシティコンサートホールで行われた。これは三島由紀夫生誕100周年を記念したもので、フィリップ・グラス作曲による、映画『MISHIMA』（1985年公開・ポール・シュレイダー監督）の音楽を中心に、「オーケストラ（指揮＝柳澤寿男：指揮、京都フィルハーモニー室内合奏団特別交響楽団、滑川真希、川井郁子）」×「バレエ（監修＝三谷恭三、振付＝堀内

充）」×「美術（横尾忠則）」が融合する新しいステージが誕生。舞台美術を三島と親交のあった横尾が手がけたことも話題となった。

●映画『劇場版 鬼滅の刃 無限城編 第一章 猗窩座再会』の全世界興行収入が1000億円を突破したことが17日分かった。日本映画では史上初めて。

●京都・東映太秦映画村が、2026年3月に“大人の没入体験パーク”としてリニューアルオープンすることが19日分かった。名称も「太秦映画村」に変更される。同時期は第1期オープンと銘打たれ、2027年春には遊郭ゾーン、2028年には芝居小屋・中村座（仮称）が追加オープンする予定。

●日本生命保険相互会社の子会社であるニッセイプラス少額短期保険株式会社は18日、松竹株式会社と劇団四季で直接販売されるチケットを対象に保険を提供開始することを発表した。ケガや病気、交通遅延など、所定の事由で観劇をキャンセルした場合にチケット代金を100%補償するなどのサービスで、松竹は18日より、劇団四季は2026年1月を目途に開始される予定。

●劇団四季が上演中のディズニーミュージカル『美女と野獣』が24日、日本初演から30年を迎えた。国内10都市で上演を重ね、総公演回数は6600回以上、総入場者数は657万人にのぼる。

●東宝株式会社は25日、映画『国宝』の興行収入が173.7億円を突破して、2003年公開の『踊る大捜査線 THE MOVIE2 レインボーブリッジを封鎖せよ!』を超えて、実写邦画歴代1位になったと発表した。公開172日間の観客動員数は1231万人に上っている。

【12月】

●株式会社東急文化村は10日、運営するBunkamuraを2027年1月4日より全館休館することを発表した。現在の一部休館中もオーチャードホールのみ日曜・祝日に中心に営業を続けてきた。全館期間中には各施設の改修や設備の更新など大規模改修工事を実施する予定。

●今年で31回目となる日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」が12日発表され、「熊」が選ばれた。全国各地で熊の被害が相次ぎ、生活や経済活動にも深刻な影響を及ぼしたため。

●映画『フィクサー』で米アカデミー賞助演女優賞を受賞したティルダ・スウィントン主演のミュージカル映画『THE END』が12日日本公開された。ショ ज्याア・オッペンハイマー監督初の長編フィクションで、終末世界を舞台にしたミュージカル。

●福岡・博多座が19日、大規模修繕工事を行うため、長期休館を予定していることを発表した。休館期間は2029年6月から2030年9月の予定。休館期間

中は市内の他施設等において外部公演を実施する予定。

●公益財団法人松竹大谷図書館は23日、所蔵する新橋演舞場の戦前までの筋書・劇場プログラムをウェブ上で閲覧できるデジタルアーカイブを公開した。本年開業100周年を迎えた同劇場の戦前のプログラムなど586点がデジタル化したもの。1925(大正14)年から1945(昭和20)年までの多彩なジャンルの公演プログラムがウェブ上で検索・閲覧出来るようになった。

●松竹株式会社・東宝株式会社主催「映画『国宝』歌舞伎座大晦日特別上映会」が31日、歌舞伎座で行われた。これは同作の映画興行収入が邦画実写1位を達成したことを記念したものだが、東宝の映画が松竹の劇場で上演されるのは異例のこと。歌舞伎座で行われる特別上映会の模様は全国の映画館でも生中継された。

令和7年 演劇関係新刊書

令和7年(2025年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書—演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集—を収録した。

※書名、著者・編集者名、出版社名、税込価格の順に記載した。

《1月》

- 「清朝宮廷演劇西遊記の研究 岳小琴本『昇平宝筏』を中心に」 磯部彰 汲古書院 9,350円
 「香港粵劇研究 珠江デルタにおける祭祀演劇の伝承」 田仲一成 汲古書院 20,900円
 「ふれてみよう! 伝統芸能 狂言ってなんだ!？」 三浦裕子(監修) ほるぷ出版 3,300円
 「岩波オンデマンドブックス 新日本古典文学大系 96」 古井戸秀夫 鳥越文蔵 和田修 岩波書店 8,800円
 「江戸時代を知る、楽しむ。」 永井義男 鈴木あつよ Gakken 1,650円
 「『俳優』の肩越しに 文春文庫 やー30ー4」 山崎努 文藝春秋 957円
 「周縁化された芸能者と近世社会」 吉田ゆり子 吉川弘文館 14,300円
 「グリルパルツァー戯曲選」 フランツ・グリルパルツァー 水声社 4,400円
 「井上ひさし外伝 映画の夢を追って」 植田紗加栄 河出書房新社 3,520円
 「映像文化論の教科書 運動としての映画、映像としてのスポーツ」 鬼丸正明 坂上康博 青弓社 3,080円
 「白鳥と鏡 イェイツと浮世絵、能楽、俳句」 伊東裕起 開文社出版 3,300円
 「虚無の劇場 古典研究者が読む三島由紀夫文学新典社選書 127」 伊藤禎子 新典社 3,190円
 「民俗芸能に残る古猿楽の芸能」 山路興造 岩田書院 1,980円
 「宮内官僚森鷗外 『昭和』改元影の立役者 角川新書」 野口武則 KADOKAWA 1,210円
 「帝国劇場アニバーサリーブック NEW HISTORY COMING」 東宝演劇部(監修) 5,989円
 「演劇と音楽の創作ワークショップ アートへの回路をひらく座学・実践12日間」 岡本佳子(編) 西尾佳織(編) 野口桃江 東京大学出版会 3,740円
 「歌劇 2025年1月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円
 「宝塚GRAPH 2025年2月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

- 「演劇と教育 2025年2月号」 晩成書房 990円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年1月22日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,499円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年2月5日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「ミュージカル 1・2月号」 ミュージカル出版社 1,100円
 「テアトロ 2025年2月号」 カモミール社 1,300円
 「BARFOOT! Vol.353 (FEBRUARY 2025) 目黒蓮(Snow Man)」 ブラウンズブックス 1,210円
 「Sparkle vol.59 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,980円
 「えんぶ 2025年2月号」 えんぶ 600円

《2月》

- 「演劇と民主主義 演劇学と政治学のインタラクティブ」 平田栄一朗 北川千香子 針貝真理子 三元社 3,740円
 「ミシェル・フーコー 自己変容としての文学」 柴田秀樹 青土社 3,080円
 「クライストと公共圏の時代 世論・革命・デモクラシー」 西尾宇広 人文書院 7,480円
 「越境する歌舞伎 戦前・戦後の小芝居と女役者」 浅野久枝 春風社 5,500円
 「歌舞伎評判記集成 第3期 第8巻 自寛政七年至寛政九年」 役者評判記刊行会 和泉書院 17,600円
 「小学生のための 図解歌舞伎じてん 知ると楽しい! 日本の伝統文化」 「江戸楽」編集部 辻村章宏 メイツユニバーサルコンテンツ 1,958円
 「源氏物語散策 文学史・歌舞伎・人物・谷崎源氏 IZUMI BOOKS 22」 田坂憲二 和泉書院 2,750円
 「21世紀のための三島由紀夫入門 とんぼの本」 平野啓一郎 井上隆史 芸術新潮編集部 2,530円
 「久保田万太郎とジャンルの諸相」 福井拓也 鼎書

房 4,950円

「見立てと女語りの日本近代文学 斎藤緑雨と太宰治を読む」 齋藤樹里 文学通信 4,180円

「藤田まこと 修芸生涯」 原田敬子 立東舎 2,200円

「ミュージカルスターズ vol.4 TOKYO NEWS MOOK TVガイドPERSON別冊 1194号」 東京ニュース通信社 1,980円

「能の桜 花がいざなう能楽鑑賞」 宝生和英 福島菜穂子 八坂書房 1,980円

「これで眠くならない! 能の名曲60選 第2版 眠くならない指数上演頻度の数でわかるオススメ度付き」 中村雅之 誠文堂新光社 2,640円

「花もよ 第78号 能と狂言総合誌」 花もよ 700円

「歌劇 2025年2月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「宝塚GRAPH 2025年3月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「ル・サンク 2025年2月号」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年2月19日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年3月5日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「テアトロ 2025年3月号」 カモミール社 1,300円

「悲劇喜劇 2025年3月号」 早川書房 1,500円

「BEST STAGE 2025年4月号」 音楽と人 1,210円

「Stage fan Vol.45 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,200円

《3月》

「アメリカ演劇 35 21世紀アメリカの女性劇作家特集」 日本アメリカ演劇学会 日本アメリカ演劇学会 1,650円

「演劇の過去と現在 日本近代演劇史研究会50周年記念論集」 日本近代演劇史研究会 井上理恵 論創社 3,520円

「シアターアーツ 69 (2025春) 演劇批評誌」 国際演劇評議会協会日本センター AICT日本センター 1,980円

「げき 29 児童・青少年演劇ジャーナル」 児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会 児童・青

少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会 1,760円

「中国の女性演劇 越劇とジェンダー」 中山文 勉 誠社 8,250円

「演劇をめぐる八章 IZUMI BOOKS 23」 岩井眞實 和泉書院 2,420円

「舞台が幕を開けるまで 演劇のつくり方、教えます まなびの地図」 おーちようこ 大修館書店 2,200円

「舞台芸術入門 ギリシア悲劇、伝統芸能から現代劇まで 角川ソフィア文庫 F-164-1」 渡邊守章 KADOKAWA 1,760円

「世界の賞事典 2015-2024」 日外アソシエーツ 日外アソシエーツ 14,850円

「研究法がアートと出会うとき アートベース・リサーチへの招待」 パトリシア・リーヴィー 岸磨貴子 東村知子 福村出版 6,930円

「ドラクロワの物語画と文学」 西嶋亜美 三元社 6,380円

「歌舞伎ってなんだ!? ふれてみよう! 伝統芸能」 児玉竜一 マキゾウ ほるぷ出版 3,300円

「宝塚1stフォトブック 極美慎 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円

「芹香斗亜メモリアル写真集『TOA』 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 4,000円

「ウクライナ戯曲集」 村田真一 国書刊行会 3,080円

「人種と民族を考える十二章 英米文学・文化・教育の視点から」 吉田一穂 藤原愛 横山孝一 音羽書房鶴見書店 3,850円

「役割演技 一考え、議論する道徳を彩る」 赤堀博行 東洋館出版社 2,530円

「ミュージカル刀剣乱舞 和泉守兼定 堀川国広 山姥切国広 参騎出陣 ～八百八町膝栗毛～ 彩時記」 ネルケプランニング 3,630円

「映画芸術への招待 放送大学教材 3435」 野崎欲宮本陽一郎 放送大学教育振興会 4,620円

「人形浄瑠璃(文楽)ってなんだ!? ふれてみよう! 伝統芸能」 児玉竜一 睦月ムック ほるぷ出版 3,300円

「シテの花 一能楽師・葉賀琉太郎の咲き方ー 1 少年サンデーコミックススペシャル」 壺原ちぐさ 宝生和英 小学館 770円

「能ってなんだ!? ふれてみよう! 伝統芸能」 三浦裕子 森永ピザ ほるぷ出版 3,300円

「TVガイドStage Stars vol.29 舞台作品の魅力と俳優の新たな一面に迫るビジュアルマガジン TOKYO NEWS MOOK」 東京ニュース通信社 1,980円

「石原慎太郎と石原裕次郎 嵐を呼んだ兄弟の昭和

青春史」大島信三 芙蓉書房出版 2,090円
 「ラヴェル著述選集」モーリス・ラヴェル 笠羽
 映子 法政大学出版局 3,520円
 「歌劇 2025年3月号」宝塚クリエイティブアーツ
 750円
 「宝塚GRAPH 2025年4月号」宝塚クリエイティ
 ブアーツ 750円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年3月
 19日号」アシェット・コレクションズ・ジャパン
 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年4月
 2日号」アシェット・コレクションズ・ジャパン
 2,699円
 「テアトロ 2025年4月号」カモミール社 1,300
 円
 「BEST STAGE 2025年5月号」音楽と人 1,210
 円
 「ミュージカル 3・4月号」ミュージカル出版社
 1,100円
 「STAGE navi vol.100 NIKKO MOOK TV
 naviプラス」産経新聞出版 1,100円
 「Sparkle vol.60 MEDIABOY MOOK」メ
 ディア・ボーイ 1,980円
 「えんぶ 2025年4月号」えんぶ 600円

《4月》

「パフォーマンス・アクティビズム 先駆者たち
 と今日のパイオニアたち」ダン・フリードマン
 茂呂雄二 新曜社 5,280円
 「越境する革命 『吼えろ、中国！』と東アジアの左
 翼芸術運動」村田裕和 越野剛 田村容子 森話
 社 5,940円
 「これぞ！歌舞伎 そのあらすじと史実」大石学
 清水書院 1,980円
 「能・狂言・歌舞伎を探検！ いっしょに探検！日
 本の伝統文化と芸術 3」稲田和浩 教育画劇
 3,960円
 「音楽でつながる 日本とアジア・都市と周縁・近
 世と近現代」塚原康子先生東京藝術大学退任記念
 論文編集委員会 塚原康子 音楽之友社 6,600
 円
 「宝塚おとめ 2025年度版 タカラヅカMOOK」
 宝塚クリエイティブアーツ 1,650円
 「宝塚Stage Album 2024年 タカラヅカMOO
 K」宝塚クリエイティブアーツ 1,650円
 「相克のタカラヅカ 《ベルサイユのばら》前夜 宝
 塚歌劇・奮闘の軌跡」中本千晶 春風社 3,300円
 「礼真琴日本武道館コンサート『ANTHEM』ドキュ

メントブック CD付 タカラヅカMOOK」宝塚
 クリエイティブアーツ 3,000円
 「ジツゴト 2000の役を生きた俳優・織本順吉」
 中村結美 キネマ旬報社 1,980円
 「フルトで奏でる感動のミュージカル 第2版
 ピアノ伴奏譜 ピアノ伴奏CD付」後藤丹 生田
 美子 小野寺真 全音楽譜出版社 2,860円
 『ミュージカル バック・トゥ・ザ・フュー
 チャー』創作の秘密」マイケル・クラストリン ロ
 ジャー・ブラット ポブ・ゲイル 竹書房 5,500
 円
 「ロイド＝ウェバーと劇団四季 ミュージカル
 『キャッツ』—そのヒットの陰に潜む秘密」安倍
 寧 日之出出版 1,980円
 「能に憑かれた権力者 秀吉音楽愛好記 法蔵館文
 庫 あー5ー1」天野文雄 法蔵館 1,650円
 「花もよ 第79号 能と狂言総合誌」花もよ 700
 円
 「三國連太郎、彷徨う魂へ 文春文庫 うー24ー3」
 宇都宮直子 文藝春秋 770円
 「楽しく学べる 浮世絵図鑑」かみゆ歴史編集部
 朝日新聞出版 1,760円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年4月
 16日号」アシェット・コレクションズ・ジャパン
 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年4月
 30日号」アシェット・コレクションズ・ジャパン
 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年5月
 14日号」アシェット・コレクションズ・ジャパン
 2,699円
 「宝塚GRAPH 2025年5月号」宝塚クリエイティ
 ブアーツ 750円
 「ル・サンク 2025年4月号」宝塚クリエイティ
 ブアーツ 1,000円
 「歌劇 2025年4月号」宝塚クリエイティブアーツ
 750円
 「テアトロ 2025年5月号」カモミール社 1,300
 円
 「悲劇喜劇 2025年5月号」早川書房 1,700円
 「演劇と教育 2025年4月号」晩成書房 990円

《5月》

「エリザベス朝演劇と娯楽文化」篠崎実 中野春夫
 岩田美喜 三修社 4,510円
 「誰も知らないロシア 若手外交官が見た隣国の素
 顔」石川知仁 彩流社 3,520円
 「明治キワモノ歌舞伎 五代目尾上菊五郎の時代

講談社学術文庫 2868」 矢内賢二 講談社 1,320円
 「仁左衛門花実抄」 宮辻政夫 法蔵館 2,750円
 「藤原定家と式子内親王 恋物語の生成と展開 新典社研究叢書 382」 天野聡一 新典社 11,880円
 「宝塚1stフォトブック 縣千 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円
 「礼真琴メモリアルブック タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 3,500円
 「新訳ベケット戯曲全集 4 エレウテリア」 サミュエル・ベケット 小野正嗣 白水社 4,290円
 「金子洋文戯曲脚本選」 金子洋文 須田久美 明文書房 4,400円
 「くるみざわしん反核・反被曝連作戯曲集同郷同年／蛇には、蛇をほか2篇」 くるみざわしん ラグーナ出版 2,420円
 「谷川俊太郎のあれやこれや 谷川俊太郎」 筑摩書房 2,530円
 「巨大な夕焼 三島由紀夫の芸術と死」 山内由紀人 河出書房新社 2,640円
 「演技と執着の魔女 リメルダ」 西出結花 リーブル出版 770円
 「シテの花 ー能楽師・葉賀琥太郎の咲き方ー 2 少年サンデーコミックススペシャル」 原ちるぎ宝生和英 小学館 770円
 「東洲斎」 川端光徳 東京図書出版 1,430円
 「リダーシップの軌跡 時代を創造した12人」 藁谷友紀 熊谷善彰 早稲田大学出版部 1,980円
 「Page Boy エリオット・ペイジ自伝 トランスジェンダーとして勇気を持って生きる、ハリウッド俳優の回想録」 エリオット・ペイジ 長尾莉紗 DU BOOKS 2,860円
 「美人」 柘植伊佐夫 サンマーク出版 6,600円
 「原点帰帰 山田孝之、新しいコミュニティをつくる」 秋吉健太 blueprint 2,750円
 「明るく前向きに生きるためのマツケンガイドブック」 松平健 玄光社 2,750円
 「世界は一冊の本 definitive edition ちくま文庫 おー75ー4」 長田弘 筑摩書房 880円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年5月28日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年6月11日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「歌劇 2025年5月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円
 「宝塚GRAPH 2025年6月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「ル・サンク 2025年6月号」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円
 「STAGE navi vol.101 NIKKO MOOK TV naviプラス」 産経新聞出版 1,100円
 「えんぶ 2025年6月号」 えんぶ 600円

《6月》

「演劇は戦争体験を語り得るのか 戦後80年の日本の演劇から」 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 近藤つぐみ 早稲田大学出版部 3,080円
 「昭和20年8月15日 文化人たちは玉音放送をどう聞いたか NHK出版新書 744」 中川右介 NHK出版 1,265円
 「ビジネス教養としてのミュージカル」 上村由紀子 日本能率協会マネジメントセンター 1,760円
 「風間草祐エッセイ集 3 自由人として思うこと 創造編」 風間草祐 牧歌舎 1,320円
 「アート×リサーチ×アーカイヴ 調査するアートと創造的人文学」 東京藝術大学未来創造継承センター 月曜社 2,640円
 「昭和歌舞伎 女方小説集 中公文庫 な85ー1」 中村哲郎 中央公論新社 1,100円
 「江戸の食商い 知恵・洒落・粋の百花繚乱 権代美重子」 法政大学出版局 2,750円
 「日本美のこころ イノリノカタチ」 彬子女王 小学館 4,950円
 「魅力まるごとタカラヅカ!! 宝塚歌劇ガイドブック」 牧彩子 平凡社 1,760円
 「宝塚1stフォトブック 鷹翔千空 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円
 「『ベルサイユのばら』の真実 とんぼの本」 池田理代子 芸術新潮編集部 新潮社 2,420円
 「映画夜話」 蓮實重彦 リトル・モア 2,750円
 「花もよ 第80号 能と狂言総合誌」 花もよ
 「TVガイド Stage Stars vol.30 舞台作品の魅力と俳優の新たな一面に迫るビジュアルマガジン TOKYO NEWS MOOK 1205号」 東京ニュース通信社 1,980円
 「今日の仕事は？」 武正晴 小学館 2,090円
 「三角でもなく四角でもなく六角精児 役者とギャンプル ちくま文庫 ろー11ー1」 六角精児 筑摩書房 1,100円
 「悲劇喜劇 2025年7月号」 早川書房 1,700円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年6月25日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年7月

9日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン
2,699円
「歌劇 2025年6月号」 宝塚クリエイティブアーツ
750円
「宝塚GRAPH 2025年7月号」 宝塚クリエイティブ
アーツ 750円
「演劇と教育 2025年6月号」 晩成書房 990円
「テアトロ 2025年7月号」 カモミール社 1,300
円
「Stage fan Vol.48 MEDIABOY MOOK」 メ
ディア・ボーイ 1,200円
「STAGE navi vol.102 NIKKO MOOK TV
naviプラス」 産経新聞出版 1,100円
「演劇と教育 2025年6月号」 晩成書房 990円

《7月》

「くしゅん! 志野英乃作品集 中学校演劇脚本集
中学生のドラマ選 01」 志野英乃 日本演劇教育
連盟 晩成書房 2,640円
「演劇脳とビジネス脳」 西村真里子 宮城聡 講談
社エディトリアル 1,980円
「ことばの劇場」 長谷部浩 論創社 4,180円
「中村京蔵の雀躍譚 守って破る歌舞伎の道」 中
村京蔵 飯塚書店 3,000円
「浜木綿子 楽しく波瀾万丈」 小玉祥子 JTBパブ
リッシング 2,530円
「億万長者になったバリスタ」 アンドリュウ・ウィ
ルキンソン パンローリング 3,080円
「宝塚イズム 51 特集: ありがとう礼真琴」 藪下
哲司 橘涼香 青弓社 1,980円
「宝塚1stフォトブック 礼華はる 2025 タカラ
ヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100
円
「TAKARAZUKA REVUE 2025 タカラヅカ
MOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,500円
「歌劇2020—2024 by LESLIE KEE —TAKAR
AZUKA REVUE— 宝塚MOOK」 宝塚クリエ
イティブアーツ 4,000円
「宙組『ZORRO THE MUSICAL』 タカラヅカ
MOOK ル・サンク特別編集」 宝塚クリエイ
ティブアーツ 1,100円
「日本文学研究文献要覧 現代日本文学 2020～
2024」 梅澤亜由美 岩谷泰之 日外アソシエーツ
47,300円
「シネマ&ミュージカル 改訂版 美しく響くピア
ノソロ/上級」 ヤマハミュージックエンタテイン
メントホールディングス 2,970円
「ミュージカルの『現在』 変容するトニー賞」 小山

内伸 河出書房新社 2,970円
「完全版 ブロードウェイ・ミュージカル事典」 重
木昭信 平凡社 24,200円
「京劇『政治の国』の俳優群像 ちくま学芸文庫
カー61—1」 加藤徹 筑摩書房
「NAGASE ある俳優に関する考察」 永瀬正敏
A PEOPLE 3,520円
「阪元裕吾監督&脚本本作品 2016—2025 コンブ
リートブック」 阪元裕吾 イカロス出版 2,970円
「SHOW—HEYシネマルーム 57 2025年上半年
お薦め55作」 坂和章平 ブイツーソリューション
1,320円
「浅草寺日記 第45巻 補遺編 5」 金竜山浅草寺
11,000円
「日本史のなかの兄弟たち 中公新書ラクレ 846」
安藤優一郎 中央公論新社 1,155円
「北斎・広重 二人の偉大な浮世絵師」 中右瑛 芸
艸堂 3,850円
「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年7月
23日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン
2,699円
「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年8月
6日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン
2,699円
「歌劇 2025年 7月号」 宝塚クリエイティブア
ーツ 750円
「宝塚GRAPH 2025年8月号」 宝塚クリエイ
ティブアーツ 750円
「ル・サンク 2025年7月号」 宝塚クリエイ
ティブアーツ 1,000円
「Stage fan Vol.49 MEDIABOY MOOK」 メ
ディア・ボーイ 1,200円
「STAGE navi vol.103 NIKKO MOOK TV
naviプラス」 産経新聞出版 1,100円
「Sparkle vol.61 MEDIABOY MOOK」 メ
ディア・ボーイ 1,980円
「えんぶ 2025年8月号」 えんぶ 600円
「演劇と教育 2025年8月号」 晩成書房 990円
「テアトロ 2025年8月号」 カモミール社 1,300
円

《8月》

「入門講座 三島由紀夫 31作品の勤どころ 平凡
社新書 1087」 佐藤秀明 平凡社 1,155円
「はじめての歌舞伎」 利根川裕 世界文化社
1,980円
「戦下の歌舞伎巡業記 柝の音は止まず」 岡崎成美
河出書房新社 3,520円

「みんなが知りたい！日本の『無形文化遺産』 世界にほこる伝統的な技と文化 まなぶっく」 文化遺産を学ぶ会 メイツユニバーサルコンテンツ 1,991円

「近松・西鶴・芭蕉と出版文化」 長友千代治 勉誠社 8,800円

「宝塚歌劇 礼真琴論 黄金世代と呼ばれた95期」 松島奈巳 東京堂出版 1,980円

「宝塚1stフォトブック 彩海せら 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円

「中学校創作脚本集 2025」 中学校創作脚本集2025編集委員会 晩成書房 3,080円

「シテの花 —能楽師・葉賀琉太郎の咲き方— 3少年サンデーコミックススペシャル」 志原ちぐさ 宝生和英 小学館 770円

「能楽堂の誕生 『日本の近代化』を遂げた劇場空間」 辻慎一郎 中央公論美術出版 6,820円

「花もよ 第81号 能と狂言総合誌」 花もよ 700円

「ベンヤミンの映画俳優論 複製芸術論文を読み直す クリティーク社会学」 長谷正人 岩波書店 2,530円

「悲劇喜劇 2025年9月号」 早川書房 1,700円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年8月20日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年9月3日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌劇 2025年8月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「宝塚GRAPH 2025年9月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「Stage fan Vol.50 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,200円

「テアトロ 2025年9月号」 カモミール社 1,300円

《9月》

「アメリカ演劇 36 ジャンルを超えるアメリカ演劇特集 2」 日本アメリカ演劇学会 日本アメリカ演劇学会 1,650円

「日韓演劇の比較文化史」 李應壽 晃洋書房 6,380円

「いしかわ舞台芸術祭2025 公式ガイドブック 通常版」 かなざわ演劇人協会 1,700円

「いしかわ舞台芸術祭2025 公式ガイドブック 表

紙限定版」 かなざわ演劇人協会 1,700円

「鈴木忠志が語る／鈴木忠志を語る 世界は日本だけではない 日本は東京だけではない 利賀村で世界に出会う」 成田龍一 本橋哲也 読書人 2,970円

「宝塚1stフォトブック 天飛華音 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円

「雪組『An American in Paris』 タカラヅカMOOK ル・サンク特別編集」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円

「戯曲 扉」 KONKOKO 文芸社 1,100円

「学校では教えてくれないシェイクスピア 『名作』と友達になる」 北村紗衣 朝日出版社 2,090円

「日々謳歌」 當真あみ 日経BP 2,750円

「『日本文化論』はどう創られてきたか 戦時下のモンスタージュ 集英社新書 1278B」 大塚英志 集英社 1,430円

「戦争映画の誕生 帝国日本の映像文化史」 大月功雄 人文書院 7,150円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年9月17日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年10月1日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌劇 2025年9月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「宝塚GRAPH 2025年10月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「ル・サンク 2025年9月号」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円

「Stage fan Vol.51 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,200円

「えんぶ 2025年10月号」 えんぶ 600円

「STAGE navi vol.104 NIKKO MOOK TV naviプラス」 産経新聞出版 1,100円

「演劇と教育 2025年10月号」 晩成書房 990円

「テアトロ 2025年10月号」 カモミール社 1,300円

《10月》

「演劇と観光 近代娯楽文化の生態系と舞台芸術」 マーガレット・ウェリー 小畑克典 福村出版 3,190円

「エメ・セゼール 『黒人』の発明 筑摩選書 0316」 尾立要子 筑摩書房 2,310円

「『無言館』からの旅 仕事抄 2」 山本晴彦 ウイ

ンかもがわ 1,980円
 「最後の異端者 評伝 美輪明宏」 平坂純一 扶桑社 1,760円
 「わたしの学術書 2 博士論文書籍化をめぐる」 春風社編集部 春風社 2,750円
 「歌舞伎の戦争 十五年戦争とその影」 ジェームズ・R.ブランドン 小田中章浩 岩井眞實 名古屋大学出版会 6,930円
 「宝塚1stフォトブック 風色日向 2025 タカラヅカMOOK」 宝塚クリエイティブアーツ 2,100円
 「シルヴェスター・リーヴァイ 音のある人生 映画音楽からミュージカル『エリザベト』、そして今」 シルヴェスター・リーヴァイ カール・ホーエンローエ 大井知範 日之出出版
 「イブセン戯曲選 海の夫人/ヘッダ・ガーブレルリルユール叢書」 ヘンリック・イブセン アンネ・ランデ・ペータス 長島確 幻戯書房 4,620円
 「アメリカン・ミュージカルと文化表象」 本秀行 渡邊真理香 小鳥遊書房 3,740円
 「狩野派絵師の能楽への眼差し 令和7年度国立能楽堂特別展」 国立能楽堂事業推進課調査資料係 日本芸術文化振興会 3,300円
 「能楽史のなかの世阿弥」 天野文雄 べりかん社
 「きもの、どう着てる? 私の『スタイル』探訪記」 山内マリコ プレジデント社 2,200円
 「小林賢次著作集 第三巻 狂言台本の研究とことば(その一)」 小林賢次 小林千草 賢草日本語研究会 武蔵野書院 12,100円
 「花もよ 第82号 能と狂言総合誌」 花もよ 700円
 「TVガイドStage Stars vol.31 舞台作品の魅力と俳優の新たな一面に迫るビジュアルマガジン TOKYO NEWS MOOK 1215号」 東京ニュース通信社 1,980円
 「三島由紀夫を見つめて」 四方田犬彦 ホーム社 3,520円
 「昭和 スターたちの素顔 ショーケンから小百合・裕次郎まで」 中野信行 彩流社 2,200円
 「壁をブチ破る天才100の言葉」 真山知幸 彩図社 900円
 「映画をつくる 新装版」 山田洋次 大月書店 2,200円
 「時代に愛された人たち 2 一世を風靡した芸能人ら39人の声 論創ノンフィクション 67」 中野裕子 論創社
 「プロ作家・脚本家・プロデューサーが使っているシナリオ・センター式 物語のみがき方」 新井一樹 日本実業出版社 1,980円

「悲劇喜劇 2025年11月号」 早川書房 1,700円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年10月15日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年11月1日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円
 「歌劇 2025年10月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円
 「宝塚GRAPH 2025年11月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円
 「ル・サンク 2025年11月号」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円
 「Stage fan Vol.52 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,200円
 「STAGE navi vol.105 NIKKO MOOK TV naviプラス」 産経新聞出版 1,100円
 「Sparkle vol.62 MEDIABOY MOOK」 メディア・ボーイ 1,980円
 「テアトロ 2025年11月号」 カモミール社 1,300円

《11月》

「近世演劇への展望」 原道生 文化資源社 9,680円
 「渋谷半世紀 都市×カルチャー×未来」 内田朋子 後藤充 晶文社 1,980円
 「ある日、西の方角が吉と出たので」 大歳倫弘 ループ舎 1,760円
 「芥川龍之介が描いた近代中国の都市空間 揺らぐアイデンティティ」 姚紅 春風社 5,500円
 「『文豪とアルケミスト』を本気で考えてみた」 梅澤亜由美 大木志門 掛野剛史 ひつじ書房 2,970円
 「歌舞伎キャラクター絵図 増補改訂版 厳選55演目の楽しみ方と観劇の基本がわかる本 コツがわかる本」 辻村章宏 「江戸楽」編集部 メイツユニバーサルコンテンツ 1,892円
 「血と芸 非世襲・女役者の覚悟」 河合雪之丞 かざひの文庫 1,870円
 「星組『ダンサセレーナータ』『Tiara Azul—Destino—2』 タカラヅカMOOK ル・サンク特別編集」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円
 「戯曲・狩場の悲劇 アントーン・パーヴロヴィチ・チェーホフ」 永井愛 而立書房 1,980円
 「作品名から引ける戯曲・シナリオ集案内」 日外アソシエーツ 日外アソシエーツ 14,850円
 「花しまい 短歌&写真&戯曲」 小野小町 つむぎ

書房 2,750円

「萩尾望都スケッチ画集 1 『ポーの一族』と幻想世界」 萩尾望都 新潮社 4,070円

「江戸の読書図鑑」 飯田泰子 芙蓉書房出版 2,530円

「ミュージカル『青春—AOHARU—鉄道』 X yearsコンプリートブック」 ミュージカル「青春鉄道」製作委員会 KADOKAWA 3,080円

「声楽学習者のためのミュージカルアリア名曲集 ドイツ・イタリア・フランス語編」 田辺とおる ドレミ楽譜出版社 2,750円

「シテの花 一能楽師・葉賀琉太郎の咲き方— 4 少年サンデーコミックススペシャル」 壱原ちぐさ 宝生和英 小学館 770円

「謹訳世阿弥能楽集 下」 林望 檜書店 2,200円
「はじめての能」 多田富雄 森田拾一郎 世界文化社 2,200円

「月刊大和路ならら 2025年11月号」 月刊大和路ならら編集部 ならら文化交流機構 660円

「作家がスターだった時代 文春文士劇の45年」 道又力 現代書館

「日本初の農村劇団『嫩葉会年鑑』 増補版 安元知之の生涯 文芸社セレクション」 安元知之 中村英子 中村瑠美子 文芸社 880円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年11月26日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌劇 2025年11月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「宝塚GRAPH 2025年12月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「テアトロ 2025年12月号」 カモミール社 1,300円

「STAGE navi vol.106 NIKKO MOOK TV naviプラス」 産経新聞出版 1,100円

「えんぶ 2025年12月号」 えんぶ 600円

《12月》

「げき 30 児童・青少年演劇ジャーナル」 児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会 児童・青少年演劇ジャーナル(げき)編集委員会 1,760円

「亡命ロシア演劇 ウクライナ侵攻後の亡命演劇とロシア国内の演劇」 岩田貴 水声社 3,520円

「(重ね)と(陰陽)の日本文化—生命の美学 埼玉学園大学研究叢書 第23巻」 柴田勝二 新典社 2,200円

「宮沢賢治をゆっくり読む アート・仏教・ビジネスの交差点へ」 岡田基生 ヘウレーカ 2,420円

「歌舞伎 四季の巡り」 上村以和於 慶應義塾大学出版会 2,970円

「やさしい歌舞伎鑑賞 改訂新版 マンガで教養」 清水まり 1,540円

「宝塚イズム 52 特集：永久輝・鳳月・朝美・暁・桜木、新体制の輝き」 藪下哲司 橘涼香 青弓社

「ときには恋への招待状 詩人からさまざまな方へ、宝塚公演へのおさそいの記録。」 最果タヒ 河出書房新社

「花組『Goethe!』 タカラヅカMOOK ル・サンク特別編集」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円

「言式 戯曲集」 梅津瑞樹 KADOKAWA 3,300円

「『ドン・キホーテ』とともに」 京都セルバンテス懇話会 行路社 2,860円

「芝居狂 役者・加藤健一」 中村義裕 東京堂出版 2,750円

「奥野信太郎旧蔵戯単図録 慶應義塾大学所蔵 中国芝居番付コレクション」 波多野真矢 花書院 4,840円

「能と狂言 23 特集：太平記と能」 能楽学会 2,200円

「小林賢次著作集 第四巻 狂言台本の研究とことば(その二)」 小林賢次 小林千草 賢草日本語研究会 武蔵野書院 11,000円

「花もよ 第83号」 能と狂言総合誌 花もよ 700円

「名刀ファンもうなる！時代劇アゲイン 『七人の侍』から『侍タイムスリッパ』まで」 町田てつ IDP出版 1,980円

「大江戸交際・交流百景」 西田知己 東京堂出版 2,640円

「浮世草子と江戸戯作」 神谷勝広 汲古書院 7,700円

「ミュージカル新時代」 井上芳雄 日経BP 2,200円

「永遠なるポヘミアン・ラブソディ 『オペラ座の夜』のすべて」 吉田聡志 シンコーミュージック・エンタテイメント 3,000円

「まんが音楽の歴史 3 学研音楽まんがシリーズ ロマン派～近現代」 ひのまどか 市川賢司 Gakk en 1,870円

「『冗談画報』という楽しい番組があった」 泉麻人 三賢社 2,310円

「新編 黒柳徹子的一生懸命対談 ちくま文庫 く—37—1」 黒柳徹子 筑摩書房

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年12月10日号」 アシェット・コレクションズ・ジャパ

ン 2,699円

「歌舞伎特選DVDコレクション全国版 2025年12月24日号」 アシエット・コレクションズ・ジャパン 2,699円

「歌劇 2025年12月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「宝塚GRAPH 2026年1月号」 宝塚クリエイティブアーツ 750円

「ル・サンク 2025年12月号」 宝塚クリエイティブアーツ 1,000円

「テアトロ 2026年1月号」 カモミール社 1,300円

「悲劇喜劇 2026年1月号」 早川書房 1,700円

「STAGE navi vol.107 NIKKO MOOK TV naviプラス」 産経新聞出版 1,100円

「演劇と教育 2025年12月号」 晩成書房 990円

令和7年 演劇関係物故者一覧

※敬称略

【1月】

●**俵孝太郎** 政治評論家、キャスター。1月1日、肺がんのため死去。94歳。東京大学を卒業後、1953年に産経新聞社に入社。政治部記者、論説委員などを経て69年に退社。文化放送のキャスターを担当した後、フジテレビ『FNN ニュースレポート』のキャスターに就任。番組冒頭の「こんばんは、俵孝太郎です」という鼻にかかった独特の声の挨拶がモノマネされるなど、視聴者に親しまれた。

●**ロジータ・ミッソーニ** 「ミッソーニ」共同創業者兼名誉会長。1月1日、死去。93歳。1953年に夫のオッタヴィオ・ミッソーニと共に、小さな工房でニットウェアのビジネスをスタート。今日の“ミッソーニスタイル”の基礎を築いた。66年にミラノのジェローラモ劇場で初のファッションショーを開催し、画期的なコレクションを発表。その後も独特のニットスタイルで世界的な人気ブランドに築き上げた。

●**岸野佑香** 俳優。1月3日、大腸がんのため死去。81歳。文学座附属研究所を経て、1963年に劇団民藝俳優教室に入る。主な出演作に『セールスマンの死』『イルクーツク物語』『リリオム』『日の出』など。また舞台『イエルマ』『裸の大將放浪記』『華やぎの糸』、映画『絶唱』『黒部の太陽』など劇団公演以外でも活躍。平安朝日本語復元の試み『源氏物語』の朗読を2014年から続けていた。

●**原広司** 建築家。1月3日、死去。88歳。超高層ビル2棟を連結した大阪・梅田スカイビルや、大きな吹き抜けと谷のような階段を備えたJR京都駅ビル、庭のような建築として構想した札幌ドームなどを設計した。

●**李恢成** 作家。1月5日、誤嚥性肺炎のため死去。89歳。在日朝鮮人2世として生まれ、大学卒業後、朝鮮新報社の記者を経て、1996年『またふたたびの道』で群像新人文学賞を受賞して作家デビュー。72年の『砧をうつ女』で外国籍で初めて芥川賞を受賞、94年『百年の旅人たち』で野間文芸賞を受賞した。

●**ピーター・ヤロー** 「ピーター・ポール&

マリー」メンバー。1月7日、膀胱がんのため死去。86歳。1960年代に「ピーター・ポール&マリー」を結成し、代表曲『パフ』などが世界的に大ヒットした。ベトナム反戦や公民権運動など社会問題に目を向けたメッセージ性の強い楽曲で当時の若者らに人気を博した。

●**佐野成宏** テノール歌手。1月10日、急性心不全のため死去。59歳。東京藝術大学声楽家を卒業後、イタリアに留学。多くの国際コンクールで入賞した。2001年にはローマ歌劇場『つばめ』に出演し、高い評価を受けた。

●**三浦洗一** 歌手。1月11日、老衰のため死去。戦後に東洋音楽学校(現：東京音楽大学)に進み、声楽科を卒業後、日本ビクターレコードに入社。作曲家・吉田正に師事し、1953年『さすらいの恋唄』でデビュー。『落葉しぐれ』『弁天小僧』『東京の人』などのヒットを飛ばし、春日八郎、三橋美智也とともに「御三家」と呼ばれ人気を博した。

●**山田火砂子** 映画監督。1月13日、誤嚥性肺炎と敗血症のため死去。92歳。舞台俳優などを経て1972年「現代ぶろだくしゅん」に参加、実写版『はだしのゲン』、『裸の大將放浪記』などをプロデュースした。アニメ『エンジェルがとんだ日』で初監督。他に『われ弱ければ』など障がい者福祉や女性の自立などをテーマにした作品を手がけ、「国内最高齢の女性監督」として知られた。2024年の寺島しのぶ主演『わたしのかあさんー天使の詩ー』が最後の作品となった。

●**津田英治** ナレーター。1月13日、死去。76歳。JR東日本やJR西日本・大阪環状線、JR東海・中央本線、近畿日本鉄道などの数多くの駅構内アナウンスの声で知られるほか、CMナレーションでも活躍した。

●**西園寺章雄** 俳優。1月14日、死去。77歳。高校卒業後に関西芸術座に入団。その後、「必殺仕事人」「暴れん坊将軍」「水戸黄門」「大岡越前」「銭形平次」シリーズ、NHK大河ドラマ『花神』など時代劇で活躍。またNHK連続テレビ小説『ウェルかめ』『カーネーション』『ごちそうさん』『まんぷく』など関西制作の話題作にも出演

した。一方で関西芸術座で舞台演出、日本ナレーション演技研究所の教務主任を務めるなど、若手の育成にも尽力した。

●**リンダ・ノーラン** 「ノーランズ」元メンバー。1月15日、死去。「ノーランズ」のメンバーとして発表した『ダンシング・シスター』がヒット、1980年に日本でもオリコン1位を獲得した。

●**デビッド・リンチ** 米・映画監督。1月16日、死去。78歳。大学卒業後に短編映画などを製作した後、1977年『イレイザーヘッド』で長編映画監督デビュー。80年『エレファント・マン』が世界的なヒット作となった。86年『ブルーベルベット』と2001年『マルホランド・ドライブ』で全米映画批評家協会賞作品賞を受賞。テレビドラマ『ツイン・ピークス』も世界中でヒット。サスペンス、ホラー、暴力を独特の美的感覚で描き「カルト映画の帝王」とも呼ばれた。

●**上田正治** 映画撮影監督。1月16日、急性心筋梗塞のため死去。87歳。1956年に東宝に入社、83年にフリーに。『影武者』『乱』『まあだだよ』など黒澤明監督作品に携わり、『乱』は米・アカデミー賞で撮影賞にノミネートされた。小泉堯史監督『雨あがる』などで日本アカデミー賞最優秀撮影賞を受賞したほか、国内の映画賞を多数受賞した。

●**久保田圭司** 脚本家。1月16日、肺炎のため死去。92歳。出版社勤務を経て脚本家に。テレビドラマ『ハレンチ学園』や特撮ドラマ『ウルトラマンA』、アニメ『科学忍者隊ガッチャマン』などの脚本を手がけた。また映画『縄張はもらった』『大幹部 無頼』などの映画作品にも参加した。

●**アイ・ジョージ** 歌手。1月18日、心筋梗塞のため死去。91歳。「黒田春雄」名義で流しのギター弾きやクラブ歌手として活動後、1959年「アイ・ジョージ」としてデビュー。同年に「トリオ・ロス・パンチョス」来日公演に前座として出演、本格的にラテン曲の歌い手として注目され、61年『硝子のジョニー』で日本レコード大賞歌唱賞を受賞、65年にデュエット曲『赤いグラス』がヒットし、NHK紅白歌合戦に12回連続出場。俳優としても映画などに多数出演した。

●**松本昭典** 脚本家。1月18日、急性肺炎のため死去。96歳。代表作にテレビドラマ『ダイヤル110番』など。

●**桂敬一** メディア研究者。1月19日、病気のため死去。89歳。大学卒業後に日本新聞協会事務局に就職、協会の研究所長を務めた。「マスコミ九条の会」呼びかけ人。著書に『現代の新聞』『日本の情報化とジャーナリズム』など。

●**川辺久造** 俳優。1月26日、肺炎のため死去。92歳。1953年、文学座研究所に入所し、57年から座員に。代表作にヒロインの夫を演じた『女の一生』など。「水戸黄門」「キイハンター」シリーズ、NHK大河ドラマ『山河燃ゆ』『元祿繚乱』などドラマにも多数出演。知的な悪役などで作品の脇を固めた。長年にわたる演劇活動の成果が認められ、2015年第50回紀伊國屋演劇賞50回記念特別賞「田辺茂一賞」を受賞した。

●**西山正啓** 記録映画作家。1月26日、死去。77歳。水俣病や沖縄戦、軍事基地、原発事故など国内外の現場を取材してドキュメンタリー映画を製作。代表作に『ゆんたんざ沖縄』『水俣わが故郷 ほつとはうす流もやい直し』『脱原発 いのちの闘争』など。

●**秋山和慶** 指揮者。1月26日、肺炎のため死去。84歳。1964年に東京交響楽団でデビュー後、広島交響楽団、バンクーバー交響楽団など国内外の楽団で活躍した。2014年文化功労者。

●**森永卓郎** 経済アナリスト。1月28日、原発不明がんのため死去。67歳。1980年に東京大学経済学部卒業後、日本専売公社(現:日本たばこ産業)に入社。経済企画庁(現:内閣府)などへの出向を経て、民間シンクタンクや大学で経済分析に従事。テレビ番組にも数多く出演し、お茶の間にも親しまれた。

●**下條アトム** 俳優。1月29日、死去。78歳。俳優・下條正巳と元俳優・田上嘉子の元に生まれ、1969年放送のNHK連続ドラマ『信子とおばあちゃん』でドラマデビュー。その後も同『藍より青く』『マー姉ちゃん』のほか、「太陽にほえろ!」「相棒」「火曜サスペンス劇場」「土曜ワイド劇場」シリーズなど多くのドラマに出演。声優としても活躍し、エディ・マーフィーの吹替を長年担当。またバラエティ番組などのナレーションも数多く務め、『世界ウルルン滞在記』では「○○に出会ったあ〜」という独特の口調のナレーションで親しまれた。

●**マリアンヌ・フェイスフル** 英・歌手、俳優。1月30日、死去。78歳。1964年『涙あふれ

て』で歌手デビュー。60年代のロックスターのアイコンとしての地位を獲得。ローリング・ストーンズのミック・ジャガーの恋人としても知られた。68年の映画『あの胸にもういちど』では主演を務めアラン・ドロンと共演。同作内で見せた素肌に革のライダーズ・スーツでバイクを乗るシーンは、アニメ『ルパン三世』の峰不二子のモデルとなったとされた。

●**ディック・バトン** 元フィギュアスケート選手。1月30日、死去。95歳。1948年サンモリッツ大会、52年オスロ大会両五輪で金メダルを獲得する連覇を達成。世界選手権は48年から五連覇を成し遂げた。ダブルアクセル、3回転ループを大会で初めて成功させたことでも知られる。76年世界フィギュアスケート殿堂入り。

【2月】

●**小長井信昌** 元白泉社社長。2月2日、老衰のため死去。94歳。1955年に集英社に入社、『りぼん』編集部を経て69年『別冊マーガレット』編集長に。73年に白泉社創立に参加、編集担当役員・編集者として『花とゆめ』『LaLa』などを創刊。『花とゆめ』では美内すずえ『ガラスの仮面』や和田慎二『スケバン刑事』などを担当した。90年に同社社長に就任、2004年に退社。12年文化庁メディア芸術祭功労賞。

●**バービー・スー(徐熙媛)** 台湾・俳優。2月2日、肺炎のため死去。48歳。俳優、タレント、司会者などとして活動。日本の人気ドラマ『花より男子』の台湾版『流星花園』でヒロイン役を務めたことで知られる。

●**吉田義男** 元プロ野球選手。2月3日、脳梗塞のため死去。91歳。1953年に大阪(現：阪神)に入団。走攻守三拍子そろった遊撃手として1年目から頭角を現し、守備では「牛若丸」の異名がつくほど華麗なプレーでファンを魅了した。監督として85年にランディ・バース、掛布雅之、岡田彰布らの強力打線を武器に21年ぶりのリーグ優勝、日本シリーズでも2リーグ分立後初の日本一にチームを導いた。92年野球殿堂入り。

●**桑原康伸** ロックバンド「ガガガSP」ベーシスト。2月5日、心不全のため死去。44歳。2001年12月に「ガガガSP」に加入。02年発売『卒業』がヒットし、「青春パンクバンド」の旗手として

人気を誇った。

●**尾形規矩子** 舞台衣裳デザイナー。2月7日、心不全のため死去。96歳。京都市立美術大学(現：京都市立芸術大学)在学中から演劇に傾倒し、学生劇団などに参加。卒業と共に劇団喜劇座を起す。1952年に関西歌劇団『椿姫』で舞台衣裳デザイナーとしてデビュー。以降、オペラやバレエのほか、坂東玉三郎、栗山民也・演出作品、劇団民藝の舞台など幅広いジャンルで衣裳を手がけるなど、舞台衣裳デザイナーの先駆者として活躍した。06年朝日舞台芸術賞特別賞、19年文化庁長官表彰、21年読売演劇大賞芸術名誉賞。

●**五十嵐威暢** 元多摩美術大学長、彫刻家。2月12日、進行性核上性まひで死去。80歳。札幌市出身で、JR札幌駅南口『星の大時計』のデザインなどを手がけた。2011～15年に多摩美術大学長を務めた。

●**大藏吉次郎** 狂言師。2月15日、急性骨髄性白血病のため死去。75歳。二十四世宗家大藏彌右衛門の次男。5歳の時に『靱猿』の子猿で初舞台。1989年に前宗家の成人名「吉次郎」を襲名。自ら主催する『吉次郎狂言会』では、大曲・名曲・稀曲に意欲的に取り組み、『吉左右会』では若手を中心にした舞台を創り上げ、次世代への伝統継承にも尽力した。重要無形文化財音楽〈総合認定〉保持者。

●**入船亭扇海** 落語家。2月15日、すい臓がんのため死去。72歳。1976年に九代目入船亭扇橋に入門。78年に扇たくの名で前座となり、81年に二ツ目に昇進し扇海に。95年に真打に昇進した。

●**堀口忠彦** 映像作家、アニメーター。2月17日、死去。81歳。NHK『おかあさんといっしょ』『みんなのうた』のアニメーションを多数手がけたほか、運送会社「ヤマトホールディングス」のイメージキャラクター「クロネコ、シロネコ」の初代キャラクターデザインを担当した。

●**ジェリー・パトラ** 米・歌手。2月20日、死去。85歳。友人らとバンドを組んで活動、1958年発表の『フォー・ユア・プレシャス・ラブ』で注目された。ソロに転向後、『オンリー・ザ・ストロング・サバイブ』など60年代を中心に多くのヒット曲を出した。

●**桂才賀** 落語家。2月21日、虚血性心疾患の

ため死去。74歳。九代目桂文治に入門し、1980年に『笑点』の大喜利メンバーに加わった。85年に真打ちに昇進し七代目桂才賀を襲名。88年に『笑点』を降板後は、刑務所や少年院の慰問活動に力を注いだ。

●**ロバータ・フラック** 米・歌手。2月24日、死去。88歳。1971年公開の映画『恐怖のメロディ』で、デビューアルバムの収録曲『愛は面影の中に』が使用されて一躍スターダムに。73年、『やさしく歌って(Killing Me Softly with His Song)』が全米1位を獲得する大ヒットとなり、米グラミー賞最優秀レコード賞、最優秀楽曲賞、最優秀女性ボーカル賞を受賞した。同曲は日本でもインスタントコーヒーのCMソングに使用されて人気を集めた。

●**ロベルト・オーチー** 脚本家、プロデューサー。2月25日、死去。51歳。ハリウッドで最も人気のある脚本家の一人として知られた。代表作に『スタートレック』『スタートレック イントゥ・ダークネス』『トランスフォーマー』『トランスフォーマー/リベンジ』『アメイジング・スパイダーマン2』など。

●**ジーン・ハックマン** 米・俳優。2月26日、自宅で死亡しているのが見つかった。95歳。海兵隊を除隊後、様々な職業を経て俳優を志す。1967年の映画『俺たちに明日はない』で主人公の兄役を演じて世界的に注目された。『フレンチ・コネクション』でアカデミー賞主演男優賞、『許されざる者』で同助演男優賞を受賞した。

●**曾野綾子** 作家。2月28日、老衰のため死去。93歳。1953年、同人誌『新思潮』で出会った作家・三浦朱門と結婚。阿川弘之や遠藤周作らと共に「第三の新人」と呼ばれた。54年『遠来の客たち』が芥川賞候補となり、以降『神の汚れた手』『無名碑』『天上の青』などの小説を発表。またエッセイストとしても知られ、『老いの才覚』『誰のために愛するか』『人間の間際』などがベストセラーとなった。日本芸術院賞・恩賜賞、菊池寛賞などを受賞。2003年文化功労者。

●**ミシェル・トラクテンバーグ** 米・俳優。2月26日、死去。39歳。3歳でCMなどに出演以降、ドラマなどに活躍の場を広げる。2008年には日本のほか世界的に人気となったドラマ『ゴシップガール』で主人公の同級生を名乗る悪女

役を演じ、注目を集めた。

●**枝元なほみ** 料理研究家。2月27日、間質性肺炎のため死去。69歳。劇団員を経て料理研究家の道へ。NHK『きょうの料理』『ひとりのできるもん!』などに出演して人気を集めた。

●**吉田文司** 人形浄瑠璃音楽人形遣い。2月28日、肝硬変のため死去。68歳。1975年に吉田小玉に入門。吉田若玉として76年に初舞台。90年に文司に改名した。

【3月】

●**みのもんだ** タレント。3月1日、死去。80歳。1967年に文化放送に入社。退職後フリーアナウンサーとなり、『プロ野球珍プレー好プレー大賞』のナレーションで注目された。その後、情報番組『午後は〇〇おもしろテレビ』『みのもんだの朝スバツ!』、バラエティー番組『どうぶつ奇想天外!』『秘密のケンミンSHOW』などの司会を務め、軽妙な語り口で人気を集めた。『クイズ\$ミリオネア』で回答者に問いかける「ファイナルアンサー?」は流行語にもなった。2006年には週11番組に出演し、「1週間で最も多く生番組に出演する司会者」としてギネス世界記録に認定された。

●**田中亨** ファーンウッド特別顧問。3月4日、うっ血性心不全のため死去。79歳。大学在学中からテレビ番組制作に携わり、芸能プロダクション入社後、歌手、俳優のマネジメントを行った。十七代目中村勘三郎との親交をきっかけに、1981年から十八代目中村勘三郎のマネジャーを務める。99年に「ファーンウッド」を設立、マネジメントのほか舞台、テレビ番組、映画の企画、プロデュースも行った。十八代目勘三郎亡き後も勘九郎、七之助、勘太郎、長三郎を担当、中村屋四世代を約45年に渡りマネジメントした。

●**ロイ・エアーズ** 米・ミュージシャン。3月4日、死去。84歳。ジャズ・ファンクの先駆者として知られ、音楽グループ「ロイ・エアーズ・ユビキティ」で1976年に発売したアルバム『エブリバディ・ラブズ・ザ・サンシャイン』が世界的に大ヒットした。

●**サイモン・フィッシャー=ベッカー** 英・俳優。3月9日、死去。63歳。1990年から俳優として活動し、名脇役として約50本の映画やドラマ

に出演。人気ドラマ『ドクター・フー』、映画『レ・ミゼラブル』のほか、映画『ハリー・ポッターと賢者の石』でhogwartsの寮に住み憑くゴースト「太った修道士」を演じた。

●**中山彰規** 元体操選手。3月9日、胃がんのため死去。82歳。1968年のメキシコ五輪に初出場、団体総合制覇に貢献し、個人総合で銅メダル。種目別はつり輪、平行棒、鉄棒を制し、1日で3個の金メダルに輝いた。床運動の銀も含めて1大会で6個のメダルを獲得。72年ミュンヘン五輪では団体総合と種目別つり輪で連覇を果たし五輪獲得メダルを計10個に伸ばした。つり輪などで「ナカヤマ」と命名された新技に成功した。

●**いしだあゆみ** 俳優、歌手。3月11日、甲状腺機能低下症のため死去。76歳。作曲家・いずみたくに師事し、1964年に歌手デビュー。68年『ブルーライト・ヨコハマ』がミリオンヒットとなり、NHK紅白歌合戦には通算10回出場した。また俳優として映画『駅 STATION』『男はつらいよ 寅次郎あじさいの恋』、ドラマ『北の国から』『金曜日の妻たちへ』『青春家族』など多くの作品に出演。77年の映画『青春の門 自立編』で報知映画賞助演女優賞、87年に映画『火宅の人』『時計 Adieu l'Hiver』の2作品で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞した。2021年旭日小綬章。

●**稲垣隆史** 俳優。3月12日、肺炎のため死去。87歳。高校卒業後、俳優座養成所を経て1959年劇団民藝研究生になり、64年に団員に。主な出演作に『イルクツク物語』『炎の人』『どん底』『怒りのぶどう』『巨匠』など。劇団公演以外に日活映画作品や舞台などに多数出演。また声の出演も多く、映画「スター・ウォーズ」シリーズのパルパティーン最高議長、「ハンガーゲーム」シリーズのコリオラヌス・スノー大統領などで知られたほか、海外ドラマ「ER救急救命室」「ホワイトハウス」シリーズなどでも吹替を担当した。

●**殿田謙吉** 能楽師、下掛生流ワキ方。3月16日、膵がんのため死去。65歳。能楽師・殿田保輔の長男。古典を始め、新曲や復曲にも数多く携わった。重要無形文化財保持者(総合認定)。

●**田中雅美** 作家。3月18日、間質性肺炎のため死去。67歳。1979年『いのちに満ちる日』で小説新潮新人賞を受賞。少女向け小説をコバル

ト文庫で数多く執筆。代表作に『真夜中のアリス』など。

●**中澤日菜子** 作家、劇作家。3月23日、脳幹出血のため死去。56歳。慶應義塾大学在学中に「不等辺さんかく劇団」を旗揚げして脚本・演出を担当。『ミチユキ→キサラギ』で仙台劇のまち戯曲賞大賞、小説『柿の木、枇杷も木』で小説現代長編新人賞を受賞した。同作は『お父さんと伊藤さん』と改題して刊行、映画化もされた。『PTAグランパ!』はドラマ化もされた。

●**久世浩** 殺陣師。3月23日、肺炎のため死去。79歳。黒澤明監督『椿三十郎』殺陣担当・久世竜に師事。1979年『青春の門』で独立し、同監督『乱』のほか、『天と地と』『岸和田少年愚連隊』『たそがれ清兵衛』『武士の一分』など数多くの映画、テレビ時代劇で殺陣を手がけた。また、殺陣師やアクション俳優が所属する「久世七曜会」を立ち上げ、後進の育成にも尽力。2011年日本アカデミー賞協会特別賞受賞。

●**篠田正浩** 映画監督。3月25日、肺炎のため死去。94歳。大学卒業後の1953年に松竹大船撮影所に入り、60年『恋の片道切符』で監督デビュー。寺山修司が脚本を務めた同年『乾いた湖』で評価を得て、大島渚、吉田喜重らと共に「松竹ヌーベルバーグ」の旗手と評された。67年に岩下志麻と結婚。独立プロ「表現社」を設立後、69年『心中天網島』で、近松門左衛門の人物浄瑠璃の世界を実験的な様式美で表現。86年には同じ近松原作の『鍵の権三』でベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞した。また坂東玉三郎を主演に迎えた79年『夜叉ヶ池』、84年の夏目雅子主演『瀬戸内少年野球団』、90年『少年時代』など名作を数々と世に送り出した。2003年にCGを駆使した映像美で表現した『スパイ・ゾルゲ』を最後に監督を引退。著作も多く、10年『河原者ノススメ』で泉鏡花文学賞を受賞した。

●**上田秀人** 作家。3月27日、病気のため死去。65歳。歯科医院を営む傍ら時代小説を執筆し、2001年『竜門の衛』でデビュー。13年から専業作家となり、22年「百万石の留守居役」シリーズで吉川英治文庫賞受賞。文庫書き下ろしの時代小説を代表する作家として著書は200冊超に上る。その他「奥右筆秘帳」シリーズなど。

●**芦屋小雁** 喜劇俳優。3月28日、老衰のため死去。91歳。15歳の時、兄で俳優の芦屋雁之助

と共に芸能界にデビュー。兄弟でレギュラー出演した『番頭はんと丁稚どん』などのテレビドラマで人気を博し、コメディーターを中心にテレビや舞台、映画に幅広く出演した。

●**リチャード・チェンバレン** 米・俳優。3月29日、脳卒中による合併症のため死去。90歳。1960年代のテレビドラマ『ドクター・キルデア』で主人公の医師役に起用され一躍人気に。西部開拓史を描いた『遙かなる西部 わが町センチニアル』は日本でも放送され人気となった。80年のドラマ『将軍 SHOGUN』で日本に漂着した英国人航海士を演じ、三船敏郎らと共に、ゴールデングローブ賞男優賞も受賞した。

【4月】

●**赤尾文夫** 旺文社ファウンダー。4月1日、死去。74歳。1974年に旺文社に入社。89年から代表取締役社長、2011年に代表取締役会長を歴任し、16年からファウンダーに就任していた。

●**ヴァル・キルマー** 米・俳優。4月1日、肺炎のため死去。65歳。1986年の大ヒット映画『トップ・ガン』でトム・クルーズ演じる主人公のライバル役を演じ、一躍名を馳せた。2022年の『トップガン マーヴェリック』ではライバル役を再演、クルーズとの再共演を果たした。また95年『バットマン フォーエヴァー』ではブルース・ウェイン／バットマン役を演じるなど、カリスマ性あふれる演技で世界中を魅了した。2015年に咽喉がんと診断され、21年のカンヌ国際映画祭で初公開されたドキュメンタリー映画『ヴァル・キルマー/映画に人生を捧げた男』では、本人が気管切開チューブを使用している様子が描かれ話題となった。

●**谷正純** 宝塚歌劇団演出家。4月5日、死去。72歳。1996年、兵庫・宝塚パウホールでの『散る花よ、風の囁きを聞け』で演出家デビュー。落語を題材とする作品をはじめ、和洋問わず、骨太な歴史物からファンタジー要素がある作品まで、手がけた作品のジャンルは多岐にわたる。代表作に95年『エデンの東』、2002年『プラハの春』、2018年『ANOTHER WORLD』など。植田紳爾が脚本・演出を務めた24年『ベルサイユのばら-フェルゼン編-』では演出を担った。

●**延江浩** ラジオ・プロデューサー。4月6日、致死性不整脈のため死去。67歳。TOKYO FM

顧問・エグゼクティブプロデューサーで、ギャラクシー賞大賞など放送界の賞を多数受賞。作家・村上春樹出演の番組『村上RADIO』などを手がけた。また作家としても活動、主な著作に『愛国とノーサイド』『松本隆 言葉の教室』。

●**山田亮** 4月8日、うっ血性心不全のため死去。51歳。1997年に吉本新喜劇に入団。辻本茂雄や平山昌雄とのトークは人気を博し、広島弁を活かしたキャラクターで人気を集めた。

●**テッド・コッチェフ** 映画監督。4月10日、死去。94歳。英国や米国、オーストラリアでドラマや映画の監督を多数務めた。82年、シルベスター・スタローン主演『ランボー』が世界的大ヒットを記録した。カナダ映画『グラヴィッツ おやじの年季奉公』でベルリン国際映画祭金熊賞を受賞した。

●**徳岡孝夫** ジャーナリスト。4月12日、老衰のため死去。95歳。京都大学を卒業後、毎日新聞社に入社し、社会部記者などを歴任。『サンデー毎日』編集部に所属していた1970年、親交のあった三島由紀夫に呼び出され、自決前の檄文を託されたことで知られる。またノンフィクション作家や翻訳家としても活動し、86年菊池寛賞、91年『横浜・山手の出来事』で日本推理作家協会賞を受賞した。

●**バルガス・リョサ** ペルー・作家。4月13日、死去。89歳。1963年に士官学校の腐敗を描いた『都会と犬ども』で注目を浴び、66年に『緑の家』で作家としての地位を確立。中南米文学の巨匠の一人として知られ、2010年にノーベル文学賞を受賞した。

●**久保浩** 歌手。4月16日、脳出血による衰弱のため死去。78歳。1964年に作曲家・吉田正の門下として『霧の中の少女』でデビュー。その他ヒット曲に『白百合悲し君に似て』『哀愁の街に霧が降る』など。

●**板垣瑞生** 俳優。不慮の事故のため死去したことが4月17日明らかになった。24歳。小学5年生の時にスカウトされて芸能界入り。2014年、映画『闇金ウシジマくんPart2』で俳優デビュー。15年の映画『ソロモンの偽証』で準主役を演じて話題となった。その他、NHK大河ドラマ『花燃ゆ』『麒麟がくる』、NHK連続テレビ小説『エール』、ドラマ『正直不動産2』など。

●**山口崇** 俳優。4月18日、肺がんのため死去。

88歳。NHK俳優養成所、劇団三十人会、劇団俳優小劇場を経て、1974年に小沢昭一らと劇団芸能座を結成。その後、NHK『天下御免』の主人公・平賀源内役で注目を集め、TBS系『大岡越前』徳川吉宗役を約30年も演じた。クイズ番組『クイズ タイムショック』では、二代目司会者として人気を集め、86年3月放送の最終回まで司会を務めた。

●**フランシスコ・ローマ教皇** 4月21日、死去。88歳。アルゼンチン出身で初めて中南米から選ばれた教皇。米国とキューバの歴史的な国交回復を仲介したほか、2019年の訪日では被爆地の広島、長崎から世界に核兵器廃絶を訴えた。

●**大宮エリー** 作家、画家、脚本家。4月23日、病気のため死去。49歳。東京大学薬学部を卒業後、広告代理店勤務のコピーライターなどを経て、作家、画家、脚本家、作家、映画監督、エッセイスト、演出家など幅広い分野で活躍。主な作品に映画『海ではなし。』『桜と印籠』、舞台『だめんず・うぉ〜か〜』『GOD DOCTOR』『SINGER5』、エッセイ『生きるコント』など。またラジオ『オールナイトニッポン』のパーソナリティを2011年1月から12月まで務めて人気を集めた。

●**入江杏子** 俳優。4月24日、老衰のため死去。97歳。高校卒業後、1951年に劇団民藝附属演劇研究所へ入り、56年に劇団員に。主な出演作に『最後の日本と』『アンネの日記』『オットーと呼ばれる人びと』など。劇団以外にも自主公演一人芝居『草文』、舞台『精霊流し』などに出演したほか、映画『坂の上のマリア』やテレビドラマにも多数出演した。檀一雄の小説『火宅の人』に登場する「恵子」のモデルとなったことでも知られる。著書に『壇一雄の光と影』。

●**森永博志** 編集者、作家。4月15日、心不全のため死去。75歳。雑誌『POPYE』『月刊PLAYBOY』などを手がけた。著書に『原宿ゴールドラッシュ』『ドロップアウトのえらいひと』など。

●**角和夫** 阪急阪神ホールディングス(HD)前会長。4月26日、死去。76歳。早稲田大学卒業後、1973年に阪急電鉄に入社。鉄道事業本部長などを経て2003年に社長に就任。ファンド会社による阪神電気鉄道の株式買い占めを巡って、買収防衛として阪神(株)の取得に踏み切り、戦後初となる大手私鉄の経営統合を主導。

60年に阪急阪神HD社長、17年6月に会長に就任。23年には傘下の宝塚歌劇団の問題管理責任などを問われ、宝塚音楽学校の理事長を退任。24年12月に会長兼CEOを退いた。

●**露口茂** 俳優。4月28日、老衰のため死去。93歳。俳優養成所を経て舞台を中心に活動。1964年の今村昌平監督『赤い殺意』で注目を集める。その後、72年放送開始のドラマ『太陽にほえろ!』でベテランの山村刑事役を好演。86年に「殉職」するまで「落としの山さん」として、無口だが懐深い役どころで人気を集めた。また声優としても活躍し、アニメ映画『耳をすませば』バロン役、海外ドラマ「シャーロック・ホームズの冒険」シリーズのホームズ役などで知られた。

【5月】

●**児玉泰次** 俳優。5月7日、老衰のため死去。82歳。1964年に俳優養成所13期生として入団。主な出演作に『北へんろ』『桜の園』『三屋清左衛門残日録〜夕映えの人』『千鳥』、名取事務所『やってきたゴドー』、燐光群『戦争と市民』など。

●**エディ藩** ギタリスト、歌手。5月10日、感染性心内膜炎のため死去。77歳。1967年、「ザ・ゴールデン・カップス」のメンバーとしてデビュー。「長い髪の少女』『愛する君に』などがヒットした。70年代には「エディ藩グループ」などを率いて活動。ソロアーティストとして82年に発表した自身作曲の『横浜ホンキートンク・ブルース』は松田優作、原田芳雄らに歌われた。

●**五代目片岡我當** 歌舞伎俳優。5月11日、肺炎のため死去。90歳。十三代目片岡仁左衛門の長男で、1940年『近頃河原の達引』で片岡秀夫を名のり初舞台。71年『二月堂』ほかで五代目片岡我當を襲名。朗々たるせりふ回しに、スケールの大きな舞台姿、本人の誠実な人柄を映す滋味にじむ演技で、立役として上方歌舞伎から江戸歌舞伎まで幅広い役どころを務めた。特に上方歌舞伎の継承に熱心に取り組み、「上方歌舞伎会」などで上方の若手俳優の指導にも尽力したほか、長年にわたり関西における学生を対象とした「歌舞伎鑑賞教室」を行い、歌舞伎観客の裾野を広げてきた。最後の舞台は2020年2

月歌舞伎座における十三世片岡仁左衛門二十七回忌追善狂言『八陣守護城』佐藤正清。

●**鈴木美智子** タレント。5月12日、老衰のため死去。85歳。1976年から17年に渡ってMBSラジオ『ありがとう浜村淳です』でアシスタントを務めるなど、関西圏のテレビやラジオで活躍した。

●**マーサ三宅** ジャズ歌手。5月14日、死去。92歳。1955年にジャズ歌手としてレコードデビューし、日本のジャズ歌手の草分けとして活躍。「マーサ三宅ヴォーカルハウス」を開校し、大橋純子ら後進の育成にも尽力した。88年にジャズ界で権威のある南里文雄賞を受賞。2000年紫綬褒章、06年旭日小綬章。

●**沢竜二** 俳優。5月21日、心不全のため死去。89歳。旅芝居一家の家庭に生まれて幼少時から九州各地を巡業。1954年に母が率いた「女沢正一座」を受け継ぎ「沢竜二一座」を立ち上げ、大衆演劇のみならず現代演劇や映画、ドラマなどでも活躍。『ゴドーを待ちながら』『ハムレット』『天保十二年のシェイクスピア』など蜷川幸雄演出の舞台上に数多く出演した。

●**柳瀬璋** 毎日放送(MBS)元代表取締役社長。5月21日、肝細胞がんのため死去。92歳。1957年に大阪テレビ放送株式会社(現：毎日放送)に入社。テレビ編成局長などを歴任し、97年に代表取締役社長に就任。2002年、相談役最高顧問となり22年から顧問を務めていた。

●**花井伸夫** 演劇・演芸評論家。5月23日、死去。78歳。スポーツニッポン文化社会部定年後、演劇・演芸評論家として活躍。タカラジェンヌや落語家、漫才師など人脈は多く、『はばたけ宝塚 輝ける瞬間』など著書も多数あるほか、『ザ・テレビ演芸』内のオーディションコーナーに審査員として長く出演した。

●**昭和のいる** 漫才師。5月24日、肺炎のため死去。88歳。1966年、獅子てんや・瀬戸わんやに入門し、昭和こいとコンビを結成。つつこみ役として人気を集め、寄席やテレビなど数多く出演した。

●**岡俊太郎** 元読売テレビアナウンサー。5月24日、死去。80歳。1967年に読売テレビに入社。80年代に夕方のニュース番組『テレトーク10』『ニュースワイドTODAY』『大阪発プラス1』でキャスターを務めた。

●**麻木正美** 元白泉社社長、編集者。5月27日、死去。93歳。1956年に集英社に入り、マンガ雑誌『りぼん』やファッション誌『ノンノ』の編集長などを歴任。92年に白泉社に移り、2000～04年に社長を務めた。

●**西尾芳彦** 音楽プロデューサー、音楽塾ヴォイス塾長。5月30日、死去。63歳。1986年に「西尾芳彦&ライトスタッフ」としてメジャーデビューを果たしたのち、97年に音楽塾ヴォイスを開校。YUI、絢香、家入レオ、Vaundyなど人気アーティストを輩出した。

【6月】

●**長島茂雄** 巨人・終身名誉監督。6月3日、肺炎のため死去。89歳。高校時代は無名だったが、立教大学に進学後に頭角を現し、通算8本塁打と当時の東京六大学記録をマーク。1958年に巨人入り。新人ながら本塁打、打点の2冠を獲得し新人王に選ばれた。打撃のほかにもダイビングキャッチや華麗な送球などでファンを魅了し「ミスター」などの愛称で人気を集め、王貞治との「ON砲」で9年連続日本一に輝く黄金時代を築いた。74年に「わが巨人軍は永久に不滅です」の言葉を残し引退。その後2度にわたって巨人の監督を務め、96年には最大11.5ゲーム差を逆転して優勝、「メークドラマ」が流行語になった。その後もプロ野球に多大な影響を与え、「ミスタープロ野球」として国民的人気を博した。2005年文化功労者、13年国民栄誉賞、21年文化勲章。

●**藤竜之介** 作曲家。6月7日、肺炎のため死去。74歳。吉田矢健治に師事し、東芝EMIの歌手としてデビューした後作曲家に転身。代表作に川中美幸『恋歌ふたたび』、小金沢昇司『無器用者だと言われても』、前川清『一人愛』など。

●**石森史郎** 脚本家。6月9日、多血性肝細胞がんのため死去。93歳。日本大学芸術学部在学中に執筆した『晩鐘』がシナリオ作家協会新人シナリオコンクールに入賞。代表作に映画『同棲時代—今日子と次郎—』『愛と誠』『アニメ 銀河鉄道999』『青春デンデケデケデケ』『あの、夏の日』『告別』など。またテレビではNHKテレビ小説『水色の時』など1000本あまりの作品を執筆している。72年『仮面ライダー』に参加して以降、『ウルトラマンA』『ザ・カゲスター』などの

特撮作品も執筆。一方で私塾「青春脚本塾」を主催し、後進の育成にも尽力した。日本演劇協会会員。

●**スライ・ストーン** 米・歌手。6月9日、死去。82歳。1967年にソウル・ファンクバンド「スライ&ザ・ファミリー・ストーン」を結成。

68年『ダンス・トゥ・ザ・ミュージック』『エヴリデイ・ピープル』などが世界的にヒット。人種や性別の混成バンドの先駆けでもあり、ソウルや黒人音楽、ロックなど様々な音楽的要素を組み合わせたジャンルを超えた音楽の先駆者としても世界中で多くの支持を集めた。

●**斎藤歩** 俳優、演出家、脚本家。6月11日、尿管がんのため死去。60歳。北海道大学演劇研究会を経て、1987年「札幌ロマンチカシアター 鮎鮎舎」設立。96年に北海道演劇財団の設立に伴い、「札幌座」の前身であるTPS(シアタープロジェクトさっぽろ)の契約アーティストに就任。2016年から北海道演劇財団の芸術監督を務め、20年に同財団理事に就任した。

●**藤村志保** 俳優。6月12日、肺炎のため死去。86歳。1961年に大映京都撮影所演技研究所へ入所。62年に市川崑監督『破戒』で市川雷蔵の恋人役に抜てきされてデビュー。日本映画プロデューサー協会新人賞など各種の映画新人賞に選ばれ、その後「座頭市」「眠狂四郎」シリーズをはじめ多数の時代劇映画にヒロインなどで出演し、大映映画のスターの一人として活躍。『男はつらいよ 寅次郎頭取れ!』ではマドンナ役も務めた。またNHK大河ドラマ『太閤記』(65年)ねね役を演じたほか、テレビドラマにも多数出演。着物が似合う古風な雰囲気と品格ある演技で人気を集めた。

●**ジェームス三木** 脚本家。6月14日、肺炎のため死去。91歳。高校卒業後に俳優座養成所に入所。1955年にテイチク新人コンクールに合格し歌手活動を送った後、67年『月刊シナリオ』コンクールに入選したのを機に脚本家に。映画監督・野村芳太郎に師事し、脚本のほか、舞台演出、映画監督、小説、エッセイなども手がけた。代表作にNHK大河ドラマ『独眼竜政宗』『八代将軍 吉宗』『葵 徳川三代』。特に『独眼竜〜』は渡辺謙が主演して大ヒットを記録。歴代大河ドラマ史上1位の平均視聴率39.7%を記録した。またNHK連続テレビ小説『濡つくし』も

最高視聴率55.3%を記録するヒット作品となった。一方で舞台『愛さずにはいられない』『濡つくし』『翼をください』『真珠の首飾り』『さぶ』『ミュージカル 龍馬!』『雲の上の青い空』など多くの作品の脚本や演出を担当した。日本演劇協会会員。

●**東ゆめ子** 漫才師。6月16日、心不全のため死去。81歳。1993年に夫婦漫才コンビ「東京太・ゆめ子」を結成。栃木弁で話す夫のボケに笑顔でツッコミを入れるしっかり者の妻というキャラクターで、ほのぼのとした掛け合いが人気だった。2010年文化庁芸術祭賞大賞(大衆芸能部門)。

●**小島民雄** 集英社元社長。6月17日、死去。95歳。1953年に集英社に入社。雑誌『月刊セブンティーン』『マーガレット』の編集長などを務めた。96年から2000年にかけて社長を務め、その後会長や相談役に就いていた。

●**沢田昇** 元大関二代目増位山、歌手。6月17日、死去。76歳。戦後に活躍した初代増位山の長男として生まれ、1967年初場所場で初土俵を踏んだ。80年初場所後に大関昇進を果たし、史上初の親子大関として話題を呼んだ。技能賞5回。81年に引退後、84年に三保ヶ関部屋を継承して小結浜ノ嶋などを育てた。一方で歌や絵画などで才能を発揮。現役時代だった72年に歌手デビューし、77年『そんな女のひとりごと』が100万枚を超えるヒットとなった。

●**栗山富夫** 映画監督。6月18日、悪性リンパ腫のため死去。84歳。1965年、松竹に入社。助監督を経て83年『いとしのラハйна』で監督デビュー。85年『祝辞』で芸術選奨新人賞を受賞した。「釣りバカ日誌」シリーズでは第1作から計11作で監督を務めた。

●**堀越謙三** 映画プロデューサー。6月19日、間質性肺炎のため死去。80歳。1982年、東京・渋谷にミニシアター『ユーロスペース』を開館。世界各国の作家性の強い作品を積極的に紹介し、ミニシアターブームを牽引した。また黒沢清監督『大いなる幻影』、フランソワ・オゾン監督『焼け石に水』、レオス・カラックス監督『アネット』などプロデューサーとして多くの作品に関わった。一方でアテネ・フランス文化センターと共同で「映画美学学校」を設立し、後進の育成にも力を入れていた。

●**沢村豊子** 曲師。6月25日、敗血症のため死去。88歳。浪曲師・国友忠の相三味線を務めるなど、浪曲界を代表する三味線奏者「曲師」として活躍。2021年松尾芸能賞功労賞。

●**村上千秋** 指揮者。6月25日、肺炎のため死去。92歳。池内友次郎に師事し1966年に指揮者デビュー。72年に東北初のプロ・オーケストラとして山形交響楽団を設立、音楽監督兼常任指揮者を務めた。

●**ラロ・シフリ** 米・作曲家。6月26日、肺炎の合併所のため死去。93歳。テレビドラマ『スパイ大作戦』のテーマ曲でグラミー賞を受賞。カンフー映画『燃えよドラゴン』なども手がけた。

●**西形節子** 舞踊評論家。6月27日、死去。96歳。早稲田大学、同大学院で演劇を学び、歌舞伎評論家・舞踊評論家として活躍。お茶の水女子大学や共立女子大学で近世文学(歌舞伎・日本舞踊)の講師を務める一方、藤間流日本舞踊の師匠として後進の育成に当たった。また「集団 日本舞踊21」を主催し、世界に誇れる日本の伝統芸能である「日本舞踊」の継承・普及活動に積極的に取り組んだ。歌舞伎座のイヤホンガイドの解説者としても知られた。著書に『日本舞踊の心 芸談で綴る解説』『日本舞踊の世界』『原色歌舞伎事典』『日本舞踊名曲事典』など。

●**合田成男** 舞踏評論家。6月27日、老衰のため死去。102歳。神戸新聞やデイリースポーツの記者を経て、舞踏評論家として独立。前衛芸術「暗黒舞踏」の創始者である土方巽の才能を早くから見抜き、数多くの批評を手がけた。

●**三善清達** 音楽評論家、元東京音楽大学長。6月28日、S字結腸がんのため死去。98歳。大学卒業後にNHKに入局。音楽番組『名曲アルバム』の立ち上げに携わった。退局後は東京音楽大学教授を歴任する一方、音楽評論家としても活躍した。

●**喜志哲雄** 京都大学名誉教授・英米演劇。6月30日、肺炎のため死去。89歳。シェイクスピアやハロルド・ピンターの戯曲の翻訳や研究を手がけた。著書に『シェイクスピアのたくらみ』など。

【7月】

●**吉井澄雄** 照明家。7月2日、老衰のため死

去。92歳。1953年、浅利慶太や日下武史らとともに劇団四季の創立に参加。以降、演劇、オペラ、ミュージカル、舞踊と幅広い分野で照明デザイナーの第一人者として活躍。手がけた舞台の数は1500を超える。劇団四季では創立第1回公演『アルデール又は聖女』を皮切りに『ひかりごけ』『ひばり』『オンディーヌ』『ウエストサイド物語』『夢から醒めた夢』『鹿鳴館』などを担当。劇団以外でも、二世市川猿翁、蜷川幸雄、石井ふく子ら日本を代表する多くの演出家による作品の照明も担当した。一方でミラノ・スカラ座『影のない女』、パリ・オペラ座『サンドリヨン』など海外での仕事も多く、92年にはローレンス・オリビエ賞ライティングデザイナー・オブ・ザ・イヤーにもノミネートされた。芸術選奨文部大臣賞、読売演劇大賞芸術栄誉賞など受賞歴も多数。公益社団法人日本照明家協会名誉会長を務めたほか、公益社団法人日本演劇協会理事も務めた。日本演劇協会会員。

●**マイケル・マドセン** 米・俳優。7月3日、死去。67歳。クエンティン・タランティーノ監督作品の常連で、映画『レザボア・ドッグス』では残酷な犯罪者、「キル・ビル」シリーズで暗殺集団のメンバーなどを演じるなど、個性派俳優として知られた。

●**玉井義臣** あしなが育英会会長。7月5日、敗血症性ショックのため死去。90歳。一般財団法人あしなが育英会の創設者。交通事故で母親を亡くしたことをきっかけに、60年代後に交通遺児の進学支援を始めた。2015年、教育や人権問題の分野で貢献した人に贈られるエレノア・ルーズベルト・ヴァルキル勲章を受賞。

●**和泉雅子** 俳優、冒険家。7月9日、原発不明がんのため死去。77歳。1961年に日活に入社し、63年に主演した映画『非行少女』がモスクワ国際映画祭で金賞を受賞した。その後も『エデンの海』『絶唱』などに出演し、吉永小百合、松原智恵子とともに「日活三人娘」と呼ばれて人気を博した。80年代半ばから冒険家として北極に挑み、89年の2回目の挑戦で日本人女性として初めて北極点到達に成功した。

●**可知靖之** 俳優。7月10日、老衰のため死去。91歳。1960年に俳優座養成所9期生に入団。主な出演作に『七人の墓友』『われらの星の時間』『巨人伝説』、名取事務所『野がも』、地人会『プレ

ヒトオペラ』、新国立劇場『欲望という名の電車』など。

●**岩崎京子** 児童文学作家。7月10日、老衰のため死去。102歳。1964年『シラサギ物語』で講談社児童文学新人賞を受賞。そのほか『鯉のいる村』で野間文学賞、『花咲か』で日本児童文学者協会賞を受賞した。

●**中山麻理** 俳優。7月12日、死去。72歳。1966年に東宝演芸部に入り、67年に舞台『不信のとき』でデビュー。69年10月から70年8月にかけて放送された連続ドラマ『サインはV』の主人公のライバル役を演じてブレイク。最高世帯視聴率39.3%、平均世帯視聴率32.3%の大ヒットドラマとなった。その他、映画『兄貴の恋人』『限りなく透明に近いブルー』、ドラマ『傷だらけの天使』、ミュージカル『アルプスの少女ハイジ』など多くのドラマや映画、舞台に出演した。

●**渋谷陽一** 音楽評論家。7月14日、誤嚥性肺炎のため死去。74歳。19歳だった1971年から音楽評論家として活動を始め、72年に洋楽ロック専門誌『ロッキング・オン』を創刊。86年には邦楽ロック専門誌『ロッキング・オン・ジャパン』を立ち上げ、2000年からは国内最大規模の音楽フェス「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」をプロデュースするなど、批評活動や興行面から日本のロック音楽の普及を牽引した。

●**紀田順一郎** 評論家。7月15日、致死性不整脈のため死去。90歳。推理小説などの評論や小説翻訳、幻想文学の創作、日本近代史研究など、様々な分野の書籍を刊行。荒俣宏とともに『世界幻想文学大系』全45巻を編集した。2008年『幻想と怪奇の時代』で日本推理作家協会賞を受賞。06～12年には神奈川近代文学館の館長を務めた。

●**コニー・フランシス** 米・歌手。7月16日、死去。87歳。1955年に歌手デビュー。『可愛いベイビー』『大人になりたい』など多くのヒット曲を発表、世界中でカバーされた。

●**遠野なぎこ** 俳優。7月17日、死去したことが分かった。45歳。子役として活動を始め、1995年のNHK大河ドラマ『八代将軍 吉宗』などに出演。99年のNHK朝の連続テレビ小説『すずらん』でヒロインに抜擢され、人気を集めた。

●**田宮俊作** タミヤ会長。7月18日、死去。90

歳。創業二代目として1984年に社長に就任。木造模型からプラスチック模型への転換を主導し、ミニ四駆の開発などを通じてプラモデル文化を発展させた。

●**小原日登美** レスリング選手。7月18日、死去したことが分かった。44歳。高校・大学時代から基本的に忠実に粘り強いレスリングで活躍。世界選手権で計8度優勝するなど伊調馨、吉田沙保里らと強豪日本女子の礎を築いた。08年北京五輪出場を逃しマツトを離れたが、09年に復帰。五輪初出場を果たした2012年ロンドン五輪女子48キロ級で金メダルを獲得した。22年世界連合(UWW)の殿堂入りを果たした。

●**上條恒彦** 歌手、俳優。7月22日、老衰のため死去。85歳。1962年に歌手活動を始め、71年『出発(たびだち)の歌』で世界歌謡祭グランプリを受賞した。72年にはドラマ『木枯らし紋二郎』の主題歌『だれかが風の中で』がヒットし、NHK紅白歌合戦にも出場した。一方、NHK大河ドラマ『軍師官兵衛』、ドラマ『3年B組金八先生』など多くのドラマに出演。アニメ映画『紅の豚』『千と千尋の神隠し』などでは声優も務めた。また『屋根の上のヴァイオリン弾き』『マイ・フェア・レディ』など数々のミュージカルに出演。特に『ラ・マンチャの男』では77年から2023年の最終公演まで、牢名主と宿屋の主人役で948回出演、主演の松本白鸚を温かみのある演技で支え、2000年には菊田一夫演劇賞を受賞した。

●**オジー・オズボーン** 英・歌手。7月22日、死去。76歳。1968年にヘビーメタルの先駆けとされるロック・バンド「ブラック・サバス」を結成し、ボーカルを担当。たちまち世界的な人気を獲得し、「メタルの帝王」と称された。

●**矢野誠一** 演劇・演芸評論家。7月23日、心不全のため死去。90歳。麻布中学・高校を経て文化学院を卒業後、新劇の劇団の裏方の仕事や落語会のプロデュースを行った。演芸や演劇に関する豊富な知識と交友をもとに、温かく軽妙な評論や随筆を数多く執筆した。1996年に『戸板康二の歲月』で大衆文学研究賞。主な著書に『志ん生のいる風景』『荷風の誤植』『昭和も遠くなりにはけり』など。読売新聞で2004年から16年まで『落語のはなし』を連載したほか、03年から現在まで読売演劇大賞の選考委員を務めたほか、演劇誌『悲劇喜劇』の編集顧問も務めた。23

年文化功労者。

●**皆川おさむ** ひばり児童合唱団代表。7月23日、慢性腎不全のため死去。62歳。3歳で伯母・皆川和子が主宰する「ひばり児童合唱団」に入団。6歳だった1969年に『黒ネコのタンゴ』を発表。200万枚を超える大ヒットとなった。

●**ハルク・ホーガン** 米・プロレスラー。7月24日、死去。1977年にプロレスデビュー。新日本プロレスにも参戦し、アントニオ猪木らとも対戦。「イチバーン(一番!)」の叫び声が話題となり人気を集めた。また映画『ロッキー3』に出演するなど俳優としても活躍した。

●**川村龍夫** ケイダッシュ代表取締役会長。7月30日、死去。84歳。大学在学中に「鹿内タカシとブルー・コメッツ」のマネージャーを務め、その後、大橋プロダクションに入社。田辺エージェンシーに転職した後、1993年に芸能事務所「ケイダッシュ」を設立。高橋克典や坂口憲二ら多くのタレントを育てたほか、同事務所に所属していた渡辺謙のハリウッド進出をバックアップした。

●**ロバート・ウィルソン** 米・演出家。7月31日、病気のため死去。83歳。27歳で実験的パフォーマンス・カンパニー「バード・ホフマン・スクール・オブ・バーズ」を創立。その後、パリ・オペラ座やミラノ・スカラ座など欧州の劇場を中心に、オペラや舞台の演出を手掛けた。1976年、作曲家のフィリップ・グラスとともに共同制作した前衛オペラ『浜辺のアイシュタイン』で国際的に高く評価されたほか、「実験演劇の巨匠」と称された。92年には様々な分野の若手芸術家が集まって創作活動をする施設「ウォーターミル・センター」を米・ニューヨーク州に設立。芸術監督として若手の育成にも尽力した。ローレンス・オリヴィエ賞、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、仏レジオン・ドヌール勲章受章など受賞・受章は多数。2023年には高松宮殿下記念世界文化賞演劇・映像部門を受賞した。

【8月】

●**関根明子** 声優。8月1日、転移性脳腫瘍のため死去。65歳。アニメ『魔法使いサリー』オンディーヌ、ゲーム「ときめきメモリアル」シリーズ・如月未緒、バラエティ番組『どうぶつ奇

想天外』のナレーションなどで親しまれた。

●**立原えりか** 童話作家。8月5日、死去。87歳。1959年に自費出版した童話集『人形のくつ』で児童文学者協会新人賞を受賞した。代表作に『木馬がのった白い船』『でかか人とちびちび人』『ちいさい妖精のちいさいギター』など。

●**亀山忍** タレント。8月7日、腎臓がんのために死去。56歳。双子の兄で元阪神・亀山つとむがプロ野球選手として活躍すると同時期にタレントとして注目された。役者としても活躍し、「水戸黄門」シリーズや『ウルトラマンダイナ』『裸の大將』『ワンダフルライフ』などに出演した。

●**ジェームズ・ラベル** 米・宇宙飛行士、宇宙船アポロ13号船長。8月7日、死去。97歳。1968年、アポロ8号に乗り、月を周回飛行した最初の飛行士に。70年打ち上げのアポロ13号では船長を務めた。その際に宇宙船にトラブルがあり、奇蹟的生還となったが、そのエピソードは95年『アポロ13』として映画化され、本人役をトム・ハンクスが演じた。

●**NoB** 歌手。8月9日、腎臓がんのため死去。61歳。1984年にロックバンド「MAKE-UP」のボーカルとしてデビュー。テレビアニメ『聖闘士星矢』のオープニング曲『ペガサス幻想』がヒット。ソロでも特撮ヒーローやアニメ番組で歌唱や作詞作曲を数多く担当した。

●**釜本邦茂** サッカー元日本代表。8月10日、肺炎のため死去。81歳。早稲田大学時代に、秋の関東リーグで4年連続得点王、天皇杯優勝を果たす。1967年にヤンマーディーゼルに入社。1968年メキシコ五輪では、初戦のナイジェリア戦でハットトリックを記録。地元・メキシコとの3位決定戦では2得点し勝利に導くとともに通算7得点で得点王に輝いた。日本代表として国際Aマッチ通算75得点は歴代最多。日本リーグでも歴代最多となる通算202ゴールを挙げた。引退後はガンバ大阪監督、日本サッカー協会副会長、参議院議員も務めた。

●**櫻井智** 声優、歌手。8月13日、死去。53歳。アイドルグループ「レモンエンジェル」メンバーとしてデビュー。その後声優としても活躍。代表作に『マクロス7』ミレーヌ・ジーナス、『怪盗セイント・テール』羽丘芽美/怪盗セイント・テール役、『ポケットモンスター』シロナ役など。

●**千玄室** 茶道裏千家前家元。8月14日、死去。102歳。1964年に裏千家の十五代家元を継承し、宗室を襲名。伝統の茶道をより深めるとともに近代化に務めた。80年紫綬褒章、89年文化功労者、97年文化勲章。茶道を通じた文化貢献は海外でも評価が高く、仏レジオン・ドヌール勲章など多くの勲章を受けたほか、国連親善大使や国連教育科学文化機関(ユネスコ)親善大使などを歴任した。

●**末次美沙緒** 俳優。8月20日、死去。71歳。1972年に劇団四季研究所へ入所。在団中は『夢から醒めた夢』『クレイジー・フォーユー』『アスペクト・オブ・ラブ』『ユタと不思議な仲間たち』『ミュージカル 李香蘭』『美女と野獣』『ライオンキング』『鹿鳴館』『エクス』『オンディーヌ』『ハムレット』などストレートプレイからミュージカルまで幅広く出演。退団後も舞台やテレビ、ラジオなどで活躍した。

●**長峯達也** 映画監督。8月20日、死去。53歳。アニメ映画『ONE PIECE FILM Z』『ドラゴンボール超 ブロリー』『YES! プリキュア5 GoGo! お菓子の国のハッピーバースデー』などの監督を務めた。

●**福田善之** 劇作家・演出家。8月21日、肺炎のため死去。93歳。東京大学を卒業し、1960年代に能楽師で演出家の観世栄夫らと活動。安保闘争の学生らの姿を描いた62年初演『真田風雲録』が注目され、63年に映画化されたほか、ラジオやテレビでもドラマ化された。他に戯曲『長い墓標の列』『袴垂れはどこだ』、ミュージカル『ピーターパン』の演出など。93年『壁の中の妖精』の作・演出で第28回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞、2001年には紫綬褒章を受章した。

●**おぼまこと** 絵本作家。8月23日、老衰のため死去。88歳。色鉛筆を粉にしてこするなどの表現方法と細かな描線が特徴で、国内外で高い評価を得た。主な作品に『しばいっこ』『ごめんねムン』『世界一すてきなお父さん』など。

●**ペドロ・梅村** 「ペドロ&カプリシャス」リーダー、パーカッションニスト。8月24日、死去。83歳。1971年に前野曜子をボーカルに「ペドロ&カプリシャス」を結成。デビュー曲『別れの朝』が60万枚近いヒットとなった。72年に2代目ボーカルに高橋真梨子を迎え、73年『ジョニーへの伝言』『五番街のマリーへ』が大ヒットした。

●**大谷煥** NPO法人DANCE BOX理事長、新開地アートひろば館長。8月27日、死去。73歳。1970年代に大駱駝艦出身のビショップ山田が結成した北方舞踏派に参加後、制作者を経て、96年に大阪で「DANCE BOX」を設立。その後、拠点を兵庫県神戸市に移し、2009年より小劇場の兵庫・ArtTheater dB KOBEを運営。「国内ダンス留学@神戸」をはじめとする若手アーティストの育成や地域貢献事業、子供向けのプログラム、国内外のアーティストインレジデンス事業などに力を注ぐ。2017年より兵庫・神戸アートビレッジセンター(KAVC)(2023年より新開地アートひろばに改名)の館長を務め、関西のダンス界に大きく貢献した。

●**土師孝也** 声優、アプトプロ代表取締役社長。8月27日、心筋梗塞のため死去。72歳。劇団青年座でキャリアをスタートさせて俳優として活躍。声優としても多くの作品に出演。代表作にアニメ『北斗の拳』トキ役、映画「ハリポッター」シリーズのセブルス・スネイプ役、「ONE PIECE」シリーズのイヌアラシ公爵など。

●**各務三郎** ミステリー評論家、翻訳家。8月27日、前立腺がんのため死去。88歳。早川書房に入社して『ミステリマガジン』編集長を務めた。『チャンドラー人物事典』で日本推理作家協会賞(評論その他の部門)を受賞した。

●**ロディオ・シチュロリン** 露・作曲家。8月29日、死去。92歳。チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院で学んだ後、バレエ音楽『アン・カレニナ』『かもめ』のほか交響曲やピアノ協奏曲を作曲、1973年～89年のソ連作曲家同盟の代表を務めた。妻はバレリーナのマイヤ・プリセツカヤ。

●**菅原俊夫** 殺陣師。8月31日、老衰のため死去。84歳。1961年に東映京都撮影所に入所。殺陣技術集団「東映剣会」会員に名を連ね「斬られ役」として活躍。73年『東京ソウルバンコック 実録麻薬地帯』で殺陣師デビュー。その後40年以上にわたり、「水戸黄門」「影の軍団」シリーズ、映画『柳生一族の陰謀』『魔界転生』『里見八犬伝』『蒲田行進曲』など数多くの作品で殺陣を指導してきた。2013年日本アカデミー賞協会特別賞。

【9月】

●**グラハム・グリーン** カナダ・俳優。9月1日、死去。73歳。1979年のカナダのドラマシリーズでデビュー。その後、ドラマや映画に出演し、90年公開『ダンス・ウィズ・ウルブズ』で聡明なインディアン“蹴る鳥”を演じてアカデミー助演男優賞候補にノミネートされ、世界的に注目を集めた。その他代表作に映画『マーベリック』『ダイ・ハード3』『グリーンマイル』、『サンダーバード』ヴァル・キルマー役など。

●**吉行和子** 俳優。9月2日、肺炎のため死去。90歳。詩人の父・吉行エイスケと美容師の母・あぐりの長女で、兄は作家・吉行淳之介、妹は詩人・吉行理恵。1957年に劇団民藝の舞台『アンネの日記』で主演して注目された。その後、59年の映画『にあんちゃん』『才女気質』で毎日映画コンクール女優助演賞を受賞。ドラマ『3年B組金八先生』『ふぞろいの林檎たち』『ナースのお仕事』、自らの母の姿を描いたNHK連続テレビ小説『あぐり』や『つばさ』『ごちそうさん』、大河ドラマ『国盗り物語』『風と雲と虹と』など、多くのドラマや映画、舞台で活躍した。

●**橋幸夫** 歌手。9月4日、肺炎のため死去。82歳。中学生時代から作曲家・遠藤実の歌謡教室で学び、吉田正にも師事。1960年、17歳でデビューし、『潮来笠』が大ヒット。舟木一夫、西郷輝彦と共に「御三家」として絶大な人気を集めた。他のヒット曲に、『恋のメキシコロック』『子連れ狼』『霧水』、吉永小百合とのデュエット曲『いつも夢』などを多数。日本レコード大賞を2度受賞したほか、NHK紅白歌合戦に60年から17年連続、通算19回出場した。

●**ジョルジオ・アルマーニ** 伊・ファッションデザイナー。9月4日、死去。91歳。1970年代に自身の名を関したブランドを立ち上げ、革新的なシルエットと洗練されたデザインで評判を呼び、80年代には米映画『アメリカンジゴロ』の衣裳を手がけ、ハリウッドセレブの間でも大流行し、「モードの帝王」と称された。一方で、アルマーニグループは、ミラノ・スカラ座財団のパートナーであり、イタリアの音楽、演劇への支援も続けた。

●**ジョージ浜野** 「ピンキーとキラーズ」リーダー。9月5日、老衰のため死去。88歳。1968年に「ピンキーとキラーズ」を結成。山高帽とパンタロンスーツ姿が話題を集め、デビュー曲『恋

の季節』が大ヒットした。

●**小島千加子** 文芸編集者、文筆家。9月5日、老衰のため死去。96歳。日本女子大学卒業後、1949年に新潮社に入社。文芸誌『新潮』編集部で生星犀星、川端康成を担当。三島由紀夫の遺作となった『天人五衰』最終稿原稿を、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地での自決当日の朝に受け取ったことでも知られる。また壇一雄の遺作『火宅の人』などにも関わり、二人の思い出を自らの著書『三島由紀夫と壇一雄』につづった。一方で、幸田文、円地文子、森茉莉ら数々の女性作家も担当したほか、評論家や学者も担当した。

●**島崎伸作** 俳優。9月6日、脳出血のため死去。31歳。幼少期からミュージカル公演に出演し、東京藝術大学卒業後、2021年のミュージカル『レ・ミゼラブル』でジョリ役、24・25年には同作でクールフェラック役を演じた。

●**水口一夫** 脚本家、演出家。9月7日、大腸がんのため死去。83歳。国立劇場、日本俳優協会の職員などを経て、1997年に松竹株式会社に入社。上方歌舞伎に対する造詣が深く、松竹上方歌舞伎塾の運営に携わり、関西出身の若手歌舞伎俳優の養成に尽力。その後、主に関西で歌舞伎の新作や古典の補綴、脚色や演出などを担当。主な作・演出に『GOEMON 石川五右衛門』『神の鳥』『鯉つかみ』など。また『永楽館歌舞伎』『システィーナ歌舞伎』など常設劇場以外での歌舞伎興行にも意欲的に取り組んだ。一方で歌劇にも精通し、OSK日本歌劇団『レビュー in Kyoto』の『源氏千年夢絵巻』の作・構成なども手がけた。日本演劇協会会員。

●**柳亭左楽** 落語家。9月9日、急性心筋梗塞のため死去。88歳。1957年に八代目桂文楽に入門。61年に二ツ目、73年に真打に昇進。80年に橘家円蔵門下となり、2001年に六代目柳亭左楽を襲名した。

●**菅原孝** ミュージシャン。9月11日、肺炎のため死去。81歳。弟の菅原進とともに「ビリー・バンバン」を結成し1969年『白いブランコ』でデビュー。『ミドリリーヌ』『れんげ草』などのヒット曲を世に送り出した。2007年『また君に恋してる』はCM曲などとして広く親しまれた。

●**粟塚旭** 俳優。9月12日、死去していたことが分かった。88歳。1965年『新選組血風録』で主役・土方歳三を演じ、剣の達人のような風貌

とクールな演技で当たり役となり評判を呼んだ。翌年には日本映画製作者協会のスター新人賞を受賞。その他出演作に「暴れん坊將軍」シリーズや『燃えよ剣』などの時代劇のほか、現代劇など幅広いジャンルで活躍した。

●**ロバート・レッドフォード** 米・俳優。9月16日、死去。89歳。舞台俳優としてデビューし、1969年の映画『明日に向かって撃て!』でブレイク。73年『スティング』で米アカデミー賞主演男優賞にノミネートされ、ハリウッドを代表するスターの地位を確立。出演作は『追憶』『華麗なるギャッツビー』『大統領の陰謀』『ナチュラル』など多数。80年には『普通の人々』で監督業にも進出。同作はアカデミー賞監督賞のほか、作品賞、脚色賞、助演男優賞を獲得し話題となった。その他、監督と製作を兼ねた作品に『リバー・ランズ・スルー・イット』『クイズ・ショウ』など。81年には独立系映画の作り手を育成する「サンダンス・インスティテュート」を創設、併せて「サンダンス映画祭」を主催し、多くの新しい才能を世に送り出した。2002年、米アカデミー賞名誉賞受賞。

●**クラウドリア・カルディナーレ** 伊・俳優。9月23日、死去。87歳。1950年代に映画界に入り、63年にフェデリコ・フェリーニ監督『8 1/2』やルキノ・ビスコンティ監督『山猫』に出演し、国際的な評価を獲得。「CC」の愛称で親しまれ、150本以上の映画に出演し、60年代の欧州映画を代表する人気俳優として知られた。

●**藤岡浩二郎** ドラマ監督。9月24日、死去。58歳。東映京都撮影所制作部ドラマ・企画営業ユニットマネージャを務め、ドラマ『科捜研の女』『京都地検の女』『相棒season15』『水戸黄門』など数々のドラマの監督を務めた。

●**新野新** タレント、放送作家。9月25日、老衰のため死去。90歳。大学卒業後、演出助手を経て放送作家に。その後タレントとして活躍。代表作にラジオ大阪『つるべ・新野のぬかるみの世界』。タレントとしては『晴れ時々たかじん』『今夜はなにに色?』など。著書に『上方タレント101人』『笑ほど素敵な商売はない』『雲の別れ 面影のミヤコ蝶々』など。

●**林家二楽** 紙切り芸人。9月27日、尿管がんのため死去。58歳。1989年に父・二代目林家正楽に入門し、91年に初高座。2002年に国立演

芸場範型演芸大賞銀賞、05年同金賞を受賞した。

●**水谷貞雄** 俳優。9月29日、心不全のため死去。91歳。1956年に劇団民藝付属水品演劇研究所に入所。58年劇団民藝俳優教室を経て、59年に研究生、62年に劇団員となる。主な出演作に『冬の時代』『ottoとよばれる日本人』『審判』『櫻の園』『グレイクリスマス』など。2020年には『新・正午浅草』永井荷風役で、読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。86歳での受賞は史上最年長の快挙となった。またNHK大河ドラマ『花の乱』、NHK『真田太平記』、『早春スケッチブック』などのドラマなどの話題作にも出演した。

●**金子洋明** 音楽プロデューサー。9月29日、誤嚥性肺炎のため死去。81歳。大学時代からアマチュアフォーク団体のリーダーを務め、69年に音楽制作会社「ミュージカルステーション」を設立。森山良子、五輪真弓、加山雄三、玉置浩二ら多くのアーティストのコンサートを制作。日本のフォークブームの仕掛人としても知られるほか、東急文化村オーチャードホールなどの劇場プロデューサーとしても活躍した。

【10月】

●**西川啓光** 邦楽奏者。10月1日、死去。77歳。石川さゆり『天城越え』の鼓奏者を長年務めたほか、スーパー歌舞伎や宝塚歌劇団の音楽なども担当した。

●**小田健也** 演出家、劇作家。10月4日、老衰のため死去。95歳。1953年に劇団民藝に俳優として入団後、フリーの演出家に。59年にオペラ『夕鶴』(作=木下順二、作曲=團伊玖磨)の演出に携わり、上演は海外を含め数百回に及ぶ。また同じく團伊玖磨作曲のオペラ『ちゃんちぎ』も演出し、2002年には日中国交正常化30周年を記念して北京公演が行われた。その後もオペラ創作に尽力。代表作に『秩父晩鐘』『じゅごんの子守唄』『高野聖』など。また劇団うりんこなどで児童劇も手がけた。

●**白根一男** 演歌歌手。10月10日、喀痰による気道閉塞のため死去。89歳。高校在学中の1952年にテイチクレコード新人コンテストで第1位となり、学生服を衣裳に53年『夜霧の酒場』でレコードデビュー。55年に市川雷蔵主演映画の主題歌『次男坊鴉』、続く『花の渡り鳥』で名を上げ、男性アイドル歌手のはしりとして若

い女性を中心に人気を集めた。そのほかのヒット曲に『面影いずこ』『はたちの詩集』『旅姿三人男』『九段の母』など。97年から2002年まで日本歌手協会の理事、常任理事を務めた。

●**ダイアン・キートン** 米・俳優。10月11日、死去。79歳。20代の頃にブロードウェイの舞台などに出演し、1977年、ウッディ・アレン監督の映画『アニー・ホール』で恋人役を演じ、米アカデミー賞主演女優賞を獲得。81年『レッズ』、96年『マイ・ルーム』、2003年『恋愛適齢期』でも同賞にノミネートされたほか、『花嫁のパパ』や「ゴッド・ファーザー」シリーズなどへの出演でも知られる。

●**藤井邦夫** 作家。10月12日、心不全のため死去。78歳。テレビドラマ「特捜最前線」「水戸黄門」シリーズの脚本や監督を経て2002年作家デビュー。「新・秋山久蔵御用控」「新・知らぬが半兵衛手控帖」シリーズで、19年に日本歴史時代作家協会賞を受賞した。

●**手塚能理子** 編集者、ライター。10月12日、虫垂がんのため死去。70歳。1979年に青林堂に入社し、漫画雑誌『ガロ』の編集者として活躍し、95年からは副編集長に就任。退社後、青林工藝舎を設立し、『ガロ』の実質的な後継誌といわれる『アックス』を創刊した。

●**押川國秋** 脚本家、小説家。10月14日、死去。95歳。「遠山の金さん」シリーズなど、ドラマや映画の脚本を手がけた。1999年、『八丁堀慕情・流刑の女』で第10回時代小説大賞を受賞した。

●**池広一夫** 映画監督。10月15日、心筋梗塞のため死去。95歳。1950年に大映京都撮影所に入り、60年『薔薇大名』で監督デビュー。勝新太郎主演の「座頭市」シリーズや、市川雷蔵主演の「眠狂四郎」シリーズなど人気作を数多く手がけた。その後テレビに活動の場を移し、ドラマ「終着駅シリーズ」では全38作を監督した。

●**疋田拓** 音楽番組プロデューサー。10月16日、死去。83歳。日本大学芸術学部放送学科を卒業後、NHKの契約職員を経て、1968年フジテレビに入社。その年に始まった『夜のヒットスタジオ』の制作に携わり、斬新なカメラワークや豪華なスタジオセット、スモークを多用した演出などを用い、番組を盛り上げ、「ミスター夜ヒット」と呼ばれた。88年にテレビ朝日に移

り、90年に番組制作会社「P&D」を設立。2021年に文化庁長官表彰を受けた。

●**高橋智子** 俳優。10月16日、交通事故のため死去。39歳。舞台を中心に活躍した後、ドラマ『緊急取調室』『Dr. ナースエイド』などに出演した。

●**エース・フレイリー** 米・ハードロックバンド「KISS」初代ギタリスト。10月16日、死去。74歳。1973年に「KISS」を共同創設。奇抜なメイクを施し、同氏は「スペース・エース」としてシルバーの星を目の周りにかたどって人気を集めた。

●**村山富市** 第81代内閣総理大臣。10月17日、老衰のため死去。101歳。大分市議、県議を経て1972年の衆院選で初当選した。93年9月、第13代の社会党委員長に。94年6月に自民、社会、新党さきがけ3党の連立政権で第81代内閣総理大臣に就任した。同年9月の社会党の臨時大会で自衛隊を合憲とし、日米安全保障条約堅持を明確にする新政治方針を採択。社会党の基本政策を大転換した。戦後50年となる95年8月15日の終戦記念日に、閣議決定に基づき、過去の植民地支配と侵略行為への反省と謝罪を盛り込んだ談話(村山談話)を発表した。96年1月、辞任。直後に党名変更した社民党の初代党首となった。2000年6月の衆院解散とともに政界を引退した。

●**藤原作弥** 元日本銀行副総裁。10月17日、肝細胞がんのため死去。88歳。1962年に時事通信社に入社し、経済部記者や解説委員長などを歴任。98年、同年4月施行の新日銀法の下、民間出身者として初めて日本銀行副総裁に就任。デフレ克服に向けたゼロ金利政策導入などを打ち出した。一方、記者時代から作家としても活躍。劇団四季『ミュージカル李香蘭』の創作の元となった『李香蘭 私の半生』(共著・山口淑子)のほか『聖母病院の友人たち』では日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。

●**草野浩二** 音楽ディレクター。10月17日、心不全のため死去。87歳。1960年に東京芝浦電気レコード事業部(現:ユニバーサルミュージック)に入社してディレクターとして活躍。坂本九『上を向いて歩こう』を国内ランキング1位に、米ビルボード週刊チャート1位に導いた。日本人がディレクターを務めた曲が日米の

チャートで1位になるのは、現在もこの曲のみ。その後も坂本九と組み、『見上げてごらん夜の星を』『明日があるさ』などを世に送り出した。

●**海老沢勝二** 元NHK会長。10月19日、誤嚥性肺炎のため死去。91歳。早稲田大学卒業後、1957年にNHKに記者として入局。政治部長などを歴任し、91年にNHKエンタープライズの社長に就任。その後、NHKの専務理事、副会長を経て、97年に会長に就任し、ハイビジョン放送や地上デジタル放送の推進などに尽力した。2004年に番組制作費の着服など局員の不祥事が相次ぎ、05年会長職を引責辞任した。一方で、大相撲の横綱審議委員会委員長や日本ゴルフツアー機構会長なども務めた。

●**波田野紘一郎** 元NHKディレクター。10月20日、前立腺がんのため死去。86歳。1971年から80年代にかけて、洋楽ロックのライブ映像を紹介する、当時としては希少な番組『ヤング・ミュージック・ショー』を担当。またRCサクセションらの出演で知られる東京・渋谷のライブハウス「屋根裏」のプロデュースも手がけた。

●**田口精一** 俳優。10月21日、誤嚥性肺炎のため死去。95歳。1950年に東京演技アカデミー、51年に劇団民藝附属演技研究所に入所、64年に劇団員となる。主な出演作に『星の牧場』『夜明け前』『アンネの日記』『マギーの博物館』など劇団公演のほか映画にも多数出演。最後の舞台となった『レストラン「ドイッ亭」』では公演期間中に92歳の誕生日を迎えていた。

●**ジューン・ロックハート** 米・俳優。10月23日、老衰のため死去。100歳。1938年の映画『クリスマス・キャロル』でデビュー。その後は舞台でも活躍し、48年のブロードウェイ舞台『フォー・ラブ・オア・マネー』でトニー賞新人賞（現在は廃止）を受賞。58～64年に人気を集めたテレビドラマ『名犬ラッシー』でも知られた。

●**ビョルン・アンドレセン** スウェーデン・俳優。10月25日、がんのため死去。70歳。1971年、ルキノ・ビスコンティ監督に見いだされ、映画『ベニスに死す』で初老の作曲家を翻弄する美少年タッジオ役に抜てきされ、「世界で一番美しい少年」として一躍有名になった。近年では2019年『ミッド・サマー』に出演し、話題を集めた。

【11月】

●**広瀬叔功** 元プロ野球選手。11月2日、心不全のため死去。89歳。1955年に南海ホークス（現：福岡ソフトバンクホークス）に入団。快足の中心打者として杉浦忠と共に球団黄金時代を支えた。61年から5年連続盗塁王。引退翌年の78年から80年まで監督を務めた。

●**ダイアン・ラッド** 米・俳優。11月3日、死去。89歳。1974年公開の映画『アリスの恋』で米アカデミー賞助演女優賞にノミネートされ話題に。そのほか『ワイルド・アット・ハート』『ラブリング・ローズ』など。

●**仲代達矢** 俳優。11月8日、肺炎のため死去。92歳。1955年に俳優座に入団し、『幽霊』に主演して大型新人として注目され多数の舞台に出演。一方、映画界では小林正樹監督に見いだされ『黒い河』『人間の条件』などに出演し、63年『切腹』がカンヌ国際映画祭審査員特別賞、80年の黒澤明監督『影武者』が同映画賞最高賞を受賞、日本を代表する俳優のひとりとして内外で注目を集めた。またテレビでも72年のNHK大河ドラマ『新・平家物語』で主人公・平清盛を演じたほか、『飢餓海峡』『大地の子』など数々の名作ドラマにも出演した。紀伊國屋演劇賞、芸術選奨文部大臣賞、毎日映画コンクール男優演技賞、川喜多賞など受賞歴は多数。75年には妻で俳優・脚本家・演出家の宮崎恭子と共に私塾「無名塾」を設立。次代を担う俳優を数多く育てながら、『どん底』『リチャード三世』『ドライビング・ミス・デイジー』などの舞台に立ち続けた。96年紫綬褒章、2003年勲四等旭日小綬章、07年文化功労者、15年文化勲章。

●**菅谷大介** 日本テレビアナウンサー。11月8日、消化管からの出血のため死去。53歳。1997年に日本テレビに入社。ニュースからスポーツ実況、バラエティーまで幅広く担当。2002年からは箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）でも実況し、07年からはスタートやゴール地点を多く担当した。

●**西澤保彦** 作家。11月9日、肺がんのため死去。64歳。高知大学助手などのかたわら執筆活動を始め、1996年『解体諸因』でデビュー。2023年『異分子の彼女』で日本推理作家協会賞（短編部門）を受賞した。他の作品に「腕賢探偵」シリーズ、『七回死んだ男』など。

●**関根忠郎** 映画ライター。11月11日、間質性肺炎のため死去。87歳。1956年に東映株式会社に入社。東京撮影所などを経て62年に宣伝部に異動し、97年に映画宣伝部長付チーフ宣伝プロデューサーになり、『仁義なき戦い』『緋牡丹博徒 お竜参上』『昭和残侠传 破れ傘』『柳生一族の陰謀』『鬼龍院花子の生涯』『極道の妻たち』など数々の作品で、定年退職まで名コピーを生み出した。

●**サリー・カークランド** 米・俳優。11月11日、死去。84歳。アメリカの有名な演劇学校「アメリカン・アカデミー・オブ・ドラマティック・アーツ」を卒業後、主に舞台上で活躍し、シェイクスピア作品に多数出演した。1987年の映画『アンナ』で米ゴールデングローブ賞主演女優賞を受賞したほか、米アカデミー賞主演女優賞にノミネートされた。他の主演作に『ホット・ストリッパー』『チキンハート・ブルース』、出演作に『追憶』『リベンジ』『JFK』など。

●**菅原浩志** 映画監督、脚本家、プロデューサー。11月12日、すい臓がんのため死去。1988年『ぼくらの七日間戦争』で監督デビュー。同作は数々の映画賞を受賞するなど高い評価を経て「日本映画100本」にも選出されている。その他の作品に『ぼたるの星』『写真真子園0.5秒の夏』『カムイのうた』など。

●**肥後マコト** 声優。11月13日、病気のため死去。54歳。声優やナレーター、舞台など多くの作品に出演。主な作品に『大きく振りかぶって～夏の大会編～』和田誠、『クロスファイト ビーダマン』雑賀アキラ、『かいけつゾロリ』ダボンなど。

●**嵐山光三郎** 作家。11月14日、肺炎のため死去。83歳。1965年に平凡社に入社。雑誌『太陽』の編集に16年携わり、編集長を経て独立。88年に『素人庖丁記』で講談社エッセイ賞、『悪党芭蕉』で2006年泉鏡花文学賞と07年読売文学賞を受賞。文豪たちの食の好みを通して文学の本質に迫った『文人悪食』なども執筆した。一方でバラエティー番組『笑っていいとも!増刊号』やCMにも出演し、お茶の間に親しまれた。

●**三遊亭圓輔** 落語家。11月15日、心筋梗塞のため死去。93歳。『三枚起請』『お直し』など廓噺では色気とユーモアを織り交ぜる一方、『猫忠』『野ざらし』など芝居噺や滑稽噺でも味わい

深い芸を披露。所属する落語芸術協会最高齢として高座に上がり続け、生涯現役を貫いた。

●**村沢良介** 作詞・作曲家。11月17日、老衰のため死去。99歳。1946年にテイチクレコードより歌手デビューするも、後に作詞・作曲家に転身。鈴木三重子『愛ちゃんはお嫁に』がヒットしたほか、田端義夫、津ヶ原都々子、三波春夫、石原裕次郎らに作品提供した。

●**神楽坂淳** 作家、漫画原作者。11月20日、心不全のため死去。59歳。1988年に作家デビューし、2007年『大正野球娘』を発表。同作はアニメ化もされた。「うちの旦那が甘ちゃん」シリーズも人気を集め、20年に日本歴史時代作家協会賞(文庫書き下ろしシリーズ賞)を受賞した。

●**四代目片岡亀蔵** 歌舞伎俳優。11月24日、火災のため死去。64歳。五世片岡市蔵の次男で、兄は六代目片岡市蔵。1965年12月歌舞伎座『仮名手本忠臣蔵』十段目の一子由松で片岡二郎として初舞台。69年歌舞伎座『辨天娘女男白浪』丁稚三吉ほかで四代目片岡亀蔵を襲名。95年名題昇進。時代物、世話物、新作などジャンルを問わず、敵役から滑稽味のある役など幅広い役柄をこなし、存在感のある確かな演技力で舞台の脇を固めるベテラン俳優として活躍した。

●**ジミー・クリフ** ジャマイカ・レゲエ歌手。肺炎などのため死去したことを11月24日、家族が明らかにした。81歳。1972年の映画『ハーダー・ゼイ・カム』に主演して主題歌を手がけ、社会的なメッセージが特徴のレゲエを世界に広めた。86年にグラミー賞受賞。映画『クール・ランニング』の主題歌『アイ・キャン・シー・クリアリー・ナウ』『遙かなる河』などが世界的にヒットし、ポップ・マーリーと並ぶレゲエ界の大御所シンガーと呼ばれた。

●**中島ゆたか** 俳優。11月27日、大腸がんのため死去。73歳。1971年、ミス・パシフィック日本代表に選ばれて同年開催の世界大会で2位に。73年に映画『夜の歌謡シリーズ 女のみち』で俳優デビュー。同年に日本映画プロデューサー協会新人賞、74年エランドール賞新人賞を受賞した。その他出演作に74年『激突!殺人拳』をはじめとする千葉真一主演のシリーズに多数出演したほか、75年『トラック野郎 御意見無用』でシリーズ第1作のヒロインを務めた。

●**古川嘉一郎** 放送作家、演芸評論家。11月29日、死去。83歳。雑誌『上方芸能』の編集員などを経て放送作家に。藤本義一に師事し、『たかじんnoぼあ〜』などを手がけた。著書に『なにわの急ぎ星 ドキュメント林家小染』『たかじん波瀾万丈』など。

●**西村知道** 声優。11月29日、死去。79歳。ギャグからシリアスまで幅広く演じ分けるバイプレーヤーとして知られた。代表作に『SLAM DUNK』安西先生、『うる星やつら』友引高校校長、『ゲゲゲの鬼太郎(第4作)』小豆とぎとぬりひょん、『幽☆遊☆白書』ジョルジュ早乙女とナレーター、などのほか、洋画の吹替も多数担当した。

●**トム・ストッパード** 英・劇作家。死去したことを11月29日、家族が発表した。88歳。ジャーナリストとして働きながら戯曲を執筆。1960年代に初演された『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』は、世界中で上演され、米トニー賞では4部門に輝いた。2002年に英・ロンドンで初演された『コースト・オブ・ユートピア』は3部制、全編通して9時間以上の大作として話題となり、日本では09年に蜷川幸雄演出で上演されたほか、高松宮殿下記念世界文化賞のほか多くの演劇賞を受賞。代表作に、『リアルシング』『アルカディア』など。一方で映画やラジオドラマの脚本や翻訳・翻案も手掛け、映画『恋においたシェイクスピア』では米アカデミー賞脚本賞をはじめ様々な賞に輝いた。その他の映画作品に『未来世紀ブラジル』『太陽の帝国』『アンナ・カレーニナ』など。

●**宮田哲男** 長唄唄方、重要無形文化財保持者(人間国宝)。11月30日、心不全のため死去。91歳。1953年に八世稀音家三郎助に入門し、東京藝術大学音楽学部邦楽科に入学し、59年に同大学大学院音楽研究科を終了。同大出身者による長唄演奏団体「長唄東音会」の中心メンバーとして活躍。貴音三郎助の芸名でも知られた。88年文化庁芸術祭賞、90年芸術選奨文部大臣賞を受賞し、98年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。2000年紫綬褒章、03年日本藝術院賞、14年旭日小綬章。23年文化功労者。

【12月】

●**原田真人** 映画監督。12月8日、死去。76

歳。映画評論家を経て、1979年に監督デビュー。95年『KAMIKAZE TAXI』、97年『バウンスKOGALS』、99年『金融腐蝕列島 呪縛』などを手がけ、2008年、横山秀夫のベストセラー小説を原作とする『クライマーズ・ハイ』が、日本アカデミー賞10部門で優秀賞を受賞した。近年では15年『日本のいちばん長い日』、18年『検察側の罪人』などを監督したほか、03年の米映画『ラストサムライ』には俳優として出演した。

●**石沢秀二** 演出家、演劇評論家。12月9日、急性大動脈解離のため死去。95歳。1967年に劇団青年座に入団。『三文オペラ』などの演出を手がけた。雑誌『新劇』の編集長や国際演劇評論家協会日本センター会長なども務めた。

●**大谷信義** 松竹株式会社名誉会長。12月10日、病気のため死去。80歳。1968年6月に松竹株式会社に入社。映画営業本部部長、常務取締役、専務取締役に続き、98年代表取締役役に就任した。その後、2007年代表、取締役会長、24年名誉会長に就任した。一方で、一般社団法人日本映画製作者連盟、公益社団法人日本映画興行協会、一般社団法人日本映画テレビプロデューサー協会などの公職の会長を務め、業界の発展に尽くした。20年「映画の日」特別功労大賞受賞、22年藍綬褒章、中央区名誉区民顕彰。

●**ピーター・グリーン** 米・俳優。12月12日、死去。60歳。1990年にテレビで俳優としてのキャリアをスタート。その後、映画『バルブ・フィクション』ゼッド役や『マスク』ドリアン役、『ユー・ジュアル・サスペクツ』など、「彼が登場した瞬間に“悪役”だとわかる」と称されるほど、世界屈指の性格俳優として人気を博した。

●**アーサー・コーン** スイス・映画プロデューサー。12月12日、死去。98歳。記者や脚本家を経て映画プロデューサーとして活躍。72年ミュンヘン五輪でイスラエル選手団が襲撃された事件をテーマにした『ブラック・セプテンバー ミュンヘン・テロ事件の真実』などを手がけた。

●**ロブ・ライナー** 米・映画監督。12月14日、死去。78歳。映画『オー！ゴッド』などで知られるカール・ライナー監督を父に持ち、幼少期からテレビ番組などに出演。1984年『スパイナル・タップ』で監督デビューを果たすと、86年『スタンド・バイ・ミー』が大ヒットした。その後も『恋人たちの予感』『ミザリー』『ア・

フュー・グッドメン』『アメリカン・プレジデント』など数々の話題作を手がけた。

●**内館牧子** 脚本家。12月17日、急性左心不全のため死去。77歳。三菱重工業勤務を経て脚本家に。ドラマ『思い出にかわるまで』『週末婚』、NHK連続テレビ小説『ひらり』『私の青空』、大河ドラマ『毛利元就』など数々の名作を手がけたほか、わらび座ミュージカル『小野小町』『政吉とフジタ』も手がけた。また相撲好きで知られ、2000年から2010年まで女性で初めての大相撲・横綱審議委員会の委員を務めた。

●**中島安敏** 作曲家。12月18日、腎不全のため死去。89歳。エミー・ジャクソンや安西マリアが歌った『涙の太陽』がヒットした。その他の代表曲に『京都の夜』『霧のかなたに』など。

●**本橋成一** 写真家、映画監督。12月20日、老衰のため死去。85歳。1968年に炭鉱労働者にスポットを当てた写真『炭鉱(ヤマ)』で太陽賞を受賞。映画監督としても活動し、97年『ナージャの村』、2002年『アレクセイと泉』を手がけたほか、2003年に東京・中野のミニシアターの運営権を取得して「ポレポレ東中野」を立ち上げた。

●**尾崎将司** 元プロゴルファー。12月23日、S状結腸がんのため死去。78歳。1964年に徳島海南高校のエースとして選抜高校野球大会で優勝。プロ野球・西鉄ライオンズ(現：埼玉西武ライオンズ)に入団したが退団してプロゴルファーに転身。プロデビュー2年目の71年日本プロ選手権で初優勝を飾り、わずか3か月で5勝を挙げ一躍トップ選手となった。「ジャンボ尾崎」として親しまれ、青木功、中嶋常幸と切磋琢磨しながらゴルフ人気の向上に大きく貢献。現行のツアー制度が施行されて以降、94年からの5年連続を含め計12度の賞金王に輝き、ツアー制度以前も含めたプロ通算勝利数は113に上った。

●**海老名香葉子** 初代林家三平の妻、エッセイスト。12月24日、老衰のため死去。92歳。東京の釣竿職人の家に生まれ、戦争孤児となった後に、得意客だった三代目三遊亭金馬に引き取られ、その縁で初代林家三平と結婚。一門のおかみさんとして奮闘した。一方で、私財を投じて東京・上野に「慰霊碑」や「平和の母子像」などを建てたほか、『うしろの正面だあれ』など戦争体験や平和への思いを綴った著書も多く残した。

●**ブリジット・バルドー** 仏・俳優。12月28日、死去。91歳。10代で雑誌のモデルとなり、1952年のコメディ『素晴らしき遺産』で銀幕デビュー。56年『素直な悪女』で主人公の奔放な女性役を演じ、一躍世界的なスターとなった。その他代表作に『私生活』『軽蔑』『ビバ! マリア』など。73年に映画界を引退した後は、動物愛護運動家として活動した。

劇団・主催団体別 公演データ

－ 2025年1月～12月－

- ◆劇団・主催団体等アンケート調査データ…………… 449
- ◆主催団体別データ…………… 460

劇団・主催団体等アンケート調査データ (2025年1月～12月)

※当会アンケートにご回答いただいた団体のみ記載。五十音順・敬称略
 ※各団体末尾の公演データは「上演都道府県、国・地域 / 公演回数 / 動員数」の順に記載
 ※都道府県の並びは全国地方公共団体コードに準じる
 ※海外の国・地域名称は外務省 HP 「国・地域」に準じる

【あ行】

◆**アマヤドリ** メール / info@amayadori.co.jp 代表 / 広田淳一 所属 / 15名
 東京都 / 6回 / 800人

◆**あんがいおまる一座** メール / theater@sekitansouko.com 電話 / 06-6581-0664
 FAX / 06-6581-2670 代表 / あんがいおまる
 大阪府 / 30回 / 900人

◆**イキウメ** メール / info@h-b.jp 代表 / 前川知大 所属 / 8名
 東京都 / 33回 / 6,967人 大阪府 / 6回 / 1,417人

◆**池の下** メール / ikenoshita@ac.auone-net.jp 電話 / 03-5609-4857 FAX / 03-5609-4857 代表 / 長野和文 所属 / 5名
 東京都 / 4回 / 243人

◆**いるか Hotel** メール / irukahotel999@gmail.com 電話 / 0798-27-6071 FAX / 0798-27-6071 代表 / 谷省吾 所属 / 5名
 兵庫県 / 7回 / 250人 香川県 / 8回 / 220人

◆**演劇ユニット☆宇宙食堂** メール / info@uchu-shokudo.com 電話 / 03-3306-0445 FAX / 03-3306-2165 代表 / 新井総 所属 / 8名
 茨城県 / 2回 / 1,100人 東京都 / 12回 / 1,360人 神奈川県 / 1回 / 200人
 鹿児島県 / 1回 / 50人

◆**一般社団法人エーシーオー沖縄** メール / kangeki@acookinawa.com 電話 / 098-887-1333 FAX / 098-887-1334 代表 / 大城安恵 所属 / 6名
 沖縄県 / 100回 / 8,760人

◆**オペラシアターこんにゃく座** メール / info@konnyakuza.com 電話 / 044-930-1720 FAX / 044-930-1721 代表 / 萩京子 所属 / 47名

北海道 / 9回 / 2,687人	青森県 / 3回 / 901人	岩手県 / 7回 / 2,391人
宮城県 / 3回 / 1,416人	秋田県 / 3回 / 348人	山形県 / 1回 / 278人
福島県 / 10回 / 3,615人	栃木県 / 3回 / 1,631人	群馬県 / 1回 / 323人
埼玉県 / 3回 / 1,423人	千葉県 / 4回 / 1,716人	東京都 / 25回 / 7,397人
神奈川県 / 17回 / 5,937人	富山県 / 2回 / 996人	福井県 / 4回 / 1,932人

山梨県 /1回 /202人
静岡県 /11回 /4,401人
滋賀県 /2回 /529人
兵庫県 /2回 /528人
島根県 /5回 /1,785人
山口県 /3回 /501人
高知県 /5回 /2,408人
大分県 /2回 /822人

長野県 /3回 /1,290人
愛知県 /9回 /4,769人
京都府 /2回 /659人
奈良県 /2回 /486人
岡山県 /5回 /1,538人
徳島県 /4回 /2,003人
愛媛県 /4回 /960人

岐阜県 /7回 /2,286人
三重県 /3回 /688人
大阪府 /8回 /2,679人
和歌山県 /2回 /462人
広島県 /3回 /742人
香川県 /4回 /1,767人
福岡県 /5回 /1,494人

◆**音楽座ミュージカル** メール / info@ongakuza-musical.com 電話 / 03-3222-7760
FAX / 03-3222-1178 代表 / 相川タロー 所属 / 39名

茨城県 /9回 /2,468人
山梨県 /1回 /291人
静岡県 /4回 /1,035人
広島県 /2回 /1,262人

東京都 /32回 /17,207人
長野県 /5回 /1,474人
愛知県 /19回 /8,123人

神奈川県 /4回 /1,955人
岐阜県 /2回 /371人
大阪府 /4回 /3,383人

◆**女歌舞伎劇団尚** メール / show@okabuki.com 電話 / 03-5232-9885 FAX / 03-5232-9886 代表 / さとうしょう 所属 / 11名
東京都 /14回 /2,670人

【か行】

◆**加藤健一事務所** メール / katojimusy@nifty.com 電話 / 03-3557-0789 FAX / 03-3557-1686 代表 / 加藤健一 所属 / 5名

東京都 /35回 /7,200人
鳥取県 /2回 /918人
広島県 /5回 /2,812人

長野県 /4回 /2,100人
島根県 /2回 /1,357人
山口県 /2回 /1,295人

兵庫県 /1回 /800人
岡山県 /10回 /7,276人

◆**カムカムミニキーナ** メール / ccm@3297.jp 電話 / 090-6328-1076 代表 / 松村武 所属 / 18名

東京都 /15回 /2,063人 大阪府 /7回 /665人 高知県 /2回 /170人

◆**クラアク芸術堂** 代表 / 小佐部明広 所属 / 9名
北海道 /13回 /463人

◆**劇団蒼い群** 代表 / 福本幸男 所属 / 7名
神奈川県 /2回 /223人

◆**劇団あしぶえ(特定非営利活動法人あしぶえ)** メール / ashibue@ashibue.jp 電話 / 0852-54-2400 FAX / 0852-54-2411 代表 / 園山土筆 所属 / 10名
島根県 /4回 /1,540人

◆**劇団石** メール / horikiyo1950@gmail.com 電話 / 090-4771-1044 代表 / 堀田清 所属 / 12名

熊本県 /2回 /450人

◆劇団「隕石のかげら」 メール / info@inseki-kakera.jp 電話 / 03-6233-9451 FAX / 03-6233-9452 代表 / 布宮和明 所属 / 25名

福島県 /3回 /240人 東京都 /2回 /83人

◆劇団大阪 メール / g.osaka103@gmail.com 電話 / 06-6768-9957 FAX / 06-6768-9957 代表 / 山内佳子 所属 / 22名

大阪府 /26回 /1,342人

◆劇団解体社 メール / gekidan@kaitaisha.com 電話 / 042-634-8476 FAX / 042-634-8476 代表 / 清水信臣 所属 / 8名

東京都 /5回 /200人

◆有限会社 劇団風の子 メール / tokyo@kazenoko.co.jp 電話 / 042-652-1001 FAX / 042-652-1013 代表 / 金田拓 (取締役) 所属 / 16名

青森県 /11回 /1,360人

秋田県 /3回 /279人

栃木県 /14回 /1,672人

千葉県 /40回 /5,636人

新潟県 /1回 /120人

岐阜県 /6回 /808人

山口県 /2回 /359人

長崎県 /3回 /482人

岩手県 /3回 /503人

福島県 /7回 /551人

群馬県 /8回 /968人

東京都 /181回 /28,785人

山梨県 /10回 /1,053人

静岡県 /9回 /907人

高知県 /3回 /1,423人

熊本県 /4回 /439人

宮城県 /1回 /70人

茨城県 /17回 /3,613人

埼玉県 /47回 /6,304人

神奈川県 /39回 /5,913人

長野県 /34回 /6,457人

愛知県 /15回 /2,109人

福岡県 /5回 /1,345人

鹿児島県 /1回 /266人

◆劇団風の子関西 メール / kazenoko-kansai@k5.dion.ne.jp 電話 / 075-957-8502 FAX / 075-951-1810 代表 / 市川一通 所属 / 11名

北海道 /29回 /3,980人

山形県 /1回 /195人

埼玉県 /1回 /110人

神奈川県 /1回 /40人

岐阜県 /4回 /486人

京都府 /21回 /4,211人

奈良県 /4回 /558人

岡山県 /25回 /4,324人

香川県 /1回 /155人

青森県 /9回 /1,539人

福島県 /12回 /1,826人

千葉県 /1回 /34人

新潟県 /1回 /43人

静岡県 /5回 /474人

大阪府 /80回 /17,329人

和歌山県 /12回 /1,206人

広島県 /13回 /1,033人

高知県 /3回 /177人

秋田県 /4回 /40人

栃木県 /1回 /135人

東京都 /16回 /1,265人

長野県 /2回 /262人

滋賀県 /2回 /26人

兵庫県 /13回 /1,448人

島根県 /2回 /271人

山口県 /1回 /92人

福岡県 /2回 /149人

◆劇団風の子九州 メール / info@kazenoko-kyushu.or.jp 電話 / 092-841-7889 FAX / 092-841-7896 代表 / 仮屋祐一 所属 / 18名

宮城県 /1回 /167人

神奈川県 /1回 /500人

石川県 /2回 /720人

静岡県 /1回 /331人

京都府 /6回 /653人

山形県 /1回 /189人

新潟県 /1回 /100人

長野県 /2回 /60人

愛知県 /15回 /2,572人

大阪府 /4回 /361人

福島県 /11回 /1,097人

富山県 /4回 /693人

岐阜県 /5回 /576人

三重県 /2回 /421人

兵庫県 /1回 /131人

島根県 /17回 /1,655人	岡山県 /2回 /144人	広島県 /41回 /5,809人
山口県 /6回 /1085人	福岡県 /175回 /31,042人	佐賀県 /7回 /877人
長崎県 /18回 /2,425人	熊本県 /15回 /1,333人	大分県 /7回 /702人
宮崎県 /38回 /9,420人	鹿児島県 /48回 /5,516人	沖縄県 /11回 /971人

◆**劇団河童座** メール / gekidankappaza@outlook.jp 電話 / 046-823-7443 代表 / 横田和弘

神奈川県 /8回 /540人

◆**劇団上町クローズライン** メール / c-c-line@hotmail.co.jp 電話 / 090-1349-0986 FAX / 099-223-0446 代表 / 宇都大作 所属 / 6名

鹿児島県 /12回 /1,370人

◆**劇団唐組** メール / karagumiinfo@yahoo.co.jp 電話 / 03-6913-9225 FAX / 03-6913-9225 代表 / 久保井研 所属 / 15名

茨城県 /2回 /460人 東京都 /28回 /4,792人 長野県 /2回 /339人
兵庫県 /3回 /735人 岡山県 /2回 /310人

◆**劇団きらら** 代表 / 池田美樹 所属 / 5名

熊本県 /6回 /239人

◆**一般社団法人 劇団キンダースペース** メール / post@kinder-space.com 電話 / 048-252-0551 FAX / 048-252-0551 代表 / 原田一樹 所属 / 18名

埼玉県 /26回 /752人 東京都 /7回 /652人

◆**劇団群馬中芸** メール / gunmachugei@knd.biglobe.ne.jp 電話 / 027-288-2700 FAX / 027-288-2792 代表 / 石川祚子 所属 / 10名

栃木県 /1回 /320人 群馬県 /13回 /2,110人 埼玉県 /4回 /970人

◆**劇団五期会** メール / gokikai6458@yahoo.co.jp 電話 / 06-6458-6934 FAX / 06-6458-6934 代表 / 尾崎磨基 所属 / 20名

大阪府 /10回 /1,073人

◆**劇団棧敷童子** メール / s-douji@imail.plala.or.jp 電話 / 03-5637-8902 FAX / 03-5637-8547 代表 / 東憲司 所属 / 17名

東京都 /32回 /約4000人

◆**劇団☆新感線** 代表 / いのうえひでのり 所属 / 22名

東京都 /76回 /84,000人 長野県 /6回 /9,000人 大阪府 /40回 /71,000人

◆**劇団新波** 代表 / 加藤孝明 所属 / 10名

山口県 /1回 /不特定

◆**劇団スーパー・エキセントリック・シアター** メール / info@set1979.com 電

話／03-6433-1669 FAX／03-6433-1989 代表／大関真 所属／50名
東京都/27回/9,506人

◆劇団昴 メール／subaru@theatercompany-subaru.com 電話／03-6907-9220 FAX
／03-3907-9230 代表／荒川秀樹 所属／120名

東京都/36回/2,711人 富山県/4回/3,297人 石川県/3回/1,405人
岐阜県/2回/907人 愛知県/6回/4,932人 三重県/2回/836人

◆劇団青春座 メール／gekidanseishunza@gmail.com 電話／090-1165-5585 FAX／
093-931-3477 代表／和田正人 所属／45名

福岡県/12回/2,873人

◆劇団生命座 代表／鷹青由加子 所属／15名

◆一般社団法人 劇団前進座 メール／senden@zenshinza.com 電話／0422-49-2811
FAX／0422-44-4180 代表／寺田克己 所属／60名

北海道/9回/3,309人	岩手県/3回/325人	宮城県/3回/2,657人
秋田県/4回/499人	福島県/1回/484人	栃木県/2回/737人
群馬県/1回/600人	埼玉県/1回/629人	千葉県/3回/617人
東京都/38回/15,949人	石川県/3回/1,551人	福井県/3回/3,134人
山梨県/1回/420人	長野県/3回/1,198人	岐阜県/2回/707人
静岡県/3回/1,861人	愛知県/5回/2,469人	滋賀県/4回/1,208人
京都府/18回/8,940人	大阪府/10回/4,669人	兵庫県/4回/1,950人
奈良県/2回/794人	和歌山県/4回/2,284人	鳥取県/2回/722人
島根県/2回/1,346人	岡山県/11回/9,184人	広島県/8回/4,966人
山口県/3回/1,313人	徳島県/4回/1,918人	香川県/3回/939人
愛媛県/3回/826人	高知県/4回/1,423人	福岡県/6回/1,437人
鹿児島県/2回/826人		

◆劇団たんぽぽ(公益社団法人教育演劇研究協会) メール／tanpopo@gekidan-
tanpopo.com 電話／053-461-5395 FAX／053-461-6378 代表／村岡由美子 所属／30
名

北海道/1回/147人	宮城県/6回/1,519人	埼玉県/6回/1,336人
東京都/1回/194人	神奈川県/9回/2,309人	山梨県/4回/1,346人
長野県/3回/635人	新潟県/29回/7,121人	岐阜県/4回/874人
静岡県/259回/64,480人	愛知県/20回/5,250人	滋賀県/1回/88人
徳島県/5回/1,640人	香川県/1回/300人	大分県/1回/914人
沖縄県/20回/4,464人		

◆劇団チャリT企画 メール／contact@chari-t.com 電話／070-6450-4167 代表／橋
原拓 所属／9名

東京都/7回/730人

◆劇団チョコレートケーキ メール／info@geki-choco.com 電話／080-9080-1861

代表／日澤雄介 所属／6名

東京都/22回/2,640人
奈良県/2回/500人

京都府/2回/500人
和歌山県/2回/1,000人

大阪府/2回/450人
兵庫県/2回/760人

◆有限会社 劇団角笛 メール／info@tsunobue.co.jp 電話／03-3994-7624 FAX／03-3994-7635 代表／白石武士 所属／11名

青森県/4回/1,624人
群馬県/2回/494人
東京都/19回/10,557人
福井県/1回/138人
静岡県/4回/4,057人
滋賀県/3回/1,272人
和歌山県/1回/107人
広島県/3回/1,407人
愛媛県/9回/3,317人
佐賀県/2回/1,132人
大分県/3回/957人

茨城県/1回/410人
埼玉県/6回/1,129人
富山県/2回/1,285人
長野県/3回/1,850人
愛知県/7回/3,977人
大阪府/3回/877人
鳥取県/3回/1,140人
山口県/5回/2,157人
高知県/1回/191人
長崎県/3回/1,871人
宮崎県/1回/278人

栃木県/1回/329人
千葉県/1回/387人
石川県/2回/1,243人
岐阜県/1回/487人
三重県/2回/460人
兵庫県/4回/1,253人
岡山県/4回/2,233人
香川県/2,217人
福岡県/9回/4,180人
熊本県/1回/856人

◆劇団天八 メール／info@tenpachi.jp 代表／三宅久子 所属／3名

大阪府/1回/270人 岡山県/1回/60人

◆劇団時来組(有限会社神田時来組) メール／tokigumi2000@yahoo.co.jp 電話／03-3295-1733 FAX／03-3295-1733 代表／泉堅太郎 所属／9名

東京都/8回/1,650人

◆劇団ハンニャーズ メール／hannya828s@gmail.com 電話／070-8999-8285 代表／中嶋かねまさ 所属／10名

新潟県/11回/460人

◆劇団弘演 メール／hiroen@jd5.so-net.ne.jp 電話／0172-32-6087 FAX／0172-32-6087 代表／作間しのぶ 所属／7名

青森県/7回/900人

◆有限会社劇団プーク メール／puppet@puk.jp 電話／03-3370-5128 FAX／03-3370-5120 代表／石田伸子 所属／37名

北海道/3回/420人
山形県/3回/260人
栃木県/1回/450人
千葉県/13回/1,840人
新潟県/1回/130人
岐阜県/1回/170人
三重県/1回/500人
大阪府/6回/3,200人
和歌山県/3回/2,000人

青森県/3回/630人
福島県/2回/540人
群馬県/1回/100人
東京都/214回/26,022人
山梨県/2回/490人
静岡県/5回/964人
滋賀県/3回/1,050人
兵庫県/10回/3,945人
鳥取県/1回/75人

宮城県/1回/66人
茨城県/3回/540人
埼玉県/23回/3,865人
神奈川県/28回/3,713人
長野県/6回/1,820人
愛知県/1回/50人
京都府/3回/1,300人
奈良県/2回/750人
島根県/2回/420人

岡山県 /3 回 /570 人	山口県 /3 回 /1,250 人	広島県 /5 回 /650 人
香川県 /6 回 /950 人	愛媛県 /2 回 /400 人	高知県 /2 回 /290 人
福岡県 /4 回 /2,130 人	熊本県 /1 回 /400 人	大分県 /1 回 /40 人
宮崎県 /2 回 /750 人	鹿児島県 /2 回 /360 人	チェコ共和国 /19 回 /4,550 人

◆**劇団文芸座** メール / kkoizumi@p2322.nsk.ne.jp 電話 / 076-431-5015 FAX / 076-431-5017 代表 / 舟本幸人 所属 / 29 名
モナコ公国 /2 回 /760 人

◆**劇団未来** メール / mirainoe@sirius.ocn.ne.jp 電話 / 06-6939-5777 FAX / 06-6939-5777 代表 / 藤岡英幸 所属 / 14 名
大阪府 /24 回 /955 人

◆**劇団民藝** メール / seisaku@gekidanmingei.co.jp 電話 / 044-987-7711 FAX / 044-986-0034 代表 / 丹野郁弓 所属 / 149 人

福島県 /4 回 /1,600 人	群馬県 /2 回 /600 人	埼玉県 /2 回 /810 人
東京都 /43 回 /15,000 人	神奈川県 /18 回 /2,640 人	福井県 /1 回 /400 人
静岡県 /2 回 /600 人	滋賀県 /1 回 /380 人	京都府 /2 回 /800 人
大阪府 /2 回 /710 人	兵庫県 /3 回 /1,660 人	奈良県 /1 回 /790 人
和歌山県 /3 回 /2,100 人	鳥取県 /2 回 /940 人	島根県 /2 回 /1,350 人
岡山県 /10 回 /6,300 人	広島県 /5 回 /2,900 人	山口県 /5 回 /2,820 人
徳島県 /2 回 /1,150 人	香川県 /1 回 /610 人	愛媛県 /1 回 /510 人
高知県 /2 回 /990 人	福岡県 /15 回 /8,760 人	佐賀県 /2 回 /1,610 人
長崎県 /6 回 /3,790 人	熊本県 /3 回 /2,090 人	大分県 /2 回 /1,160 人
宮崎県 /2 回 /1,240 人	鹿児島県 /2 回 /1,190 人	

◆**劇団麦** メール / gekidanmugi@infoseek.jp 電話 / 080-6294-4576 代表 / 手塚光弘 所属 / 10 名
宮城県 /3 回 /160 人

◆**NPO 法人 劇団メグロコミュニティシアター** メール / mctmeguro@gmail.com 電話 / 090-6941-5123 代表 / 野中久仁子 所属 / 17 名
東京都 /4 回 /240 人

◆**劇団夢十字星** メール / shine-starfield-hawks@orchid.plala.or.jp 電話 / 090-3499-5130 FAX / 0277-47-7388 代表 / 星野孝雄 所属 / 15 名
群馬県 /2 回 /156 人

◆**激団リジヨロ** メール / gekidan.rigolo@gmail.com 電話 / 080-6598-0056 代表 / 金光仁三 (団長)、こんどうひろこ (主宰) 所属 / 5 名
東京都 /7 回 /348 人 大韓民国 /4 回 /86 人

◆**幻灯劇場** メール / gentogekijo@gmail.com 代表 / 藤井颯太郎 所属 / 23 名
東京都 /6 回 /555 人 京都府 /5 回 /507 人

【さ行】

◆ **JACROW** メール／info@jacrow.com 電話／03-6453-8248 FAX／03-6453-8248
代表／中村ノブアキ 所属／10名
東京都/25回/3,757人 愛知県/2回/188人

◆ **シェイクスピアシアター** メール／info.shksprthr45@gmail.com 代表／高山健太
三田和慶 西山公介 所属／3名
東京都/15回/1,100人

◆ **下鴨車窓** メール／shimogamoshasow@gmail.com 電話／070-8980-9538 代表／田
辺剛 所属／4名
三重県/3回/190人 兵庫県/5回/320人 岡山県/4回/304人

◆ **公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会** メール／support@suginoko.org 電話／
03-3984-2396 FAX／03-3984-2264 代表／大場隆志 所属／5名
北海道～沖縄/1,030回/88,691人

◆ **盛名劇団かもめ** メール／info@sg-kamome.com 電話／090-8258-5275 FAX／
0246-25-9600 代表／森繪留 所属／6名

【た行】

◆ **一般社団法人チェルフィッチュ** 代表／岡田利規 所属／1名
愛知県/1回/303人 三重県/2回/204人 兵庫県/4回/940人
熊本県/2回/258人 大韓民国/4回/918人

◆ **弦巻楽団(一般社団法人劇団弦巻楽団)** メール／info@tsurumaki-gakudan.com
代表／弦巻啓太 所属／12名
北海道/21回/1,560人

◆ **東京演劇アンサンブル** メール／tee@tee.co.jp 電話／048-423-2521 FAX／048-
423-8738 代表／志賀澤子 所属／40名
山形県/16回/13,645人 茨城県/1回/703人 埼玉県/1回/250人
東京都/22回/4,937人 神奈川県/2回/923人 山梨県/3回/2,261人
長野県/2回/673人 静岡県/3回/1,743人 愛知県/1回/500人
兵庫県/1回/52人 香川県/3回/646人 愛媛県/2回/276人
高知県/2回/437人 福岡県/2回/830人 長崎県/1回/405人
熊本県/1回/800人 宮城県/4回/2,066人 鹿児島県/1回/201人
沖縄県/1回/183人

◆ **東京タンバリン(一般社団法人月と太陽)** メール／tokyotanbarin@gmail.com
電話／090-6475-9699 FAX／03-3397-0193 代表／高井浩子 所属／9名
東京都/8回/240人 神奈川県/7回/200人

◆**一般社団法人 TRASHMASTERS** メール／trashmasters.net@gmail.com 代表
 ／中津留章仁 所属／13名
 東京都/13回/1,300人

【な行】

◆**9PROJECT** メール／info@9-project.net 電話／050-7110-4074 代表／渡辺和徳
 所属／2名
 東京都/10回/1,266人

◆**名取事務所** メール／thntr123@ybb.ne.jp 電話／03-3428-8355 FAX／03-3428-
 8355 代表／名取敏行 所属／14名
 東京都/41回/5,000人 京都府/2回/380人 岡山県/2回/220人
 福岡県/2回/250人

◆**庭劇団ペニノ** メール／niwagekidan@gmail.com 電話／080-4414-2828 代表／タ
 ニノクロウ 所属／5名
 東京都/3回/1,750人 富山県/2回/400人 兵庫県/2回/600人

◆**人形劇団京芸** メール／office@kyougei.com 電話／0774-21-4080 FAX／0774-
 21-4092 代表／清水正年 所属／18名
 千葉県/1回/300人 東京都/2回/400人 石川県/6回/1,650人
 福井県/2回/500人 長野県/3回/700人 岐阜県/1回/120人
 静岡県/2回/250人 三重県/1回/80人 滋賀県/6回/490人
 京都府/61回/7,780人 大阪府/115回/11,690人 兵庫県/58回/14,035人
 奈良県/7回/1,070人 岡山県/1回/100人 広島県/2回/200人
 山口県/2回/300人 徳島県/1回/100人 香川県/12回/1,440人
 福岡県/4回/540人 長崎県/5回/720人 熊本県/1回/70人
 大分県/34回/2,390人 鹿児島県/10回/930人

◆**人形劇団クラルテ** メール／office@clarte-net.co.jp 電話／06-6685-5601 FAX／
 06-6686-3461 代表／鶴巻靖子 所属／27名
 北海道/12回/1,440人 山形県/2回/240人 埼玉県/2回/1,600人
 千葉県/1回/700人 東京都/13回/2,854人 神奈川県/9回/2,150人
 富山県/1回/200人 石川県/2回/300人 長野県/8回/1,440人
 愛知県/3回/750人 三重県/2回/240人 滋賀県/12回/1,431人
 京都府/8回/845人 大阪府/284回/29,239人 兵庫県/153回/18,142人
 奈良県/11回/1,915人 和歌山県/16回/2,802人 島根県/2回/1,000人
 岡山県/1回/100人 香川県/10回/1,200人 福岡県/27回/3,820人
 長崎県/13回/1,560人 大分県/2回/240人 鹿児島県/45回/5,400人

◆**株式会社ネルケプランニング** 代表／野上祥子 所属／186名
 北海道/1回/686人 東京都/701回/759,175人 神奈川県/59回/72,313人
 愛知県/4回/2,919人 大阪府/192回/179,010人 兵庫県/89回/25,999人

【は行】

◆**花組芝居** メール／office@hanagumi.ne.jp 電話／03-3709-9430 FAX／03-3709-9431 代表／加納幸和 所属／23名
東京都/18回/2,663人

◆**万能グローブガラパゴスダイナモス** メール／info@galapagos-dynamos.com 電話／092-600-2383 FAX／092-600-2383 代表／椎木樹人 所属／19名
東京都/12回/1,892人 大阪府/6回/809人 福岡県/5回/1,938人

◆**万博設計** 代表／橋本匡市 所属／7名
大阪府/1回/42人 兵庫県/4回/416人

◆**P-act** メール／p.actmail0841@gmail.com 電話／090-1139-2963 代表／右来左往 所属／26名
京都府/27回/460人

◆**兵庫県立ピッコロ劇団** メール／gekidan-p@hyogo-arts.or.jp 電話／06-6426-8088 FAX／06-6426-1943 代表／岩松了 所属／34名
兵庫県/48回/9,205人

◆**F's Company** メール／seisaku@fs-company.com 電話／095-895-8147 代表／福田修志 所属／13人
長崎県/2回/200人

◆**特定非営利活動法人舞台アート工房・劇列車** メール／info@dramatrain.jp 電話／090-8222-8928 FAX／092-921-4831 代表／釜畑茂 所属／16名
福岡県/5回/450人 長崎県/1回/100人

【ま行】

◆**ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ** メール／musical@allstaff.co.jp 電話／03-5823-1055 FAX／03-5823-1054 代表／中嶋友紀子 所属／57名
埼玉県/1回/300人 東京都/19回/3,289人 神奈川県/1回/250人
静岡県/4回/500人 愛知県/2回/1,000人 三重県/2回/250人
大阪府/2回/1,000人 和歌山県/2回/1,000人 島根県/1回/249人
岡山県/1回/332人 広島県/6回/1,795人 山口県/4回/2,082人
福岡県/19回/11,539人 佐賀県/3回/2,090人 長崎県/7回/4,414人
熊本県/2回/2,108人 大分県/7回/2,651人 宮崎県/2回/1,248人
鹿児島県/4回/1885人

◆**無名劇団** メール／info@mumeigekidan.net 電話／050-3576-2384 代表／島原夏海 所属／22名

東京都 /9 回 /750 人 大阪府 /15 回 /700 人 兵庫県 /9 回 /850 人

◆株式会社メジャーリーグ メール / contact@ml-geki.com 電話 / 042-003-7057

代表 / 笹部博司 所属 / 2 名

北海道 /2 回 /600 人

東京都 /1 回 /450 人

大阪府 /2 回 /1,500 人

兵庫県 /1 回 /600 人

福岡県 /1 回 /600 人

【ら行】

◆流山児★事務所 メール / mail@ryuzanji.com 電話 / 03-5272-1785

東京都 /55 回 /4,027 人

年間の公演活動

2025年1月～12月

(当会アンケート回答81団体の集計)

開催都道府県等	公演日数	上演回数	動員数
北海道	88日	106回	13,748名
青森県	37日	48回	9,478名
岩手県	11日	13回	3,219名
宮城県	26日	33回	10,910名
秋田県	11日	14回	1,166名
山形県	21日	26回	15,047名
福島県	45日	50回	9,953名
茨城県	43日	45回	12,172名
栃木県	24日	25回	5,923名
群馬県	45日	45回	7,955名
埼玉県	101日	135回	23,177名
千葉県	57日	66回	12,317名
東京都	1,592日	2,148回	1,105,198名
神奈川県	174日	219回	103,911名
新潟県	35日	37回	7,724名
富山県	22日	22回	11,853名
石川県	24日	25回	9,817名
福井県	9日	12回	6,242名
山梨県	21日	23回	6,354名
長野県	161日	178回	55,078名
岐阜県	37日	40回	9,566名
静岡県	248日	320回	86,695名
愛知県	119日	140回	55,224名
三重県	23日	26回	5,405名
滋賀県	44日	49回	9,177名
京都府	153日	12回	28,260名
大阪府	942日	1,178回	369,434名
兵庫県	496日	589回	104,864名
奈良県	39日	42回	8,778名

和歌山県	58日	62回	15,870名
鳥取県	11日	15回	5,853名
島根県	40日	43回	13,330名
岡山県	94日	99回	42,824名
広島県	76日	90回	28,024名
山口県	38日	45回	16,706名
徳島県	15日	16回	6,811名
香川県	61日	77回	14,081名
愛媛県	23日	30回	9,606名
高知県	24日	27回	7,870名
福岡県	304日	336回	81,627名
佐賀県	13日	16回	6,841名
長崎県	135日	147回	49,103名
熊本県	35日	39回	9,899名
大分県	62日	64回	11,073名
宮崎県	39日	46回	13,214名
鹿児島県	163日	173回	23,394名
沖縄県	63日	132回	14,378名
北海道～沖縄(回答記載のまま)	676日	1,030回	88,691名

【海外】

チェコ共和国	11日	19回	4,550名
モナコ公国	2日	2回	760名
大韓民国	7日	8回	1,004名

主催団体別データ

(2025年1月～12月)

国立劇場各劇場 主催公演年間観客動員数

	上演ジャンル	観客動員数
国立劇場主催公演		
新国立劇場 中劇場	歌舞伎	19,465
サンパール荒川	歌舞伎	19,712
ティアラこうとう	歌舞伎・声明	19,969
きゅりあん	文楽	6,485
文京シビックホール	文楽・特別企画	8,384
シアター1010	文楽	14,143
よみうり大手町ホール	邦楽・舞踊	999
サントリーホール ブルーローズ	邦楽	331
東京芸術劇場プレイハウス	文楽	13,761
国立能楽堂	邦楽	379
浅草公会堂	舞踊・研修発表会（歌舞伎）	5,015
国立オリンピック記念青少年総合センター小ホール	研修発表会（歌舞伎・大衆芸能）	134
国立演芸場主催公演		
日本製鉄紀尾井小ホール	大衆芸能	8,633
千代田区立内幸町ホール	大衆芸能	778
渋谷区文化総合センター大和田6階伝承ホール	大衆芸能	3,516
深川江戸資料館	大衆芸能	2,466
すみだトリフォニー小ホール	大衆芸能	1,840
国立能楽堂	能・狂言	41,796
国立文楽劇場	文楽・舞踊・邦楽・民俗芸能等	96,228
国立文楽劇場 小ホール	大衆芸能	3,458
国立劇場おきなわ	組踊等沖縄伝統芸能	12,959
新国立劇場 オペラ劇場	オペラ・バレエ	157,646
新国立劇場 中劇場	演劇・現代舞踊等	18,226
新国立劇場 小劇場	演劇・現代舞踊等	25,679
大槻能楽堂	能楽	393
京都観世会館	能楽	471

※中止公演は除く

2025年松竹株式会社主催公演

1月	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
	歌舞伎座	壽初春大歌舞伎	1/2～26	46回
	新橋演舞場	初春大歌舞伎「双仮名手本三升 裏表忠臣蔵」	1/3～26	42回
	京都南座	初笑い！松竹新喜劇 新春お年玉公演	1/2～8	14回
	京都南座	PSYCHO-PASS サイコパス 京都南座歌舞伎ノ館×こえかぶ 朗読で楽しむ歌舞伎	1/11～12	4回
	京都南座	展示：PSYCHO-PASS サイコパス 京都南座歌舞伎ノ館	1/18～2/2	8(10)日
	大阪松竹座	「坂東玉三郎 初春お年玉公演」	1/3～8	6回
	大阪松竹座	「片岡仁左衛門 坂東玉三郎 初春特別公演」	1/11～26	14回
	浅草公会堂	新春浅草歌舞伎	1/2～26	44回
	三越劇場	「おちか奮闘記」	1/2～26	28回
2月	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
	歌舞伎座	猿若祭二月大歌舞伎	2/2～25	44回
	新橋演舞場	二月新派喜劇公演「三婆」	2/1～9	13回
	新橋演舞場	「浪人街」	2/20～28	11回
	京都南座	展示：PSYCHO-PASS サイコパス 京都南座歌舞伎ノ館	1/18～2/2	2(10)日
	京都南座	二月新派喜劇公演「三婆」	2/13～24	15回
	大阪松竹座	大阪国際文化芸術プロジェクト「立春歌舞伎特別公演」	2/1～16	30回
3月	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
	歌舞伎座	三月大歌舞伎	3/4～27	44回
	新橋演舞場	「浪人街」	3/1～16	20回
	京都南座	三月花形歌舞伎	3/2～23	40回
	大阪松竹座	「関西ジュニア 原石まつり キラキラしとんの気のせいちゃうでえ～！」	3/8～30	30回
4月	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
	歌舞伎座	四月大歌舞伎	4/3～25	42回
	歌舞伎座	八代目 尾上菊五郎 六代目 尾上菊之助襲名披露興行 古式顔寄せ手打式	4/29	1回
	新橋演舞場	映画：思い出の松竹銀幕セレクション in 新橋演舞場	4/5～17	26回
	新橋演舞場	映画：「劇場版 忍たま乱太郎」 シリーズ3作品一挙上映 in 新橋演舞場	4/18～20	6回
	京都南座	「浪人街」	4/2～10	12回
	京都南座	南座 春の舞台体験ツアー	4/13～19	35回
	京都南座	翼和希トップスター就任記念公演 OSK日本歌劇団「レビュー in Kyoto」	4/25～29 (25日・26日 計3回公演中止)	10回
	大阪松竹座	大阪松竹座 ステージ体験ツアー2025	4/3～13	60回
大阪松竹座	「春だ！笑いだ！松竹新喜劇 陽春公演」	4/19～27	16回	

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
5月	歌舞伎座	八代目 尾上菊五郎襲名披露 六代目 尾上菊之助襲名披露 團菊祭五月大歌舞伎	5/2～27	48回
	新橋演舞場	「反乱のボヤージュ」	5/6～16	14回
	京都南座	春の舞台体験ツアー	5/2～6	25回
	京都南座	舟木一夫シアターコンサート in 南座	5/9～11	3回
	京都南座	南座 歌舞伎鑑賞教室	5/15～24	18回
	大阪松竹座	OSK日本歌劇団 OG公演「Forever Dream」	5/2～3	4回
	大阪松竹座	大阪・関西万博開催記念「薫風歌舞伎特別公演」	5/11～25	42回
	日生劇場	ミュージカル「ビートルジュース」	5/9～24	24回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
6月	歌舞伎座	八代目尾上菊五郎襲名披露 六代目尾上菊之助襲名披露 六月大歌舞伎	6/2～27	48回
	新橋演舞場	熱海五郎一座「黄昏のレストランテ ～復讐はラストオーダーのあとで～」	6/2～27	35回
	京都南座	坂東玉三郎×春風亭小朝 南座特別公演	6/6～8	3回
	京都南座	坂東玉三郎特別公演 竹久夢二生誕140年記念	6/12～22	10回
	大阪松竹座	「反乱のボヤージュ」	6/1～8	9回
	大阪松竹座	OSK日本歌劇団「レビュー 春のおどり」	6/14～6/24	18回
	新歌舞伎座	ミュージカル「ビートルジュース」	6/4～29	27回
三越劇場	「花嫁 ～娘からの花束～」	6/1～24	28回	

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
7月	歌舞伎座	七月大歌舞伎	7/5～26	40回
	新橋演舞場	歌舞伎「刀剣乱舞 東鑑雪魔縁」	7/5～27	36回
	京都南座	桂米朝生誕百年記念公演 桂米朝一門会	7/4	2回
	京都南座	「華岡青洲の妻」	7/10～23	18回
	京都南座	南座 夏の舞台体験ツアー	7/26～8/11	25(79)回
	大阪松竹座	尾上菊之助改め 八代目 尾上菊五郎襲名披露 尾上丑之助改め 六代目 尾上菊之助襲名披露 「七月大歌舞伎」関西・歌舞伎を愛する会 第三十三回	7/5～24	36回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
8月	歌舞伎座	八月納涼歌舞伎	8/3～26	66回
	新橋演舞場	「華岡青洲の妻」	8/1～17	22回
	新橋演舞場	OSK日本歌劇団「レビュー 夏のおどり」	8/22～26	9回
	新橋演舞場	舟木一夫シアターコンサート in 新橋演舞場	8/27～30	4回
	京都南座	南座 夏の舞台体験ツアー	7/26～8/11	54(79)回
	京都南座	歌舞伎「刀剣乱舞 東鑑雪魔縁」	8/15～26	19回
	大阪松竹座	「東京ジュニア Next Generation 2025」	8/7～16	17回
	大阪松竹座	「Boys be 8 Summer Live」	8/22～31	13回
	サンシャイン劇場	「あの夏、君と出会えて ～幻の甲子園で見た景色～」	8/23～31	12回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
9月	歌舞伎座	秀山祭九月大歌舞伎	9/2～24	42回
	新橋演舞場	「ANDO」	9/5～28	34回
	京都南座	歌舞伎「流白浪燦星」	9/2～26	37回
	大阪松竹座	「あの夏、君と出会えて ～幻の甲子園で見た景色～」	9/6～14	10回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演 「秋だ！笑いだ！松竹新喜劇 九月公演」	9/20～28	16回
	歌舞伎座ホール	親子で楽しむ歌舞伎体験イベント「へんしん！桃太郎」	9/14～15	3回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
10月	歌舞伎座	錦秋十月大歌舞伎	10/1～21	60回
	新橋演舞場	「星列車で行こう」	10/4～26	27回
	京都南座	市川團十郎特別公演	10/10～26	27回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演「大阪は踊る！」	10/4～12	14回
	大阪松竹座	「ANDO」	10/17～25	13回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演「星列車で行こう」	10/30～31	2回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
11月	歌舞伎座	吉例顔見世大歌舞伎	11/2～26	46回
	新橋演舞場	劇団☆新感線 「爆烈忠臣蔵 ～桜吹雪 THUNDERSTRUCK」	11/9～30	23回
	京都南座	南座錦秋公演 松竹上方喜劇まつり	11/1～24	30回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演「星列車で行こう」	11/1～11/9	12回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演「じゃりん子チエ」	11/15～25	18回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演 「四代目 桂福團治 芸歴六十五年記念公演」	11/29	1回

	会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
12月	歌舞伎座	十二月大歌舞伎	12/4～26	63回
	新橋演舞場	劇団☆新感線 「爆烈忠臣蔵～桜吹雪 THUNDERSTRUCK」	12/1～26	26回
	京都南座	京の年中行事 當る午歳 吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎 尾上菊之助改め 八代目 尾上菊五郎襲名披露 尾上丑之助改め 六代目 尾上菊之助襲名披露	12/1～25	46回
	大阪松竹座	大阪松竹座さよなら公演 「スイートホーム ビターホーム」	12/6～14	12回
	大阪松竹座	大阪松竹座 ステージ体験ツアー Final	12/20～27	48回

2025年東宝株式会社主催公演

上演作品	会場	公演期間	公演回数
レ・ミゼラブル	帝国劇場	1/ 2～ 2/ 7	53
THE BEST	帝国劇場	2/14～ 2/28	20
HERO	シアタークリエ	2/ 6～ 3/ 2	31
ケインとアベル	東急シアターオーブ	1/22～ 2/16	32
VOICARIONXIX	シアタークリエ	1/ 4～ 1/30	41
屋根上のヴァイオリン弾き	明治座	3/ 7～ 3/29	29
ボニー&クライド	シアタークリエ	3/10～ 4/17	49
ウェイトレス	日生劇場	4/ 9～ 4/30	28
フランケンシュタイン	東京建物 Brillia HALL	4/10～ 4/30	26
1789 -バスティーユの恋人たち-	明治座	4/ 8～ 4/29	28
ダンス・オブ・ヴァンパイア	東京建物 Brillia HALL	5/10～ 5/31	28
陽気な幽霊	シアタークリエ	5/ 3～ 5/29	31
二都物語	明治座	5/ 7～ 5/31	32
海宝直人30周年コンサート“ever”	シアタークリエ	6/16～ 7/ 7	17
舞台 梨泰院クラス	東京建物 Brillia HALL	6/ 9～ 6/30	27
ノスタルジックキャバレー	シアタークリエ	6/ 2～ 6/10	12
ナイツテイルコンサート	東京ガーデンシアター	8/ 2～ 8/10	12
Only1, not No.1	シアタークリエ	7/13～ 8/13	30
ジャージー・ボーイズ	シアタークリエ	8/10～ 9/30	66
四月は君の嘘	人見記念講堂	8/23～ 9/ 5	17
『レ・ミゼラブル』ワールドツアースペクタキュラー 東京	東急シアターオーブ	8/ 7～ 8/30	32
『レ・ミゼラブル』ワールドツアースペクタキュラー 大阪	大阪フェスティバルホール	9/ 3～ 9/14	17
『レ・ミゼラブル』ワールドツアースペクタキュラー 福岡	福岡サンパレス	9/18～ 9/20	4
『レ・ミゼラブル』ワールドツアースペクタキュラー 愛知	愛知県芸術劇場ホール	9/24～ 9/28	8
ONCE	日生劇場	9/ 9～ 9/28	27
舞台のだめカンターピレコンサート	東京ガーデンシアター	9/13～ 9/15	5
エリザベート	東急シアターオーブ	10/10～11/29	65
舞台 SPY×FAMILY	ウェスタ川越	9/20～ 9/28	10
舞台 SPY×FAMILY	日生劇場	10/ 7～10/28	29
マタハリ	東京建物 Brillia HALL	10/ 1～10/14	18
エノケン	シアタークリエ	10/ 7～10/26	25
CLUB SEVEN another place II	有楽町よみうりホール	10/ 4～10/14	14
バグダッドカフェ	シアタークリエ	11/ 2～11/23	27
Yuichiro&Friends 2	シアタークリエ	11/28～12/ 5	11
十二国記	日生劇場	12/ 9～12/29	27
グディ・ロング・レッグズ	シアタークリエ	12/12～12/31	24
キャッシュ・オン・デリバリー	シアターミラノ座	12/ 5～12/21	21
舞台 ハリー・ポッターと呪いの子	TBS赤坂ACTシアター	1/ 1～12/31	301
		計	1,274

※中止公演は除く

2025年 宝塚歌劇上演記録

演劇年鑑 2026

会場・劇場	組	上演作品	公演期間	公演回数
宝塚大劇場	宙	『宝塚110年の恋のうた』『Razzle Dazzle』	1/ 1～ 2/ 2	44
	雪	『ROBIN THE HERO』『オーヴァチュア!』	3/12～ 4/13	44
	星	『阿修羅城の瞳』『エスペラント!』	4/19～ 6/ 1	56
	花	『悪魔城ドラキュラ』『愛, Love Revue!』	6/ 7～ 7/20	57
	月	『GUYS AND DOLLS』	7/26～ 9/ 7	55
	宙	『PRINCE OF LEGEND』『BAYSIDE STAR』	9/13～10/26	57
	雪	『ポー・ブランメル〜美しすぎた男〜』『Prayer〜祈り〜』	11/ 1～12/14	57
		小計		370
東京宝塚劇場	月	『ゴールデン・リパティ』『PHOENIX RISING』	1/25～ 3/ 9	56
	宙	『宝塚110年の恋のうた』『Razzle Dazzle』	3/15～ 4/27	56
	雪	『ROBIN THE HERO』『オーヴァチュア!』	5/ 3～ 6/22	62
	星	『阿修羅城の瞳』『エスペラント!』	6/28～ 8/10	56
	花	『悪魔城ドラキュラ』『愛, Love Revue!』	8/16～ 9/28	56
	月	『GUYS AND DOLLS』	10/ 4～11/16	56
	宙	『PRINCE OF LEGEND』『BAYSIDE STAR』	11/22～2026/ 1/ 4	49
		小計		391
宝塚バウホール	星	『にぎたつの海に月出づ』	1/24～ 2/ 4	17
	花	『儂き星の照らす海の果てに』	3/21～ 4/ 3	18
	月	『Twinkle Moon』	5/10～ 5/23	17
	雪	『ステップ・バイ・ミー』	8/19～ 8/31	18
	星	『アレクサンダー』	9/30～10/12	18
梅田芸術劇場メインホール	花	『Goethe!』	12/ 1～12/11	15
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙	『RED STONE』	7/10～ 7/15	8
	花	『DEAN』	11/17～11/23	10
KAAT神奈川芸術劇場	雪	『FORMOSA!!』	1/ 8～ 1/13	8
	宙	『RED STONE』	6/20～ 6/29	14
東急シアターオーブ	宙	『ZORRO THE MUSICAL』	6/14～ 7/ 3	26
東京建物BrilliaHALL	星	『アレクサンダー』	10/21～10/27	10
東京国際フォーラム ホールC	花	『Goethe!』	11/16～11/24	12
日本武道館	星	『ANTHEMーアンセムー』	1/18～ 1/21	5
日本青年館ホール	花	『DEAN』	12/ 3～12/11	12
御園座	雪	『An American in Paris』	8/14～ 9/ 4	27
博多座	花	『マジシャンの憂鬱』『Jubilee』	3/ 8～ 3/30	30
全国ツアー	月	『花の業平』『PHOENIX RISING』	4/28～ 5/27	30
	星	『ダンサ セレナータ』『Tiara Azul -Destino- II』	9/27～10/24	32
		小計		327
		総合計		1,088

※貸切を含む
※中止公演は除く

2025年劇団四季上演記録

	上演作品	会場	公演期間	公演回数
				<small>(5年間の公演回数)</small>
東京	『アナと雪の女王』	JR東日本四季劇場[春]	21/ 6/24～27/ 1/17	324/1437
	『バック・トゥ・ザ・フューチャー』	JR東日本四季劇場[秋]	25/ 4/ 6～ロングラン上演	240
	『赤毛のアン』	自由劇場	24/12/ 3～25/ 2/16	44/68
	『王子と少年』	自由劇場	25/ 3/ 7～25/ 4/ 2	28
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』	自由劇場	25/ 7/26～25/ 8/29	36
	『恋におちたシェイクスピア』	自由劇場	25/11/23～26/ 2/ 8	35
	『アラジン』	電通四季劇場[海]	15/ 5/24～ロングラン上演	305/3083
	『ライオンキング』	有明四季劇場	21/ 9/26～ロングラン上演	328/1369
	『美女と野獣』	舞浜アンフィシアター	22/10/23～26/ 3/15～	295/1006
	『ジャック・オー・ランド ～ユーリと魔物の笛～』ニッセイ名作シリーズ	日生劇場	25/ 6/10～25/ 7/18	37
	小計			1672
大阪	『ウィキッド』	大阪四季劇場	24/ 8/15～25/ 7/ 6	169/298
	『ゴースト&レディ』	大阪四季劇場	25/12/ 7～26/ 5/17	22
	小計			191
京都	『赤毛のアン』	京都劇場	25/10/ 4～25/11/24	48
	小計			48
名古屋	『バケモノの子』	名古屋四季劇場	24/ 9/11～25/ 2/ 9	36/137
	『ゴースト&レディ』	名古屋四季劇場	25/ 5/11～25/ 8/31	105
	『マンマ・ミーア!』	名古屋四季劇場	25/10/19～26/ 2/23	68
	小計			209
福岡	『オペラ座の怪人』	キャナルシティ劇場	25/ 9/15～26/ 4/ 5	100
	小計			100
広島	『キャッツ』	上野学園ホール	24/11/11～25/ 2/23	52/98
	小計			52
仙台	『キャッツ』	東京エレクトロンホール宮城	25/ 5/ 6～25/ 8/20	99
	小計			99
全国	『赤毛のアン』全国公演	68都市	25/ 3/29～25/ 9/26	95
	『ガンバの大冒険』全国公演	12都市/通算45都市	24/ 4/13～25/ 3/23	13/48
	『ガンバの大冒険』こころの劇場	20都市/通算66都市	24/ 4/16～25/ 3/10	40/231
	『ふたりのロchette』全国公演	21都市/通算29都市	24/ 9/21～25/ 8/30	23/31
	『ふたりのロchette』こころの劇場	57都市/通算77都市	24/ 9/24～25/ 8/29	128/166
	『王子と少年』全国公演	26都市	25/ 4/19～	30
	『王子と少年』こころの劇場	50都市	25/ 4/23～	183
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』全国公演	9都市	25/ 9/20～	9
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』こころの劇場	17都市	25/ 9/24～	43
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』日産労連チャリティー公演	18都市	25/11/19～25/12/23	18
	小計			582
総合計				2953回

※貸切含む。※中止公演は除く。



公益社団法人日本演劇協会

Japan Theatre Arts Association (JTAA)

当会は1920年（大正9年）に菊池寛・山本有三両氏を中心として組織された「劇作家協会」を母体とし、1951年（昭和26年）4月に設立されました。2013年（平成25年）4月には内閣府より公益社団法人の認可を受け、演劇（劇放送を含む）の向上発展を図り、芸術及び文化の高揚に寄与するとともに演劇関係者の社会的地位の確立を目的とし活動しています。

～沿革～

- ・1920年（大正9年）
菊池寛・山本有三両氏を中心に「劇作家協会」が組織される
- ・1941年（昭和16年）
久保田万太郎・高田保を中心に「（第一次）日本演劇協会」が設立される
- ・1945年（昭和20年）
第二次世界大戦終戦と同時に解散
- ・1946年（昭和21年）
新たに「劇作家組合」として組織される
- ・1951年（昭和26年）4月
「（第二次）日本演劇協会」と改称
- ・1953年（昭和28年）12月
「社団法人」の認定を受け、「一般社団法人日本演劇協会」となる
- ・2013年（平成25年）4月
内閣総理大臣より「公益社団法人」の認定を受け、現在に至る

～歴代会長～

- | | |
|------------|---------------------------|
| 初代：久保田 万太郎 | 1951年（昭和26年）～1963年（昭和38年） |
| 二代：北條 秀司 | 1964年（昭和39年）～1993年（平成5年） |
| 三代：河竹 登志夫 | 1993年（平成5年）～2007年（平成19年） |
| 四代：植田 紳爾 | 2007年（平成19年）～ |

演劇年鑑

2025



日本演劇協会監修発行

演劇お勉強会 **ケッ勉!**



〒104-0045東京都中央区築地4-1-1東劇ビル17階

info@jtaa.or.jp

Tel : 03-3541-2025 / FAX : 03-3541-2026

謝 辞

当年鑑が、今日この様に上梓出来ましたのは、ひとえに下記の皆様からのご支援・ご協力の賜物と心より感謝致しております。ここに皆様を列記し、衷心より謝意を表するものでございます。誠に有り難うございました。

「悲劇喜劇」「宝塚GRAPH」「歌劇」、記載主要劇場・各公演団体の事業部・広報部・宣伝部・制作部

公益社団法人 日本演劇協会 令和7年度役員

会 長
植 田 紳 爾

専務理事
安孫子 正 池 田 篤 郎 織 田 紘 二 糟 谷 治 男

理 事
石 井 ぶく子 大 木 晃 弘 大和田 文 雄 岡 崎 哲 也
金 井 勇一郎 観 世 清 和 栗 山 民 也 小 池 修 一 郎
齋 藤 雅 文 丹 野 郁 弓 中 嶋 正 留 坂 東 玉 三 郎
松 本 白 鸚 水 落 潔 水 谷 八 重 子 宮 田 慶 子
山 根 成 之 横 溝 幸 子

監 事
齋 藤 讓 一 齋 藤 芳 朗

(五十音順)